

第5回第2期松原市教育振興基本計画策定委員会（資料4－1）

# 第2期松原市教育振興基本計画（素案）

（06.30 案）

令和6年 月

松原市教育委員会



# 目 次

第1章 計画の策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付けと期間	2
3 計画策定の背景	4
4 計画策定の経過	12
第2章 本市の教育の状況	13
1 統計データからみえる本市の現状	13
2 松原市教育振興基本計画（後期計画）令和2年度～令和5年度の振り返り	26
Ⅰ 未来を拓く人づくり ～子どもの教育～	26
Ⅱ 自立心を育む人づくり ～社会教育～	40
3 第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査結果及び松原市の教育に関する計画を作るためのアンケート（子どもアンケート）から見える本市の状況	47
4 松原市教育振興基本計画（後期計画）の総括	73
第3章 松原市教育大綱及び施策の体系について	74
1 松原市教育大綱	74
2 施策の体系	78
第4章 計画の内容	81
1 計画の見方	81
2 施策の展開	82
基本方針1 「確かな学力」の向上を図るとともに「生きる力」を育みます	82
基本方針2 安心・安全に学ぶことができる学校園づくりを推進します	95
基本方針3 学びや育ちを支えるための地域における協働の取組みを推進します	102
基本方針4 郷土への愛着を深めるとともに 誰もが学び続けられる機会を提供します	107
3 第2期松原市教育振興基本計画の総括	113
第5章 計画の推進	114
資料編	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	
指標一覧	
用語集（再掲）	



## 1 計画策定の趣旨

本市では、平成28年5月、教育に関する施策の根本となる方針を定めた「松原市教育大綱」を策定し、この教育大綱を具体化していくために必要な計画として、「松原市教育振興基本計画（前期計画）」（以下「前期計画」という。）を策定しました。令和2年7月には「松原市教育振興基本計画（後期計画）」（以下「後期計画」という。）を策定し、「未来を拓く自立心を育む人づくり」を基本理念に掲げたこの計画に基づき、各施策、事業などを総合的かつ計画的に推進してきました。

この間、少子高齢化やグローバル化、絶え間ない技術革新等、社会情勢が急速に変化する予測困難な時代となってきています。また、新型コロナウイルス感染症が全世界で流行（パンデミック）し、日本においても未知のウイルスの感染拡大とそれへの対応を余儀なくされることとなりました。そのような中、子どもたちの「生きる力」をさらに伸ばし、社会の激しい変化に対応し、自立して主体的に社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造できる力を育むことが重要になっています。

国は、教育基本法の理念を踏まえ、令和5年6月に「第4期教育振興基本計画」を策定し、総括的な基本方針として2040年以降の社会を見据えた「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げ、「①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」「②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」「③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」「④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進」「⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話」からなる5つの基本的方向性を位置づけ、明確な成果目標の設定とそれを実現するための方策を示す計画を策定しました。

また、大阪府においても国の計画を参酌し、令和5年3月に3つの「大阪の教育がはぐくむ人物像」に向けた人づくりと7つの「基本方針」を掲げた「第2次大阪府教育基本計画」を策定し、学校・家庭・地域が互いに連携し、大阪の教育力向上に向けた取組みを推進しています。市では一人一台タブレット端末を効果的に活用した「主体的対話的で深い学び」につながる授業づくりと学力の向上、子どもの内面を丁寧に把握することを基本とした、安心できる子どもの居場所にこだわった生徒指導、一人ひとりの生き方について考えるキャリア教育、学校運営協議会（コミュニティ・スク

ール)を基盤とした地域とともに進める安心安全な学校づくりについて重点的に取り組んできました。

今般、松原市第5次総合計画、国・府の教育振興基本計画、社会・経済情勢などの変化と松原市教育大綱の修正を踏まえ、後期計画の方向性を継承しながら、振り返りを行いました。加えて市民ニーズなどを把握した上で、就学前・学校教育、社会教育を通じて、次世代の人材育成をさらに進め、ウェルビーイングの向上を図り、魅力ある教育環境の実現のため、「第2期松原市教育振興基本計画」を策定しました。

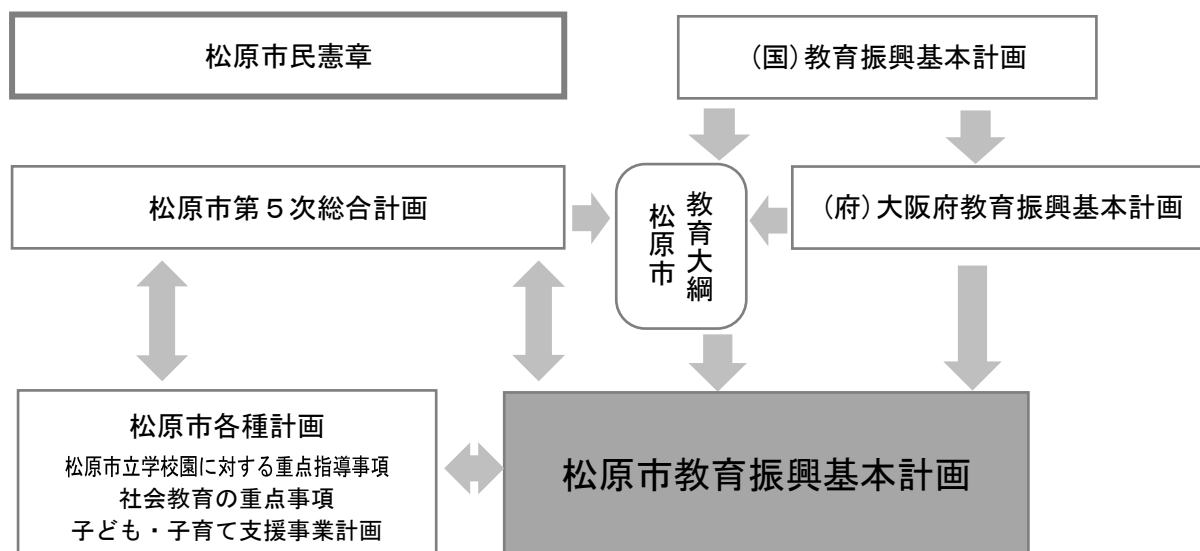
## 2 計画の位置付けと期間

### (1) 計画の位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、「地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置づけるものです。

また、本計画は、「松原市第5次総合計画」を上位計画とし、松原市教育大綱を踏まえた計画とするとともに、各関連計画との整合性を図るものとします。

教育振興基本計画の位置付け



## (2) 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度(2024年度)から令和10年度(2028年度)までの5年間とします。なお、教育関係法令の改正や社会情勢の変化など必要に応じて見直しを行うこととします。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
松原市 総合計画	第5次									
松原市 教育大綱										
松原市 教育振興 基本計画	前期計画	後期計画			第2期					

### 3 計画策定の背景

---

#### (1) - 1 国の動向

---

##### ① 教育基本法の改正

科学技術の進歩、情報化、国際化、少子高齢化など、我が国の教育をめぐる状況が大きく変化したことから、平成18年(2006年)12月、教育基本法が約60年ぶりに全面的に改正されました。

改正教育基本法では、それまで掲げられてきた普遍的な理念は大切にしつつ、今日求められる教育の目的や理念、教育の実施に関する基本を定めるとともに、国及び地方公共団体の責務を明らかにし、教育振興基本計画を定めることなどについて規定しています。

##### ② 教育三法の改正

平成19年(2007年)6月に改正された学校教育法では、改正教育基本法の理念を踏まえ、新たに義務教育の目標を定めるとともに、幼稚園から大学まで各学校種の目的・目標を見直しました。また、学校に副校長等の新しい職を置くことについての規定や、学校評価と情報提供に関する規定が整備されました。

教育職員免許法及び教育公務員特例法の改正では、教員免許更新制度を導入し、併せて、指導が不適切な教員の人事管理の厳格化がなされました。

平成26年(2014年)6月には、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正が行われ、教育行政の責任体制を明確化するため、教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者としての新「教育長」を置くこととされました。また、市長が教育委員会と協議・調整する場として総合教育会議を設置するほか、教育に関する大綱も市長が教育委員会と協議して策定することとされました。

##### ③ いじめの防止等のための基本的な方針の改定

平成25年(2013年)6月「いじめ防止対策推進法」が公布され、平成29年(2017年)3月に「いじめの防止等のための基本的な方針」が改定され、いじめの定義を限定的に解釈してはならないことなどについて見直されました。あわせていじめの重大事態への対応について、学校の設置者及び学校における法、基本方針等に則った適切な調査の実施に資するため、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」も策定されました。

「いじめ防止対策推進法」では、地方公共団体に対しては、国の「いじめ防止基本方針」を参酌し、その地域の実情に応じた基本的な方針の策定に努めることが規定されました。また、学校に対しても、その学校の実情に応じた基本的な方針の策定を求められました。



#### ④ 新たな地方教育行政制度の開始

平成27年(2015年)4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(以下「改正法」という。)」が施行されました。改正法では教育の政治的中立、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化を図ることなど、制度の抜本的改革を行うものとなりました。また、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることが規定されました。

平成29年(2017年)4月に施行された改正法では、平成27年(2015年)12月に取りまとめられた中央教育審議会答申「新しい時代の教育と地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」を踏まえ、学校運営協議会の設置の努力義務化やその役割の充実などが規定されました。学校運営協議会の設置により、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、保護者や地域住民・学校が情報や課題を共有し、共通の目標・ビジョンを描きながら、「コミュニティ・スクール」の取組を積極的に進めていくことが求められています。

## ⑤ グローバル化の進展とSDGs

経済活動が地球規模に広がり、私たちの生活は、海外の国や地域で起こる事象に、様々な形で影響を受けるようになっていきます。インターネットを通じたコミュニケーションが広く普及した現在、個人のレベルでも、距離や時間的な隔たりを乗り越え、文化的な背景や言語の異なる人々と交流する機会が、飛躍的に拡大しました。こうした社会の急速なグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であることから、とりわけ英語教育の充実とともに、異なる文化を理解し尊重する態度を身につける必要があります。

これまで成長一辺倒だった社会の価値観に対して、持続可能性という考え方が重視されるようになっていきます。国は平成28年（2016年）に「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定し、持続可能で強靱な、誰一人取り残さない、誰一人取り残されない社会の実現に向けた取組みを推進しています。

SDGsの17の目標を示したロゴ



## ⑥ 学習指導要領の改訂・全面实施

平成29年(2017年)3月に学習指導要領等が改訂され、幼稚園等就学前教育・保育については平成30年度(2018年度)から、小学校では令和2年度(2020年度)から、中学校では令和3年度(2021年度)から全面实施されました。

改訂にあたっては、これまで大切にされてきた、子どもの「生きる力」を育むために、社会の変化を見据え、新たな学びへと進化をめざすものとなっています。具体的には、新しい時代を生きる子どもに必要な力を、「実際の社会や生活で生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」、「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力として整理されました。また、学校においては社会とのつながりを意識した「社会に開かれた教育課程」を編成するとともに、組織的かつ計画的に教育課程の質の向上を図っていく「カリキュラム・マネジメント」が求められています。

## ⑦ 人生100年時代の到来

医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命が著しく伸長し、100歳前後まで生きることが可能となる時代の到来が予想されています。平成29年(2017年)12月に取りまとめられた「人生100年時代構想会議中間報告」においては「100年という長い期間をより充実したものとするためには、生涯にわたる学習が必要である」ことなどが述べられており、生涯学習の重要性が一層高まっています。

## ⑧ 第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画の策定

平成30年(2018年)4月に、第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画が策定され、主な方策として、「家庭での読書の習慣付けの重要性の理解促進」、「学習指導要領を踏まえた読書活動の推進」、「読書習慣の形成、読書の機会の確保」、「学校図書館の整備・充実」、「図書館資料、施設等の整備・充実」、「図書館における子供や保護者を対象とした取組の企画・実施」、「司書・司書補の適切な配置・研修の充実」、「学校図書館やボランティア等との連携・協力」などが示されました。

## ⑨ 働き方改革の促進

平成31年(2019年)1月に、中央教育審議会において、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」の答申がなされ、教職員の勤務時間管理の徹底や業務の明確化・適正化等、学校における働き方改革の総合的な推進についての提言がなされました。この答申を受け、学校における働き方改革を推進し、その実効性を高めるため、文部科学省に、「学校における働き方改革推進本部」が設置され、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が策定されました。

## ⑩ 学校教育法等の改正

平成28年(2016年)4月に「学校教育法等の一部を改正する法律(以下「改正法」という。)」が施行されました。改正法では小中一貫教育を行う新たな学校を「義務教育学校」と規定し、「5・4」制や「4・3・2」制など、9年間を見通した教育課程の編成を設置者の判断で柔軟に行うことが可能となりました。

また、平成31年(2019年)4月に施行された改正法では小・中・高等学校等の教育課程の一部において、紙の教科書に代えて「デジタル教科書」を使用できるようになりました。また、視覚障害等により紙の教科書を使用して学習することが困難な児童生徒に対しては、すべての教育課程で、「デジタル教科書」を使用できるようになりました。

## ⑪ 子ども・子育て支援法の一部改正(幼児教育・保育の無償化)

令和元年(2019年)10月に「子ども・子育て支援法の一部を改正する法律」が施行されました。この法改正は急速な少子化の進行並びに幼児期の教育及び保育の重要性に鑑み、総合的な少子化対策を推進する一環として、子育てを行う家庭の経済的負担の軽減を図るため、幼児期の教育・保育等を行う施設等の利用に関する給付制度を創設するなどの措置を講ずるものとしています。

この法改正に基づき、主に認定こども園、幼稚園、保育所等を利用する3歳から5歳までの子どもと、住民税非課税世帯の0歳から2歳までの子どもの利用料が無償化されました。

## ⑫ 新型コロナウイルス等の感染症や自然災害等のリスクを踏まえた学びの継続

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行は、人々の生命や健康に対する重大な脅威となっただけではなく、日本でも令和2年(2020年)4月7日には「緊急事態宣言」が発出され、外出自粛やイベント開催・施設使用の制限等、国民生活や経済にも大きな影響を与えました。

その後、すべての地域で「緊急事態宣言」が解除されましたが、引き続き感染拡大防止対策等に取り組みながら、「新しい生活様式\*」に対応した社会活動等が求められています。

また、今世紀前半にも南海トラフ地震の発生が懸念されているなど巨大地震や風水害等の災害リスクの高まりも懸念されています。

このように今後様々な危機的状況が想定される中でも、持続的な学校運営や生涯学習・社会教育の学習機会の確保など、出来る限り様々な教育活動が継続できるような取組みが求められています。

### ⑬ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

令和3年(2021年)1月に中央教育審議会において、社会のあり方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など「予測困難な時代」、社会全体のデジタル化・オンライン化など急激に変化する時代の中で、育むべき資質・能力の育成のため、改訂された学習指導要領を着実に実施すること、また、ICTの活用により一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると示されました。

そして、めざすべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」とすることが示されました。

### ⑭ 特別支援教育に係る法改正等

令和3年(2021年)6月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律(医療的ケア児支援法)」が可決されました。その中で、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関し、基本理念を定め、国、地方自治体等の責務が明文化されました。各自治体は、学校園所等で、医療的ケア児に対する適切な支援を行うとともに、保育・教育を行う体制の拡充が図られるよう学校等に対する支援、その他の必要な措置を講ずることが求められています。

### ⑮ AIやビッグデータ、ロボット等の先端技術を活用するSociety5.0の進展

令和12年(2030年)頃には、第4次産業革命ともいわれる、IoTやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変える「超スマート社会(Society5.0)」の到来が予想され、超スマート社会を生き抜く国力、求められる人材も変わるとともに、人々の働き方や市民生活への影響も大きいと考えられています。

また、教育分野においても「数理・データサイエンス・AI教育プログラム制度(リテラシーレベル)」など急速にAIの活用が加速し始めています。

今後、AIの活用により、子ども一人ひとりに合わせた学習プログラムの提供や教師の負担の減少など期待される一方、物事を解決する方法を考える力など能動的に物事を考える力が失われてしまう可能性もあり、学校教育に沿ったAIの利活用が必要となります。

## (1) - 2 国の計画の動向

---

### ① 「第4期教育振興基本計画」の策定

国は、令和5年6月に中央教育審議会の答申に基づき、教育基本法第17条に基づく「第4期教育振興基本計画」が策定されました。

#### 【総括的な基本方針・コンセプト】

##### ◆2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・ 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・ 社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・ Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

##### ◆日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- ・ 多様な個人それぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
- ・ 幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む・日本発の調和と協調 (Balance and Harmony) に基づくウェルビーイングを発信

#### 【5つの基本的な方針】

1. グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
2. 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
3. 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
4. 教育デジタルトランスフォーメーション (DX) の推進
5. 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

## (2) 大阪府の計画の動向

---

### ① 「第2次大阪府教育振興基本計画」「前期事業計画」の策定

大阪府は、「大阪府教育行政基本条例」に基づき、大阪の子どもたちが、大きく変化する社会の中で、時代の変化を乗り越えるとともに、将来を生き抜く力を身につけられるよう、3つの「大阪の教育がはぐくむ人物像」に向けた人づくりをすすめるとともに、7つの「基本方針」を掲げ、教育に関与するすべての者が総力をあげて大阪の教育の振興に取り組むため、令和14(2032年度)を目標とする「第2次大阪府教育振興基本計画」を令和5(2023年)3月に策定しました。

#### 【大阪の教育がはぐくむ人物像】

- ◆人生を自ら切り拓いていく人
- ◆認め合い、尊重し協働していく人
- ◆世界や地域とつながり社会に貢献していく人

#### 【基本方針】

- ①確かな学力の定着と学びの深化
- ②豊かな心と健やかな体の育成
- ③将来をみすえた自主性・自立性の育成
- ④多様な主体との協働
- ⑤力と熱意を備えた教員と学校組織づくり
- ⑥学びを支える環境整備
- ⑦私立学校の振興

基本計画の目標の実現に向け、新たな教育課題や、国の「第4期教育振興基本計画について(答申)」も踏まえつつ、令和5(2023)年度から令和9(2027)年度の5か年で実施すべき具体的な取組みをまとめた前期事業計画を策定し、学校・家庭・地域が互いに連携し、大阪の教育力向上に向けた取組みを推進しています。

## 4 計画策定の経過

---

### (1) 市民意識調査、子どもアンケート調査の実施

---

この計画を策定するに際して、令和4年10月に、教育や生涯学習、文化活動などに対する意識・ニーズを的確に反映した松原市在住の市民及び児童学生を対象として、「第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査」、「子どもアンケート調査」を実施しました。

### (2) 「松原市教育振興基本計画策定委員会」による審議

---

計画の立案には、松原市教育振興基本計画策定委員会を中心に、庁内においても教育委員会だけでなく、関連部署との連携を図りながら策定しました。

### (3) パブリックコメントの実施

---

パブリックコメント制度とは、市が策定する施策などの案をよりよいものにするために、市民の皆さんから広く意見を募集し、寄せられた意見を施策などに活かせるか検討し、その結果と市の考え方を公表する制度です。計画の素案に対しパブリックコメントを実施し、本計画策定の際の参考にしました。



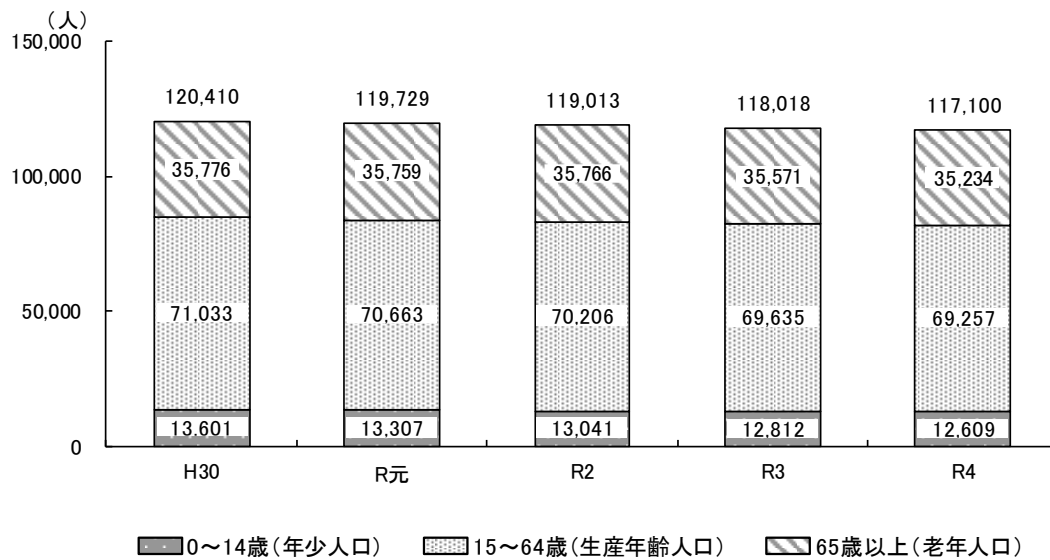
## 第 2 章

# 本市の教育の状況

## 1 統計データからみえる本市の現状

### (1) 人口の推移

松原市の人口は、平成30年から3,310人減少し、令和4年で117,100人となっています。年齢区分別でみると、0～14歳の割合が年々減少傾向にあります。一方、65歳以上の割合は増加しており、少子高齢化が進んでいることが分かります。

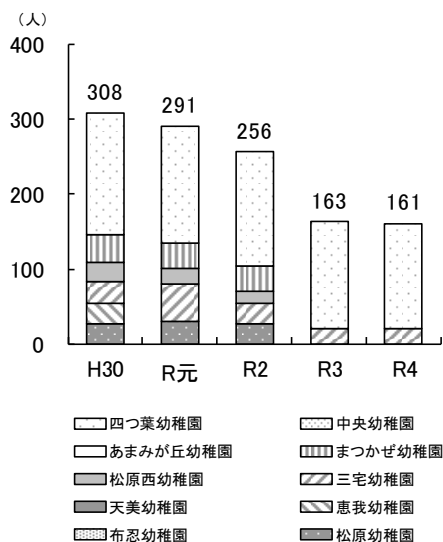


資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

## (2) 市立幼・小・中学校生徒数の推移

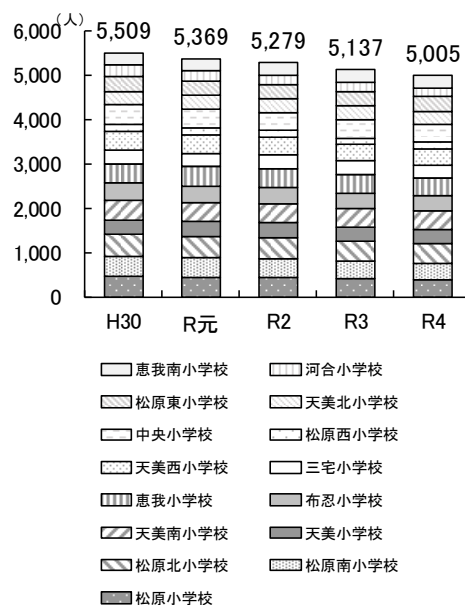
### 【幼稚園】

市立幼稚園生徒数は、平成30年の308人から令和4年の161人に減少しています。



### 【小学校】

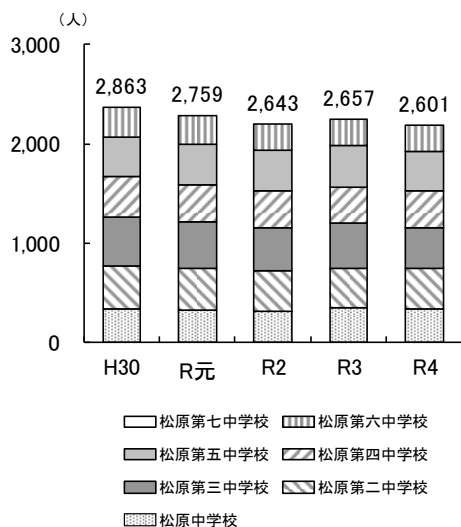
市立小学校生徒数は、平成30年の5,509人から令和4年の5,005人に減少しています。



注：「布忍幼稚園」「天美幼稚園」「あまみが丘幼稚園」「中央幼稚園」が統合され、「四つ葉幼稚園」として平成26年4月に開園した  
 注：恵我幼稚園は、令和元年度より休園中  
 資料：教育委員会教職員課（各年5月1日時点）

### 【中学校】

市立中学校生徒数は、平成30年の2,863人から令和4年の2,601人に減少しています。

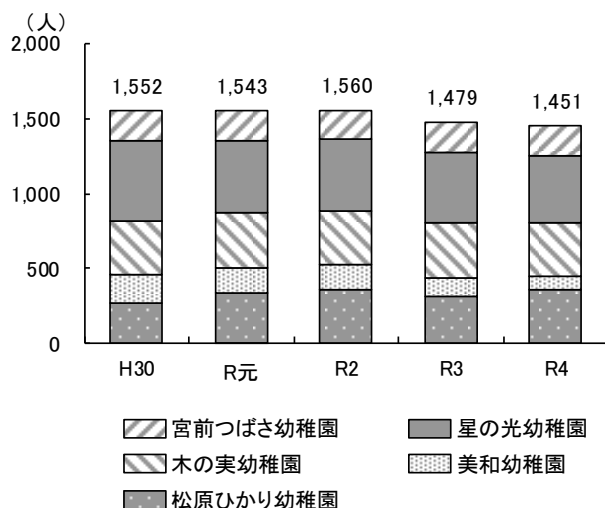


資料：教育委員会教職員課（各年5月1日時点）

### (3) 私立幼稚園の生徒数の推移

#### 【幼稚園】

私立幼稚園生徒数は、令和2年までは増加傾向にありましたが、令和3年以降は減少し、令和4年で1,451人となっています。

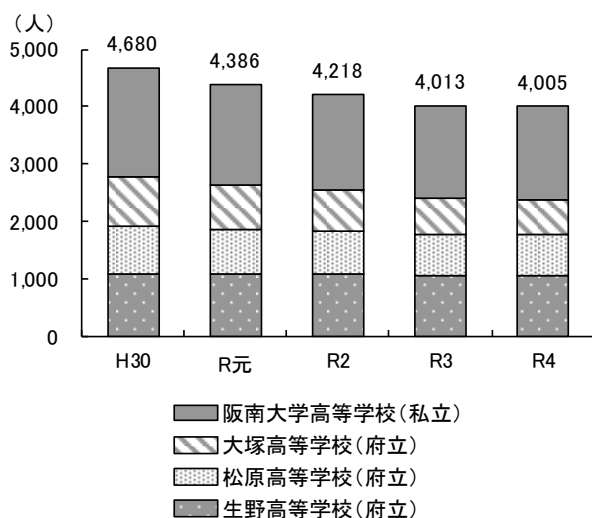


資料：市内各学校・園（各年5月1日時点）

### (4) 私立・府立高校、私立大学の生徒数の推移

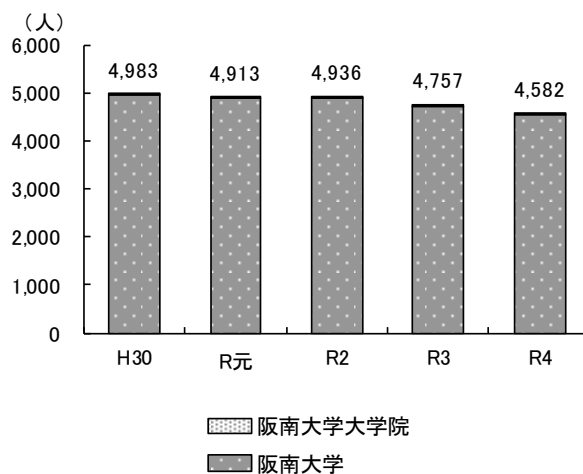
#### 【高等学校】

私立・府立高等学校の生徒数は、平成30年の4,680人から令和4年の4,005人に減少しています。



#### 【大学】

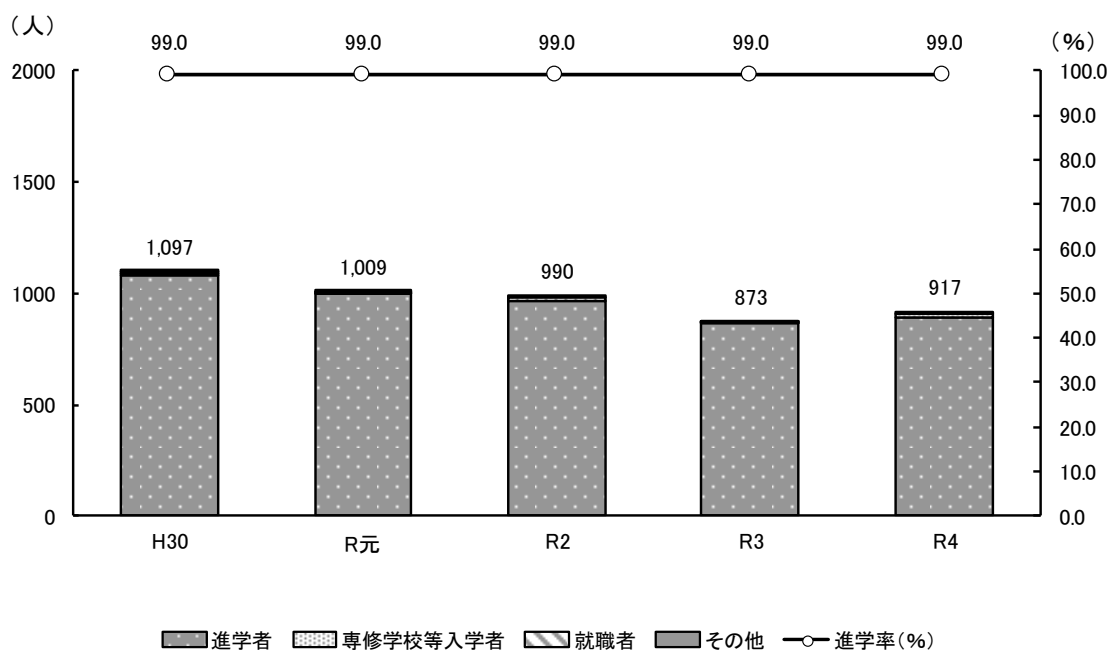
私立大学生徒数は、平成30年の4,983人から令和4年の4,582人に減少しています。



資料：市内各学校・園（各年5月1日時点）

## (6) 中学校の進路別卒業生数

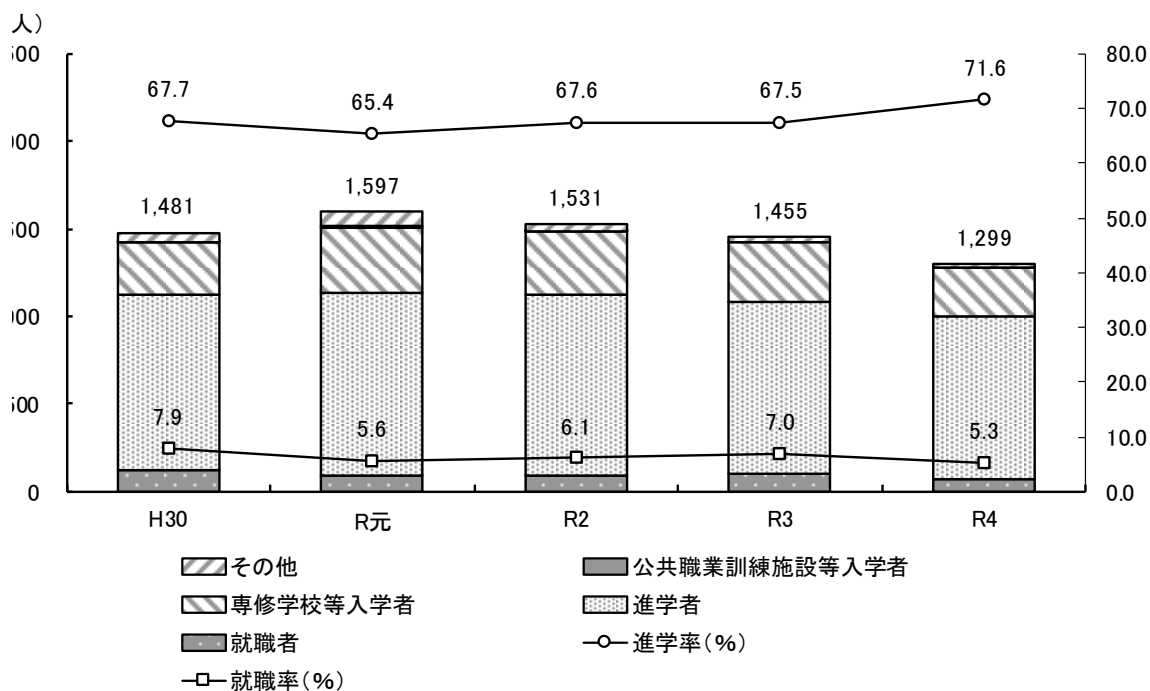
中学校の進学者数は、平成30年の1,097人から令和4年の917人に減少しています。



資料：大阪府総務部等経過「大阪の学校統計」（各年5月1日時点）

## (7) 高等学校の進路別卒業生数

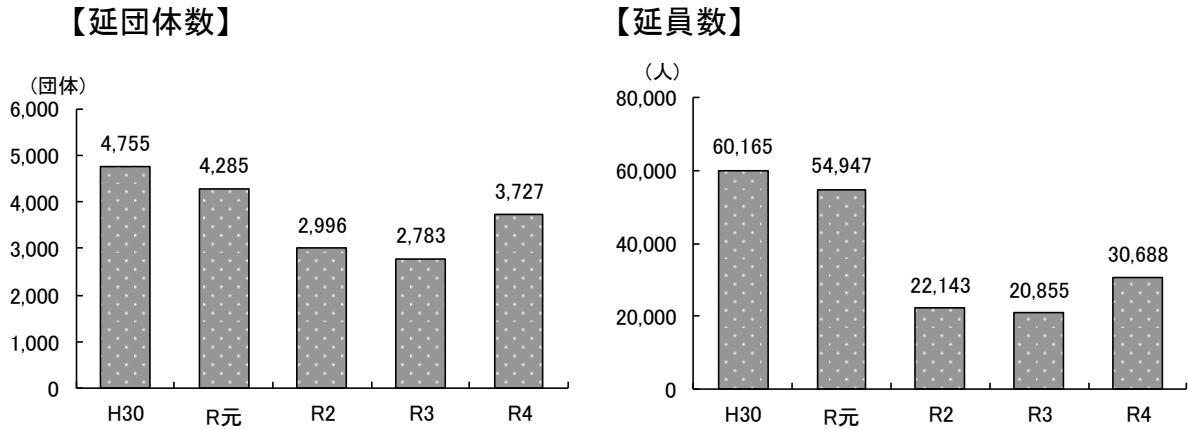
高等学校の進学率は、平成30年の67.7%から令和4年の71.6%に増加しています。



資料：大阪府総務部等経過「大阪の学校統計」（各年5月1日時点）

## (8) 市立公民館の利用状況

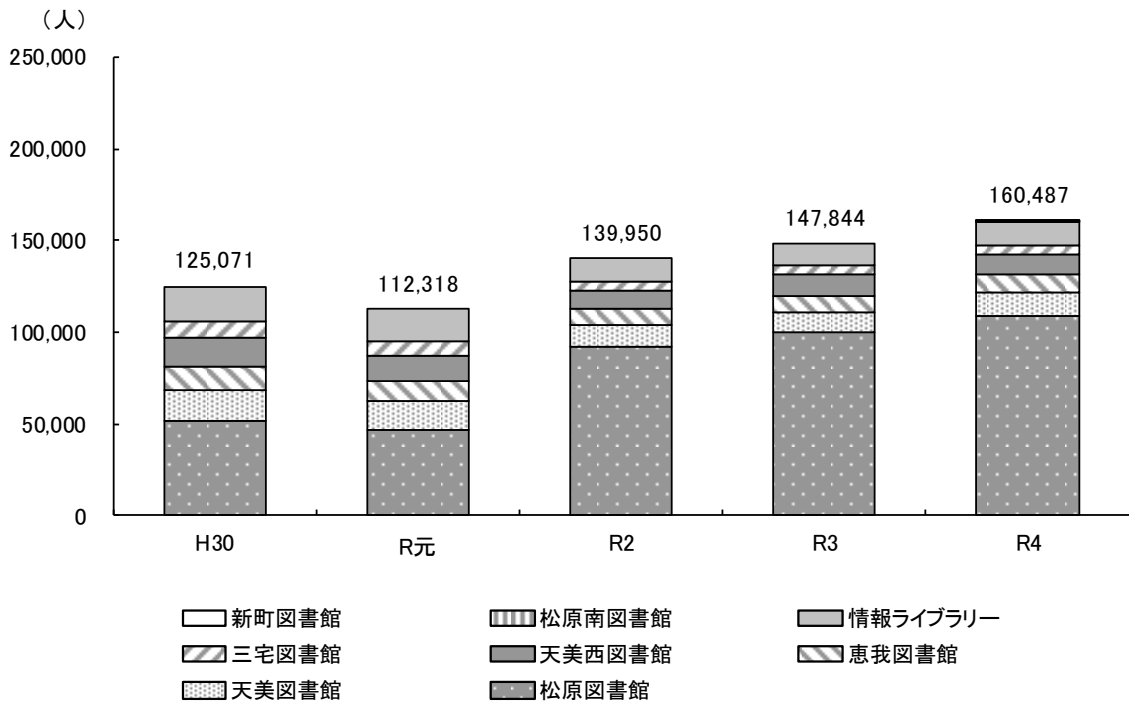
公民館5館の延べ使用団体数は、平成30年の4,755団体から令和3年の2,783団体に減少し、令和4年で3,727団体となっています。公民館の延べ利用者数は、平成30年の60,165人から令和4年の30,688人に減少しています。



資料：いきがい学習課

## (9) 図書館の利用者数

図書館の延べ利用者数は、平成25年の170,051人から令和元年の112,318人に減少していましたが、令和4年には160,487人の増加となりました。

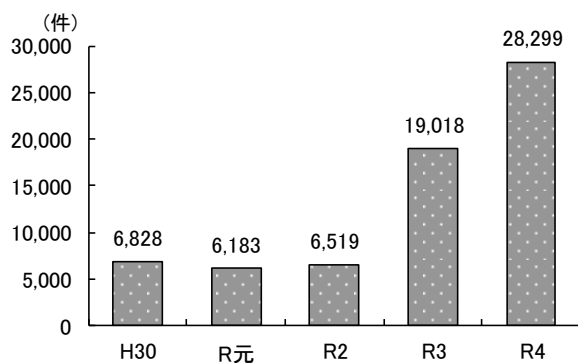


資料：いきがい学習課

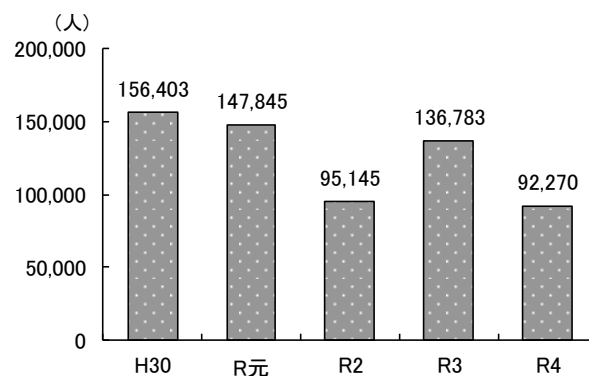
## (10) 市民体育館利用状況

市民体育館の利用件数は、平成30年の6,828人から令和4年の28,299人に増加しています。市民体育館の利用人数は、平成30年から減少傾向にあり、令和4年で92,270人となっています。

【利用件数】



【利用人数】

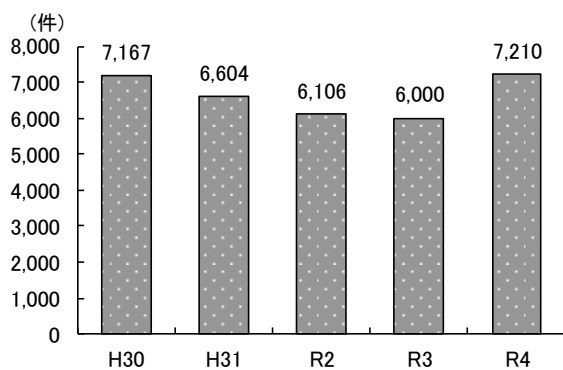


資料：いきがい学習課

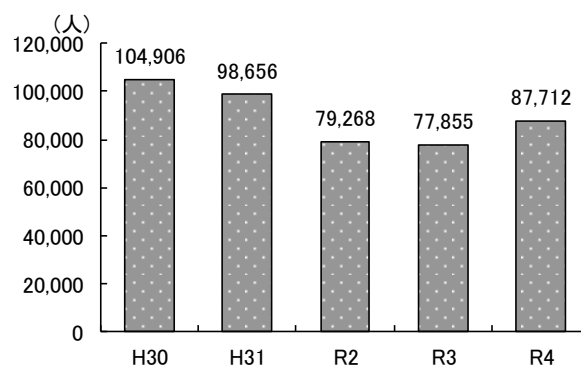
## (11) 市民道夢館利用状況

市民道夢館の利用件数は、平成30年以降減少傾向にありましたが、令和4年は7,210件に増加しています。市民道夢館の利用人数は、平成30年の104,906人から令和4年の87,712人に減少しています。

【利用件数】



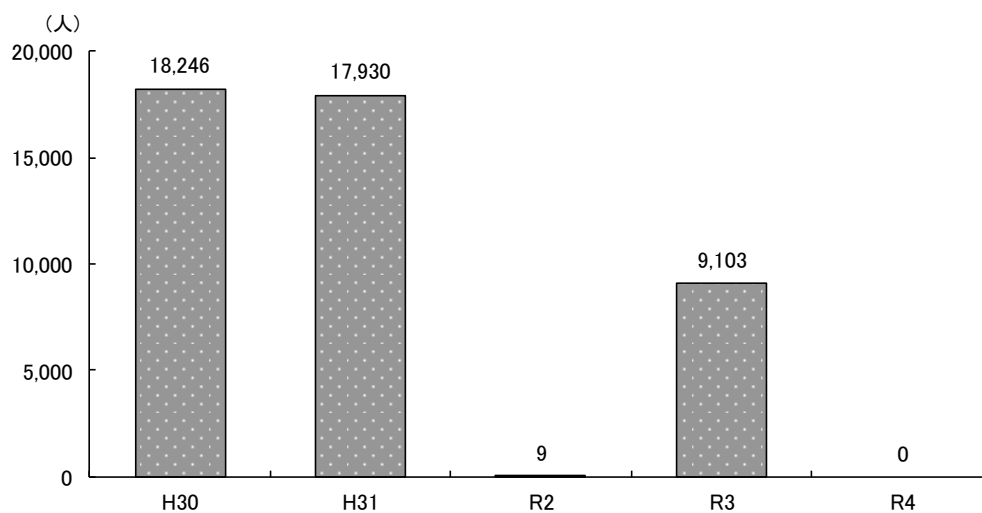
【利用人数】



資料：いきがい学習課

## (12) 松原市少年自然の家利用状況

松原市少年自然の家の利用人数は、平成25年の13,665人から平成31年の17,930人に増加していましたが、令和3年では9,103人となっています。

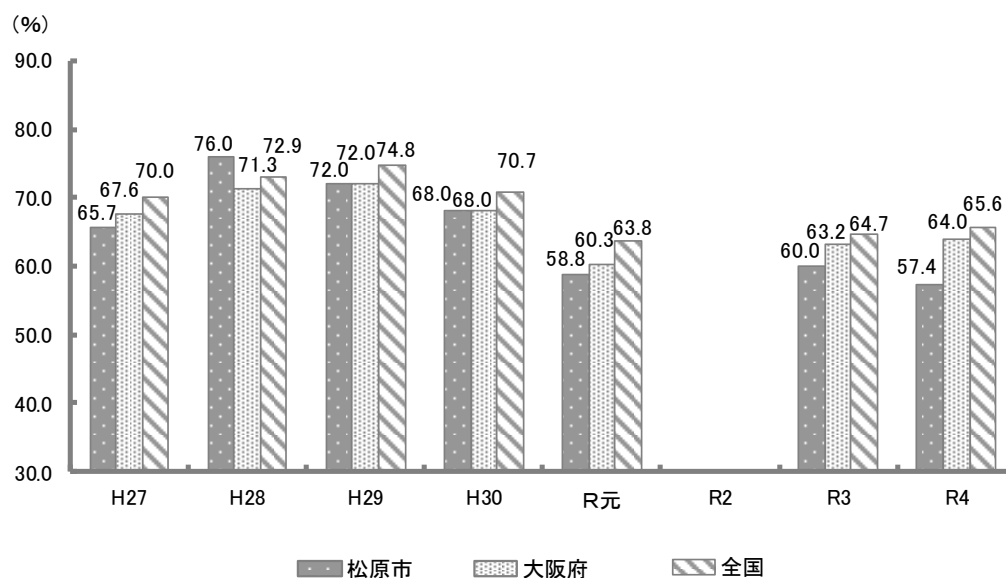


注：令和3年度末より休館  
資料：いきがい学習課

## (13) 全国学力・学習状況調査における平均正答率の推移

### 【小学校・国語A】

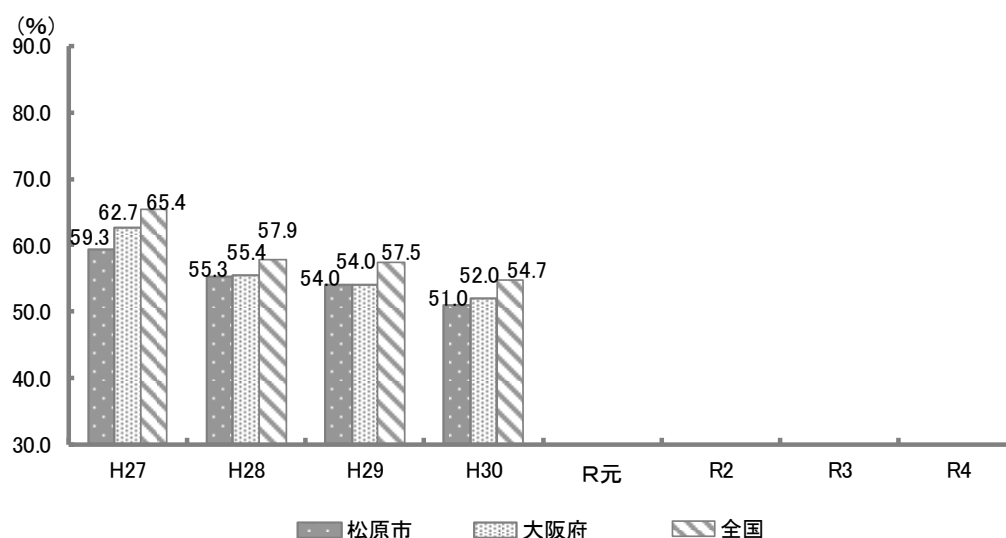
主に基礎・基本的な知識を問われるA問題において、国語Aでは平成28年度に全国、大阪府の平均より上回る水準だったが、平成29年度以降は全国、大阪府と同程度か下回る結果で推移しています。



注：令和2年度については新型コロナウイルス感染症防止のため、小・中学校全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、英語）は未実施  
注：A問題は「主として知識に関する問題」  
資料：全国学力・学習状況調査

### 【小学校・国語B】

国語Bは、大阪府の平均との差は縮まっているものの、全国平均を下回る水準で推移しており、活用する力が課題となっています。

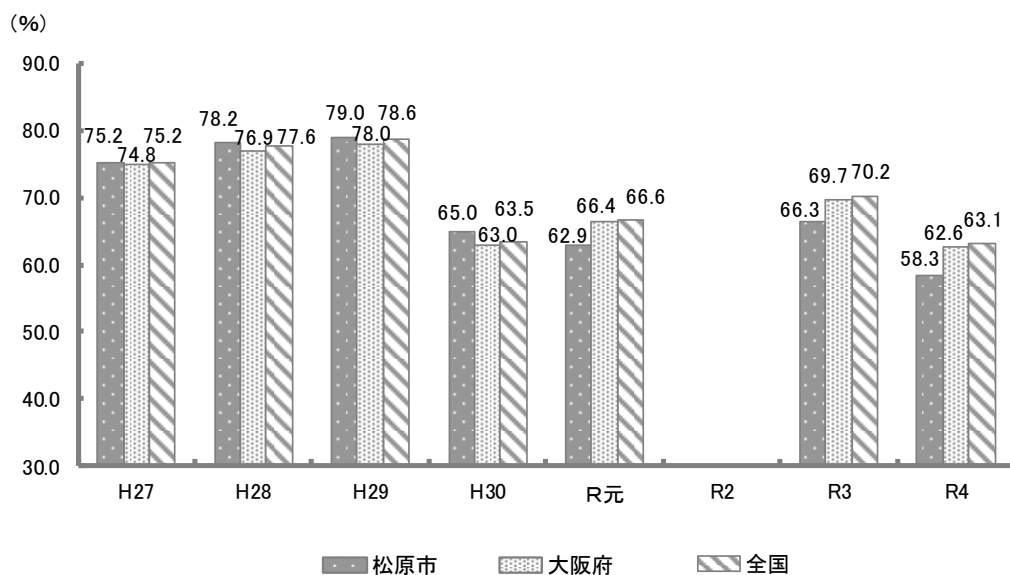


注：B問題は「主として活用に関する問題」  
注：令和元年度より、A問題とB問題は統合  
資料：全国学力・学習状況調査



### 【小学校・算数A】

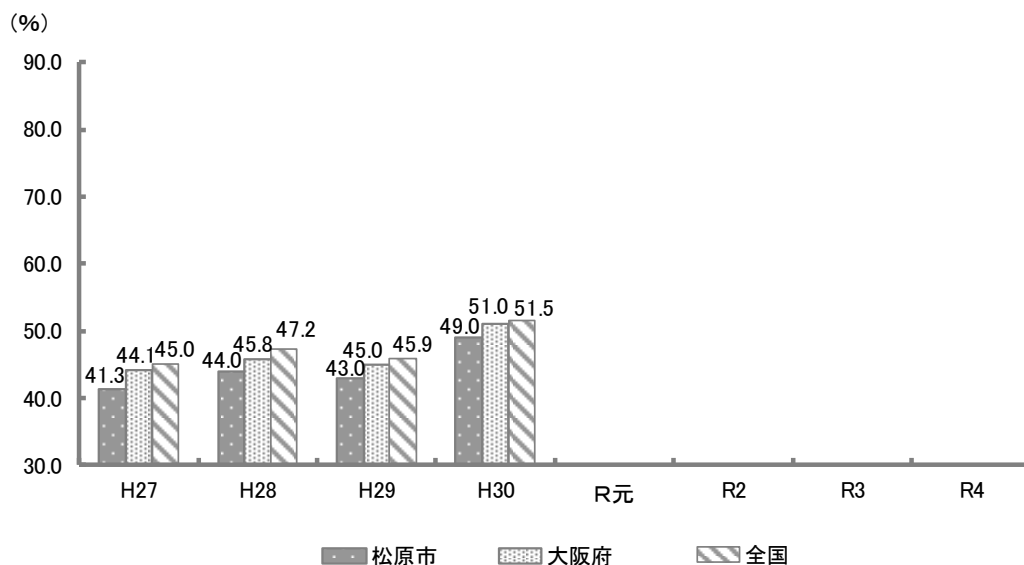
算数Aでは、平成27年度以降、全国平均と同程度か上回る結果となっているが、令和4年度は、全国平均、大阪府平均を下回りました。



注：令和2年度については新型コロナウイルス感染症防止のため、小・中学校全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、英語）は未実施  
資料：全国学力・学習状況調査

### 【小学校・算数B】

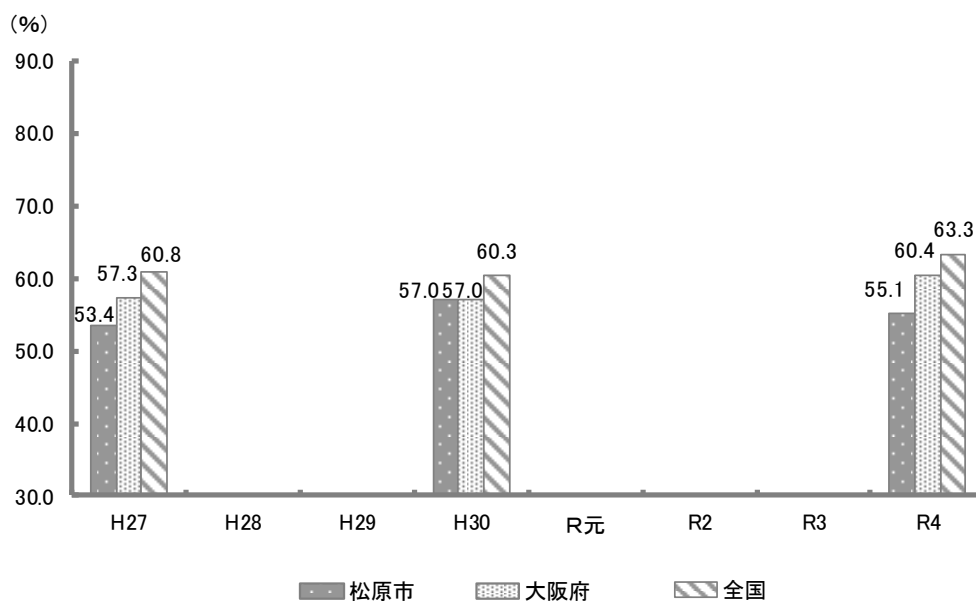
算数Bでは、全国、大阪府の平均との差は縮まっているものの、下回る水準で推移しており、活用する力が課題となっています。



注：B問題は「主として活用に関する問題」  
注：令和元年度より、A問題とB問題は統合  
資料：全国学力・学習状況調査

### 【小学校・理科】

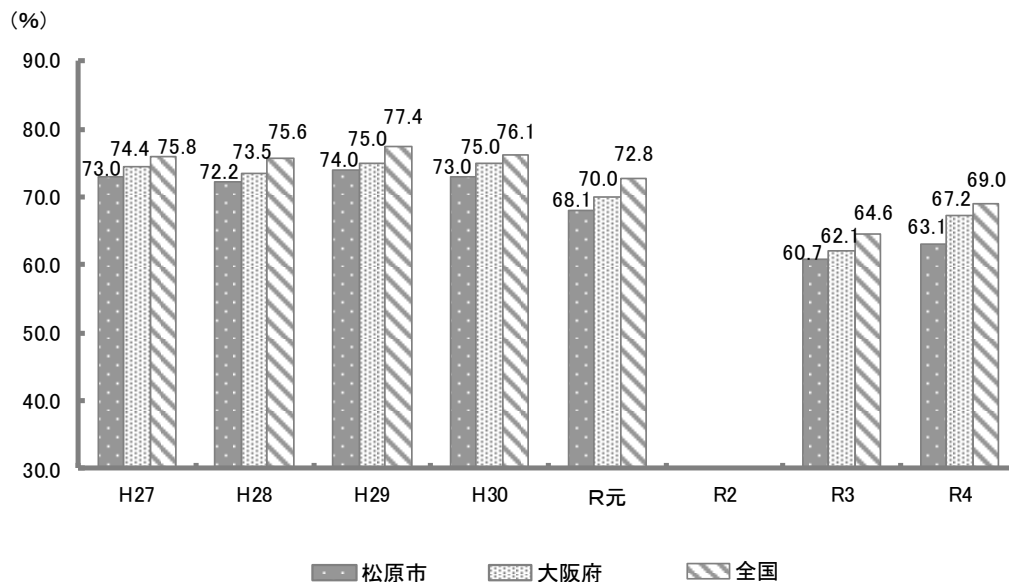
理科において、令和4年度は全国、大阪府の平均より下回る結果となっており、平成27年度、平成30年度と比較するとその差は拡大しています。



注：理科は3年に1回の調査  
 注：新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度に実施  
 資料：全国学力・学習状況調査

### 【中学校・国語A】

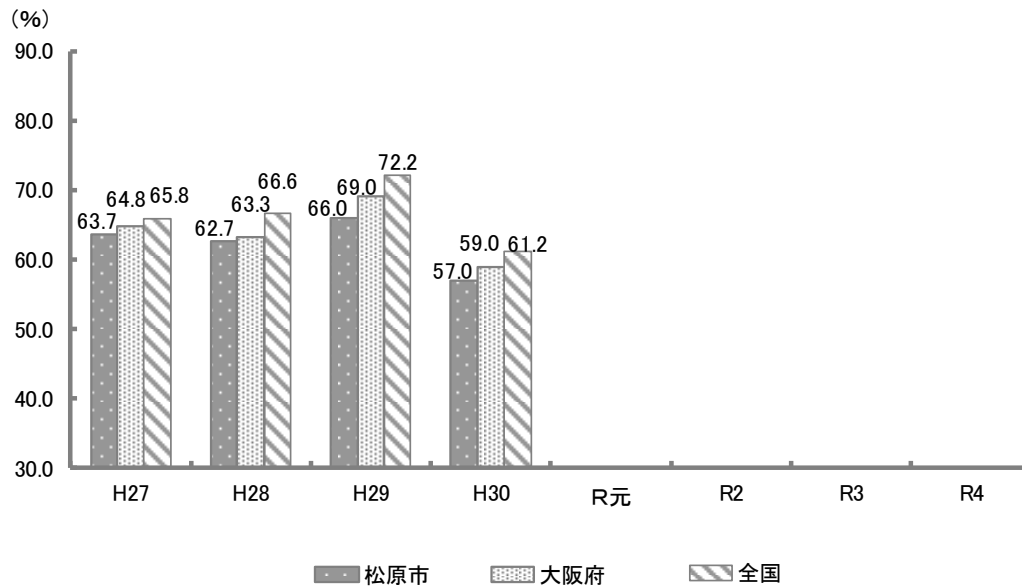
国語Aについて、全国、大阪府の平均よりやや下回る水準で推移しています。



注：令和2年度については新型コロナウイルス感染症防止のため、小・中学校全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、英語）は未実施  
 資料：全国学力・学習状況調査

### 【中学校・国語B】

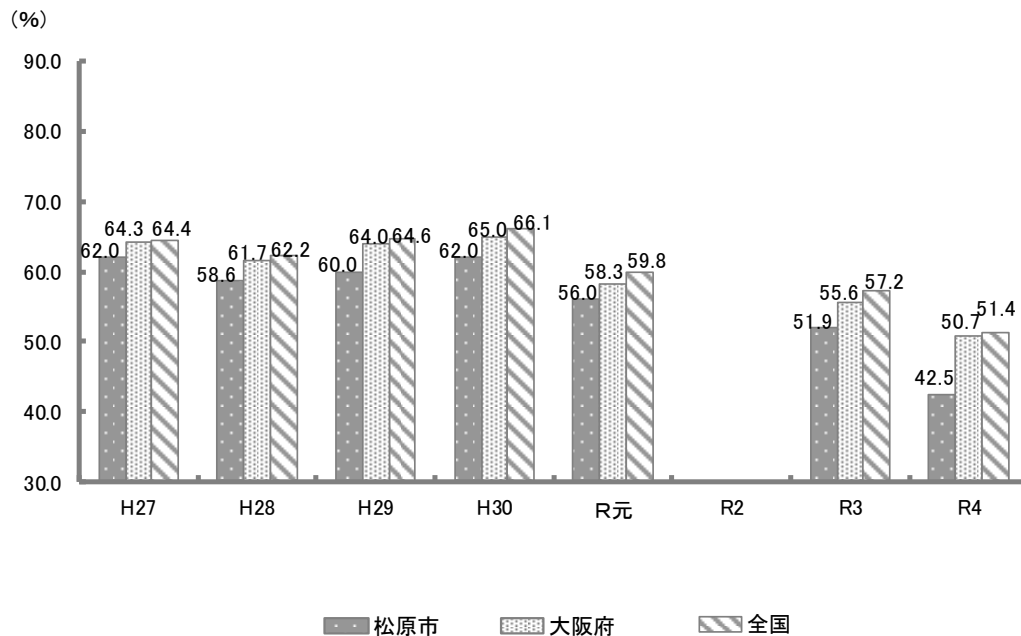
国語Bについて、全国、大阪府の平均をやや下回る水準で推移しています。



注：令和元年度より、A問題とB問題は統合  
資料：全国学力・学習状況調査

### 【中学校・数学A】

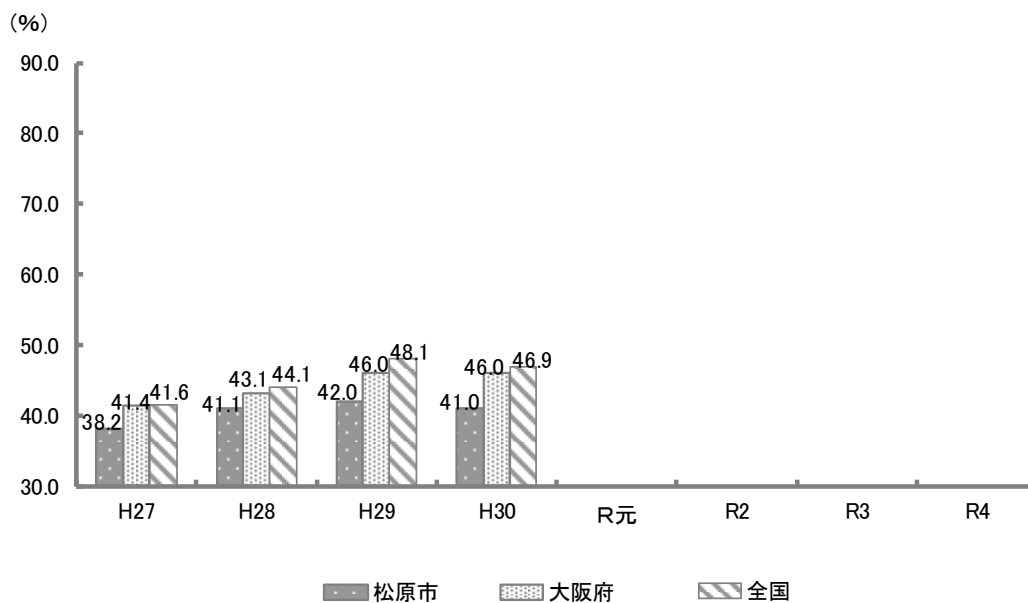
数学Aについて、全国、大阪府の平均よりやや下回る水準で推移しています。



注：令和2年度については新型コロナウイルス感染症防止のため、  
小・中学校全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、英語）は未実施  
資料：全国学力・学習状況調査

## 【中学校・数学B】

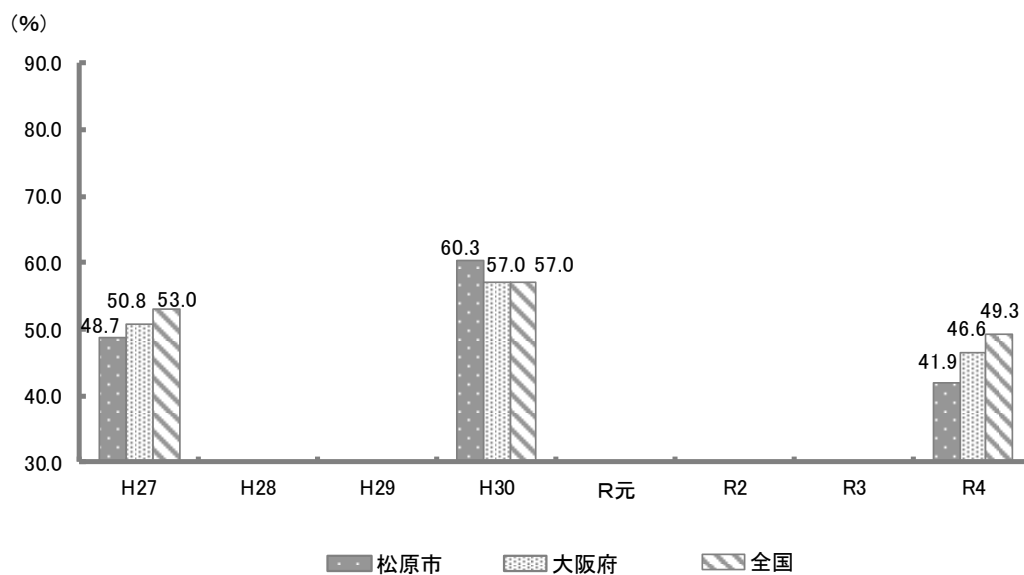
数学Bについて、全国、大阪府の平均をやや下回る水準で推移しています。



注：令和元年度より、A問題とB問題は統合  
資料：全国学力・学習状況調査

## 【中学校・理科】

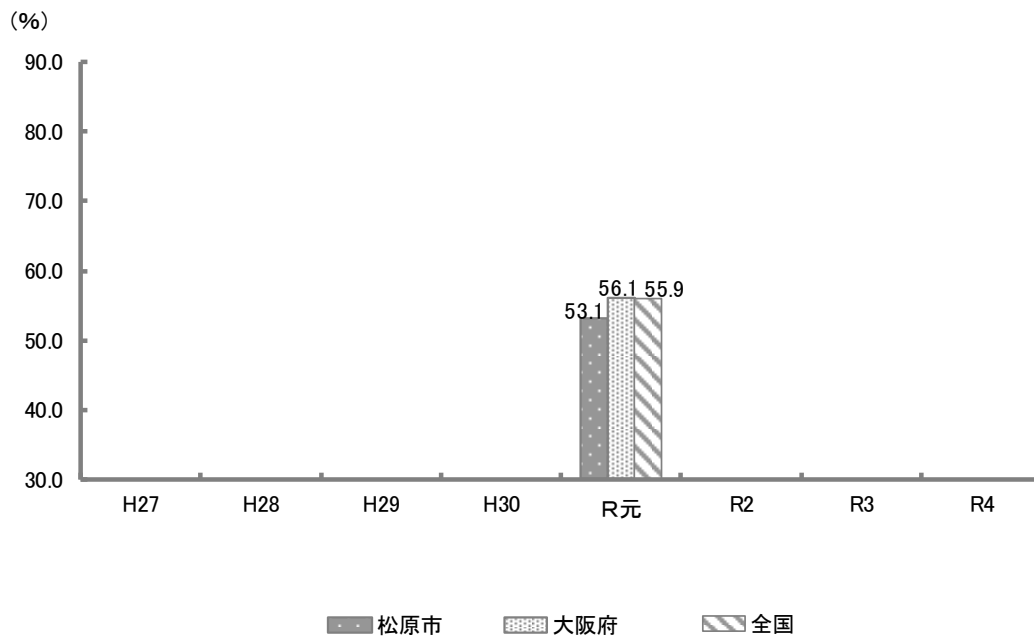
理科において、令和4年度は全国、大阪府の平均よりやや下回っています。



注：理科は3年に1回の調査  
注：新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度に実施  
資料：全国学力・学習状況調査

## 【中学校・英語】

英語において、全国、大阪府の平均をやや下回る水準となっています。



注：英語は3年に1回の調査  
注：新型コロナウイルス感染症防止のため、令和5年度に実施  
資料：全国学力・学習状況調査

## 2 松原市教育振興基本計画（後期計画）令和2年度～令和5年度の振り返り

### I 未来を拓く人づくり ～子どもの教育～

#### 基本的な方針1 「確かな学力」の向上と「生きる力」の育み

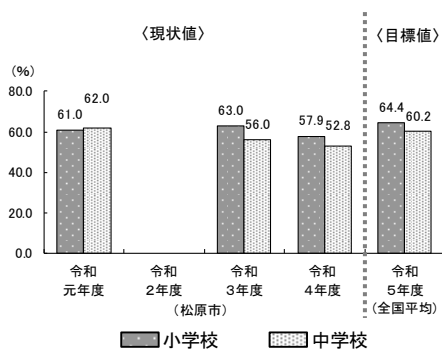
##### 重点目標（1）学力向上の取組みの推進

##### これまでの取組みのあらまし

- ・新型コロナウイルス感染症防止に配慮しながら、授業改善が行われた結果、学力向上アクションプランでの質問では、小学校・中学校ともに、数値が改善しました。小学生においては、家庭での学習の維持に難しさが見られることから、学校の授業以外での勉強時間は全国と比べて差が拡大しました。全国学力・学習状況調査の平均正答率は、目標値である全国平均（小学校 64.4%、中学校 60.2% 令和4年度実績）を下回っている状況のため、今後も児童生徒の実態を踏まえた学力向上の取組みを推進していくことが求められます。

##### データの推移等

全国学力・学習状況調査における平均正答率（指標 A-1）

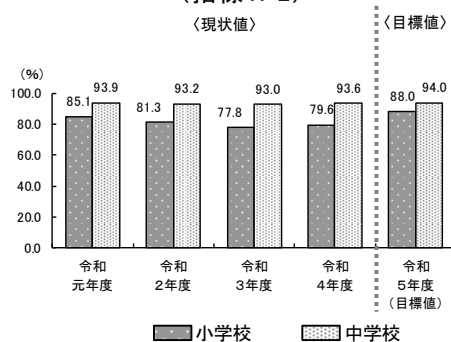


※令和2年度は中止

※目標値は令和4年度暫定値

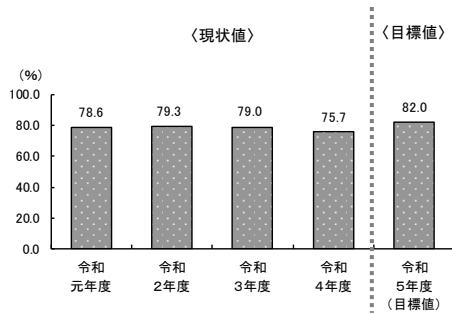
資料：全国学力・学習状況調査結果概要

授業において自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童・生徒の割合（指標 A-2）



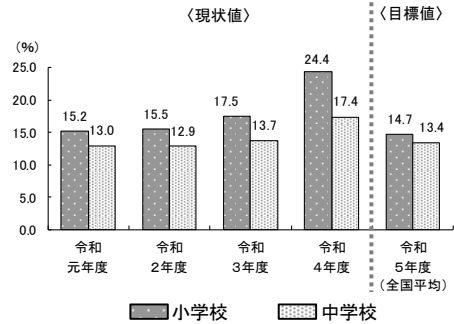
資料：学力向上アクションプラン

読書が好きな児童・生徒の割合  
(指標 A-3)



資料：学力向上アクションプラン

学校の授業以外で普段（月～金曜日）、  
1日の勉強時間が30分以下の児童・生徒の割合（指標 A-4）



※目標値は令和4年度暫定値

資料：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査

## 指標結果

後期計画の指標		R4年度	R5目標値	方向性
A-1	全国学力・学習状況調査における平均正答率	小学校 57.9% (全国 64.4%) 中学校 52.8% (全国 60.2%)	R5 全国平均	↗
A-2	授業において自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童・生徒の割合	小学校 79.6% 中学校 93.6%	小学校 88% 中学校 94%	↗
A-3	読書が好きな児童・生徒の割合	75.7%	82.0%	↗
A-4	学校の授業以外で普段（月～金曜日）、1日の勉強時間が30分以下の児童・生徒の割合	小学校 24.4% (全国 14.7%) 中学校 17.4% (全国 13.4%)	R5 全国平均	↘

### 【方向性】の説明



令和4年度実績で、令和5年度の目標値を達成



令和4年度実績で、令和5年度の目標値を達成していないため、目標値の方向を示している。

### 取組みの成果

各校の課題に合わせ、新型コロナウイルス感染症防止の影響がある中でも、乳幼児とのふれあいや、情報モラルについての学び、総合学習のゲストティーチャー等、計画的に地域・家庭との連携を深めながら教育活動を推進することができました。

各学期末に小学校3年生～中学校3年生の全児童・生徒を対象に児童・生徒アンケートを実施し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業作りの進捗を把握し、学校への指導助言に活かすことができました。

また、ICT 機器や学習支援ソフトを活用するための研修を各校で企画・実施したほか、各校の実態に合わせて、個に応じた指導の充実と改善を推進することができました。

各学校において「基礎基本の定着」「自学自習力の育成」と「家庭学習習慣の確立」をめざし、放課後等における学習指導の推進を支援するため、AIドリルを導入したり、学習支援アドバイザーを各学校に派遣したりすることにより、児童・生徒の自学自習力の向上を図ることができました。

小学校5、6年生を対象に「Speaking Quest」を導入し、児童一人ひとりの話すことの力を適切に評価することにより、それぞれの課題に合わせて「話すこと（発表・やりとり）」に関する技能を育成することができました。

学校図書館の環境整備に加え、学校図書館ボランティアによる本の紹介や読み聞かせにより、児童・生徒が進んで読書に関心を持ち、読書が好きだという児童・生徒が増加しています。

「わたしたちの松原市」の編集作業を通して、児童に郷土を愛する態度を養う内容となるよう編集作業を行い、児童・生徒の郷土愛を育む教育を推進することができました。



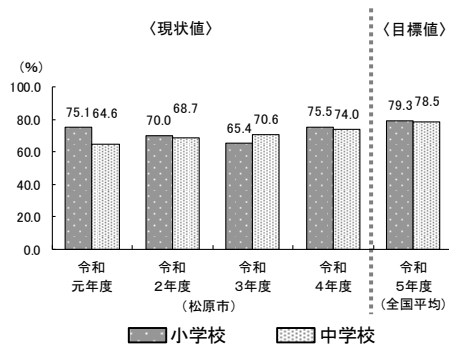
## 重点目標（２）豊かでたくましい人間性の育み

### これまでの取組みのあらまし

- ・全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査では、特に、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童・生徒の割合においては、高い水準を維持することが出来ました。
- ・自分には、よいところがあると思う児童・生徒の割合は、全国平均（小学校 79.3%、中学校 78.5% 令和4年度実績）との差が縮まりました。引き続き、ひとりひとりの子どもたちの居場所を大切にした生徒指導と子どもたちが自分自身の生き方を見つめ考えるキャリア教育の取組みを進めて行く必要があります。

### データの推移等

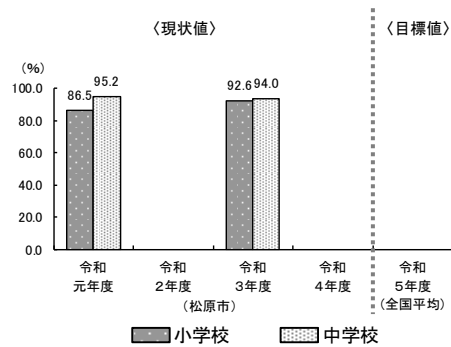
自分には、よいところがあると思う児童・生徒の割合（指標 B-1）



※目標値は令和4年度暫定値

資料：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査

学校のきまりを守る児童・生徒の割合（指標 B-2）

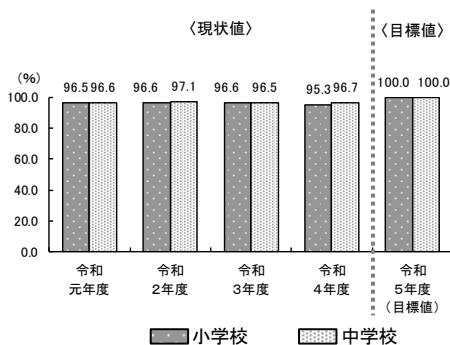


※令和2年度は中止

※令和4年度は質問から削除

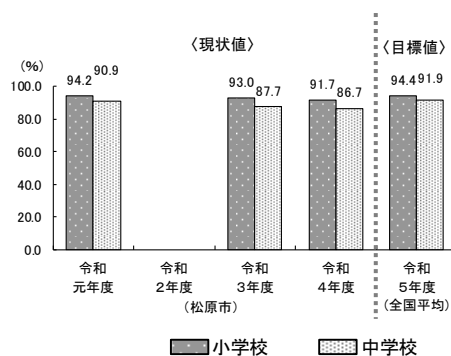
資料：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童・生徒の割合（指標 B-3）



資料：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙

朝食を毎日食べている児童・生徒の割合（指標 B-4）

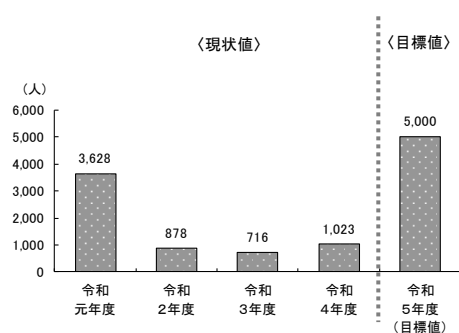


※令和2年度は中止

※目標値は令和4年度暫定値

資料：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙

公立幼稚園等の園庭開放などの子育て支援事業  
に係る事業の参加者数（指標 B-5）



資料：子ども未来室

指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
B-1	自分には、よいところがあると思う児童・生徒の割合	小学校 75.5% (全国 79.3%) 中学校 74.0% (全国 78.5%)	R 5 全国平均	↗
B-2	学校のきまりを守る児童・生徒の割合	—	R 5 全国平均	—
B-3	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童・生徒の割合	小学校 95.3% (全国 96.8%) 中学校 96.7% (全国 96.4%)	100%	↗
B-4	朝食を毎日食べている児童・生徒の割合	小学校 91.7% (全国 94.4%) 中学校 86.7% (全国 91.9%)	R 5 全国平均	↗
B-5	公立幼稚園の園庭開放などの子育て支援事業に係る事業の参加者数	1,023 人	5,000 人	↗

※B-2 については、令和 4 年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙からこの項目が削除されました。

取組みの成果

新学習指導要領の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を具現化するための研修会を実施し、各校の実践を集約し市全体に発信することができました。

生徒指導の充実・強化では、チームで行う支援の充実に向けて、関係諸機関との連携のもと、ケース会議等の実施、総合的なネットワークを構築し、開かれた生徒指導体制づくりに取り組むことができました。また、ケースに応じて教育相談員が学校の

サポートに回りアドバイスを行うことで、学校の指導に専門性や多角的な視点を加えることができました。

いじめ問題専門委員会を開催し、スクールロイヤーやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学教授等の専門家から専門的な知見に基づく指導・助言をいただくとともに、いじめの早期発見、早期対応及び未然防止等、市内教職員全体に向けての研修も実施しました。また、不登校児童・生徒の総合的な支援を行うため、教育支援センター（チャレンジルーム）の円滑な運営を行い、個々の課題に応じた適切な支援を受けることができるように、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門家や福祉部局をはじめとした関係諸機関とのケース会議を行い支援体制の構築を行いました。

人権尊重の教育の徹底では、各校での人権教育に関する研修会を通じて、教職員一人ひとりの人権意識の向上を図ることができ、児童・生徒の深い内面理解及び指導力の向上を図ることができました。

市立学校に在籍する支援が必要な児童生徒に対して、医療的ケアを実施する看護師 2 人、教育支援員 22 人、介助員 25 人を配置することで、安心して学習活動ができ、学校生活を送ることができました。

キャリア教育の充実では、教育活動全体を通じて、キャリア教育の視点で学校教育活動を充実させることができました。特に児童・生徒が自己肯定感や自己有用感をもって、自らの生き方についての夢や希望を育むことができる取組みを推進することができました。

スクールサポーターを学校へ派遣することにより、相談体制の充実を図ることができ、いじめ事象の早期の認知やいじめ解消にもつながりました。

新型コロナウイルス感染症防止による影響により、会話をせず喫食しなかったが、放送による情報提供や、中学生による生徒献立の実施により、健全な食生活を実践するための意識を向上させることができました。また、児童・生徒に配布している献立表や給食だよりにおいて、正しい食習慣や食に関する行事、栄養や健康などについて掲載し、発信することで給食をより生きた教材として活用することができました。

就学前教育の充実では、キンダーカウンセラーを配置し、園児だけでなく、子育てや指導方法に悩みや不安を抱える保護者や教職員への相談活動を継続して行うことができ、様々な子ども及び保護者たちの心のケアを行うことができました。

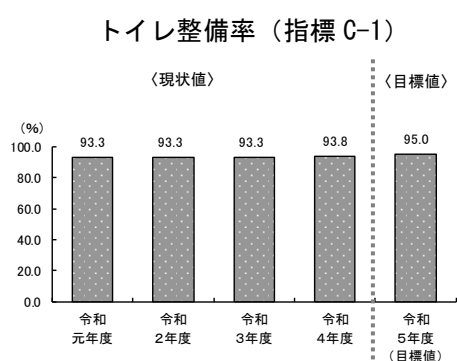
## 基本的な方針 2 安心・安全な学校園づくりの推進

### 重点目標（1）安心・安全な学校園づくりの推進

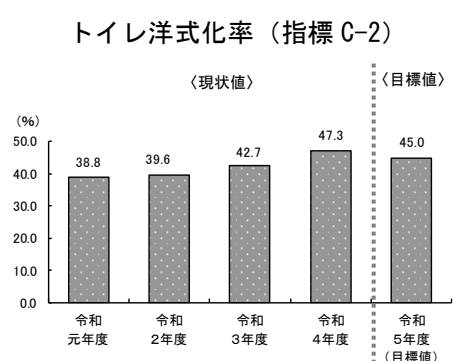
#### これまでの取り組みのあらまし

- ・ 三宅小学校及び松原第三中学校のトイレ改修工事が完了したことで、トイレの洋式化率が上昇しました。
- ・ I S S 取り組みによる受傷率（全校生徒のうち、学校でのけが等で通院した割合）は増加していますが、取り組み開始時の平成 28 年度からの推移をみると、低下傾向（H28：9.8%）になりました。

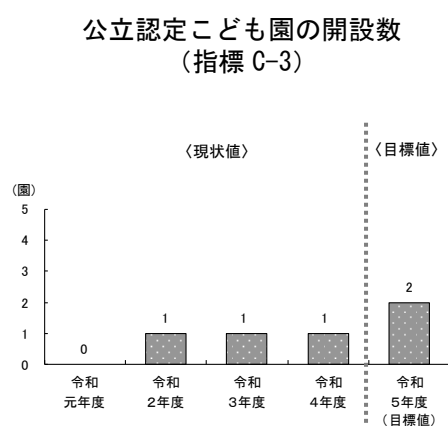
#### データの推移等



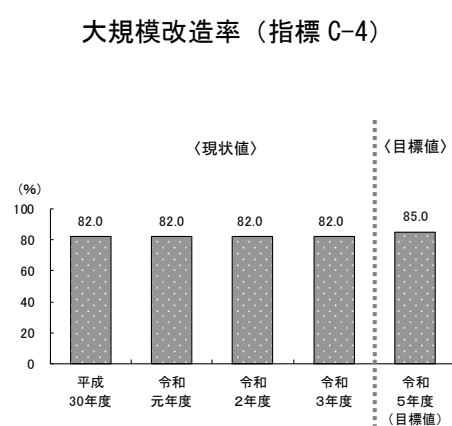
資料：教育総務課



資料：教育総務課

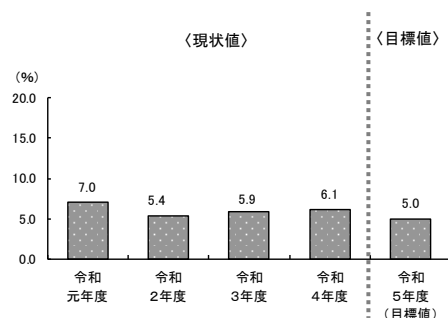


資料：子ども未来室



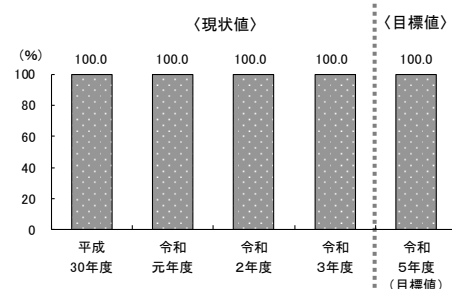
資料：教育総務課

#### 学校における受傷率（指標 C-5）









資料：教育推進課

#### 児童・生徒に安心・安全な給食を安定して提供している割合（指標 C-6）



資料：学校給食課

## 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
C-1	トイレ整備率	93.8%	95%以上	
C-2	トイレ様式化率	47.3%	45%	
C-3	公立認定こども園の開設数	1	2	
C-4	大規模改造率	82%	85%以上	
C-5	学校における受傷率	6.1%	5.0%未満	
C-6	児童・生徒に安心・安全な給食を安定して提供している割合	100%	100%	

## 取組みの成果

学校 I C T 機器等整備では、令和 2 年中に配備を完了した端末について、授業等で有効に活用できるよう整備しました。

また、各小学校空調機の設置については、故障し、部品交換のできない天美南小学校及び天美西小学校の職員室及び校長室の空調機を更新しました。

各小中学校のトイレについては、洋式化率の低い三宅小学校及び松原第三中学校のトイレ改造、並びに松原第六中学校大規模改造にてトイレを改修することで、洋式化率がそれぞれ 21.1%から 53.3%に、21.9%から 49.3%に、21.2%から 60.0%に全体では、42.7%から 47.3%にそれぞれ改善しました。

セーフスクールの推進については、松原中学校区、松原第二中学校区、松原第三中学校区、松原第五中学校区、松原第六中学校区において新型コロナウイルス感染症防止を徹底しながら ISS（インターナショナルセーフスクール）の現地審査を行いました。学校・家庭・地域・行政が連携し、安心、安全な学校・校区づくりに協働で取り組んだことが評価され、日本初の全校認証を取得することができ、合同認証式を実施することができました。

公立幼保連携型認定こども園建設については、令和3年4月1日より松原市立幼保連携型認定こども園わかばこども園が開園しました。また、新たな幼保連携型認定こども園建設のため、用地確保が終了し、設計を始めました。

危機管理体制を推進するため、各校において「危機管理マニュアル」を策定しており、総合的な学習の時間等において阪神淡路大震災や東日本大震災等に関する学習を行う等、防災に関する教育を推進することができました。

市立小学校セフティスクールサポート事業については、平成16年より校門に管理員を配備し、受付対応することで不審者の侵入を未然に防止するよう対策し、安全な学習環境を確保できています。

松原市立学校給食センターの衛生管理及び機能維持に努め、徹底した衛生管理と、給食を食べる児童・生徒のことを意識した調理を実践し、円滑な運営に努めた結果、「学校給食業務事業」にて、年間186日、延べ993,364食を、「中学校給食事業」にて年間181日、延べ453,685食の安心・安全な学校給食を提供することができました。

地域の方々に「子ども安全見守り隊」として、子どもたちの登下校を見守っていただいております。登録人数は1,785名と、概ね前年度数値を維持できました。また、通学路については、毎年学校管理者、PTA、松原警察署道路管理者、教育委員会で合同点検を行っています。

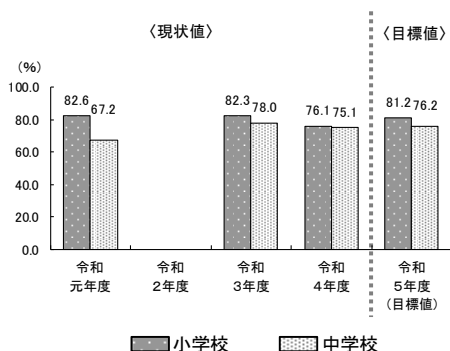
## 重点目標（２） 学校園運営体制の充実と教職員の資質向上

### これまでの取組みのあらまし

- ・ 全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査では、授業の内容がわかる児童・生徒の割合が低下しており、新型コロナウイルス感染症防止による様々な制限が影響していると考えられます。今後も授業改善、学力向上の取組みを推進していくことが求められます。また、市主催研修が充実していたと考える参加者の割合については、現代的な教育課題やニーズに応じた研修を実施したことで、良好な数値を維持することができました。
- ・ 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合は、組織的な学校運営に努めたことで、良好な数値となりました。

### データの推移等

授業の内容がわかる児童・生徒の割合（指標 D-1）

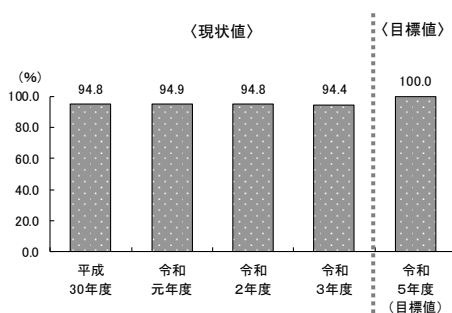


※令和2年度は中止

※目標値は令和4年度暫定値

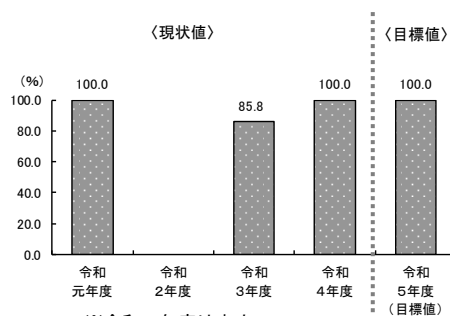
資料：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査

市主催研修が充実していたと考える参加者の割合（指標 D-2）



資料：研修毎のアンケート

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合（指標 D-3）






※令和2年度は中止

※目標値は令和4年度暫定値

資料：全国学力・学習状況調査学校質問紙調査

## 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
D-1	授業の内容がわかる児童・生徒の割合	小学校 76.1% (全国 81.2%) 中学校 75.1% (全国 76.2%)	R 5 全国平均	
D-2	市主催研修が充実していたと考える参加者の割合	95.1%	100%	
D-3	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合	100%	100%	

## 取組みの成果

教職員研修については、様々なキャリアステージに合わせた市独自の研修や教職員のニーズや現代の教育課題に対応した市独自の研修を実施することができ、それによって教職員の資質・指導力の向上を図ることができました。

学校における「働き方改革」では、校務支援 PC のログによる勤務時間の管理を行うことで、勤務時間を意識して働く教職員が増えました。部活動ガイドラインにより、週当たり 2 日以上 の休養日を設けることは徹底できています。また、各学校で、あらかじめ会議資料を閲覧し、議論して会議に臨むことで、会議の短縮が見られるとともに、コロナ禍ということもあり、学校行事、地域行事等の見直しの検討は進んでいます。



## 基本的な方針3 子どもたちを健全に育てる地域コミュニティの形成

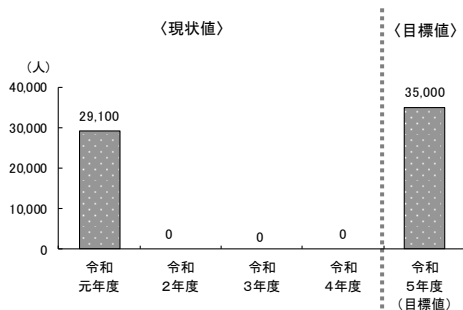
### 重点目標（1）地域の総合的な教育力の向上を目指した事業の推進

#### これまでの取り組みのあらまし

- ・令和2年度、令和3年度、令和4年度、中学校区フェスタは、新型コロナウイルス感染症防止のため、中止となりました。
- ・子ども110番の家に係る登録件数は、おおむね維持することができました。

#### データの推移等

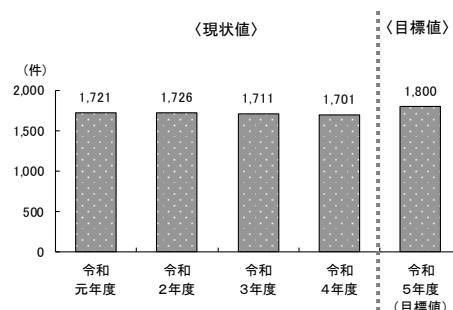
中学校区フェスタ参加人数  
(指標 E-1)



※令和2年度～令和4年度は中止



資料：地域教育課

子ども110番の家に係る登録件数  
(指標 E-2)



資料：地域教育課

## 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
E-1	中学校区フェスタ参加人数	中止	35,000 人	
E-2	子ども 110 番の家に係る登録件数	1,701 件	1,800 件	

## 取組みの成果

地域・家庭の教育力向上については、子どもを育む教育コミュニティづくりを推進するため、学校・家庭・地域の 3 者協働による地域教育協議会において様々な取組みを行いました。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症防止のために活動の縮小を余儀なくされましたが、クリーンキャンペーンやコミュニティスクールの研修会等を行うことができました。

児童自己防衛力育成については、地域の協力と理解を得ながら、子どもたちの安全確保を行うことができました。

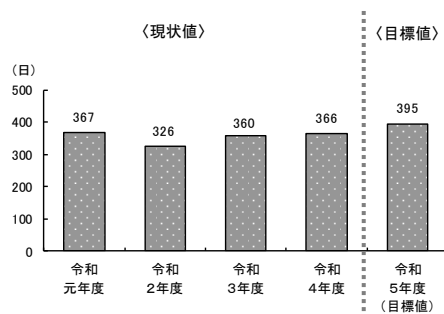
## 重点目標（２）青少年の健全育成の推進

### これまでの取組みのあらまし

- ・ 青少年指導員の年間活動日数はコロナ禍であったが工夫して活動を進めてきました。

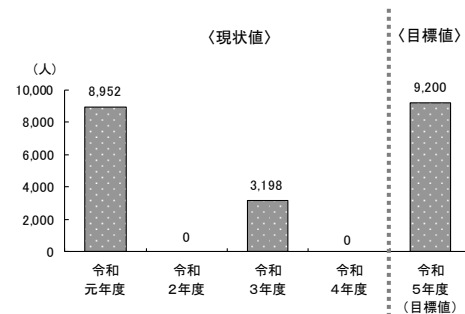
### データの推移等

青少年指導員の年間活動日数  
(指標 F-1)



資料：地域教育課

少年自然の家宿泊者数  
(指標 F-2)



注：令和3年度末休止閉館

資料：(一財)大阪市青少年活動協会

### 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
F-1	青少年指導員の年間活動日数	366 日 (延べ)	395 日以上 (延べ)	↗
F-2	少年自然の家宿泊者数	0 人	令和3年度末で施設中止閉館	—

### 【取組みの成果】

青少年指導員の活動支援については、新型コロナウイルス感染症防止を講じながら、スポーツフェスティバル、ミニミニふれあい子どもまつりを実施することができました。

情報交換会では、青少年をとりまく現況について情報を共有でき、今後の事業の参考となりました。

## Ⅱ 自立心を育む人づくり ～社会教育～

### 基本的な方針 1 協働によるまちづくりを推進

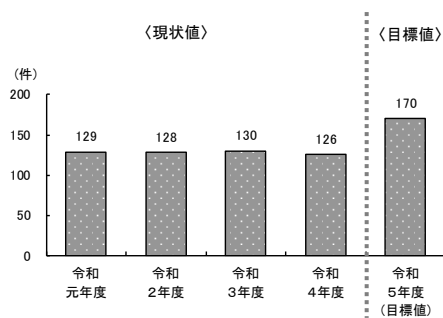
#### 重点目標（1）市民協働のしくみづくり

##### これまでの取組みのあらまし

- ・ コロナ禍においてボランティア活動を円滑に進めていくためにスマホの LINE 活用講座を開催し、松原市生涯学習地域サポーター登録者のスキルアップを行いました。
- ・ 子ども見守り隊の登録人数は、おおむね維持することができました。

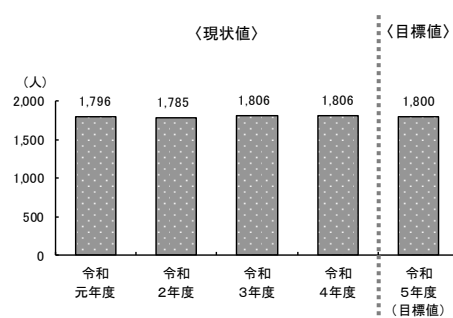
##### データの推移等

松原市生涯学習地域サポーター  
（“まっ com”）の登録件数（指標 G-1）



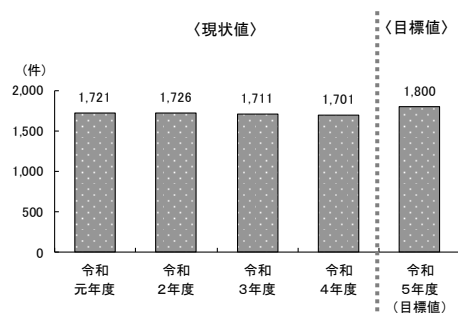
資料：いきがい学習課

子どもの安全見守り隊登録人数（指標 G-2）






資料：地域教育課

子ども110番の家に係る登録件数  
（指標 G-3）



資料：地域教育課

## 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
G-1	松原市生涯学習地域サポーター（通称：まっcom）の登録件数	126 件	170 件	
G-2	子どもの安全見守り隊登録人数	1,806 人	1,800 人	
G-3	子ども110番の家に係る登録件数	1,701 件	1,800 件	

## 取組みの成果

生涯学習については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民や他の部署からの派遣依頼が大幅に減少しました。市のHPに松原市生涯学習地域サポーター登録者一覧を掲載し、活動を行いました。

児童・生徒理解活動（心の教育）の推進については、地域の方々に「子ども安全見守り隊」として、子どもたちの登下校の見守りを実施していただいている。登録人数は1,785名、概ね前年度数値を維持できました。また、通学路については、毎年学校管理者、PTA、松原警察、道路管理者、教育委員会で合同点検を行っています。加えて、生徒指導アドバイザー（警察OB）による青色防犯パトロールカーやバイクによる巡回を行い、子どもたちの安全確保に努めています。

## 基本的な方針 2 生涯を通じた学びやスポーツを支援する環境づくり

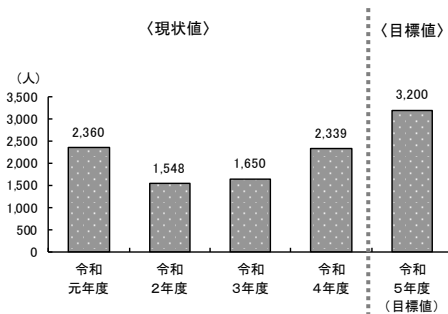
### 重点目標（1）生涯学習の充実と「智の拠点」づくり

#### これまでの取組みのあらまし

- ・市立公民館などでの講座参加者数については、新型コロナウイルス感染症防止のため、前半の講座が中止となり、講座回数、参加人数を減らし開催しました。講習後、自宅でも取り組める内容（運動、手作り、ペン字、脳科学など）を取り入れました。令和2年度より少しずつ参加者が戻ってきており、参加者の回復に努めてきました。
- ・新型コロナウイルス感染症防止のため文化祭については、令和3年度は事業を中止しました。

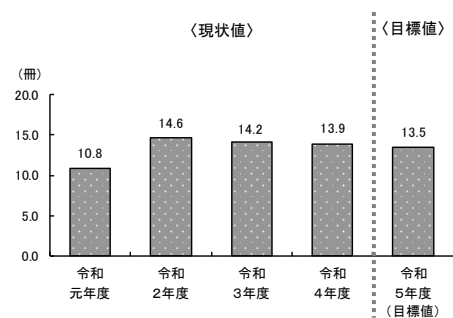
#### データの推移等

市立公民館などでの講座参加者数  
(指標 H-1)



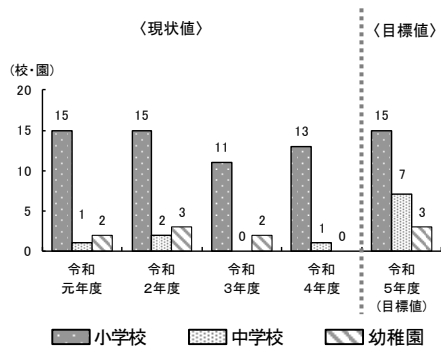
資料：いきがい学習課

市民図書館における児童書の貸出冊数  
(指標 H-2)



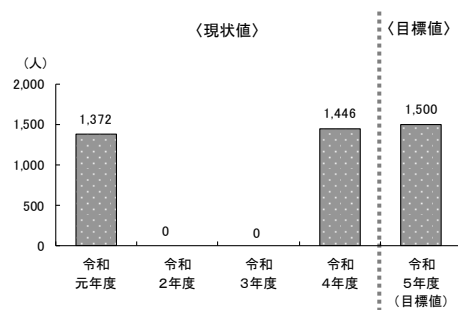
資料：いきがい学習課

市民図書館と連携を実施した  
学校園数 (指標 H-3)



資料：いきがい学習課




文化祭参加者数 (指標 H-4)



※令和2年度～令和3年度は中止

資料：いきがい学習課

## 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
H-1	市立公民館などでの講座参加者数	2,339 人	3,200 人	
H-2	市民図書館における児童書の貸出冊数	13.9 冊	13.5 冊	
H-3	市民図書館と連携を実施した学校園数	小学校 13 校 中学校 1 校 幼稚園 0 園	小学校 15 校 中学校 7 校 幼稚園 3 園	
H-4	文化祭参加者数	1,446 人	1,500 人	

## 取組みの成果

生涯学習については、人との繋がりが希薄になる中で、外に出るきっかけとなるような学びの機会の提供を行った。講習後、自宅でも取り組める内容（運動、手作り、ペン字、脳科学など）を取り入れました。

市民図書館管理運営については、設計者による建築設計の説明やエピソードを聞きながら建物や館内を巡る見学会、屋上を活かした夜間の天体観測会などを実施し、多様な事業展開を行うことで幅広い年齢層へ図書館の PR をすることで図書館利用の充実につなげました。また、コロナ禍で配布できていなかった小学 2 年生と、小学 1 年生への読書通帳の配布を行い、児童への図書館利用環境も充実させるとともに、コロナ禍でも読書が楽しめるよう図書館休館中の宅配サービスを実施しました。また、4 か月検診で絵本の配布、あかちゃんからのおはなし会やえほんのゆりかごなど乳幼児向けのおはなし会を引き続き実施しました。また、新しく移転開館した天美図書館に授乳室を設置しました。

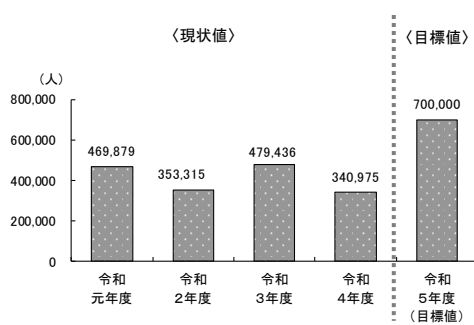
## 重点目標（２）市民のスポーツ文化の醸成

### これまでの取組みのあらまし

- ・スポーツに親しむ環境整備については、指定管理者制度の導入により、市民ニーズに応じた幅広いプログラムの提供やトレーニング室の充実を図り、市民のスポーツ活動を支える施設運営を行いました。

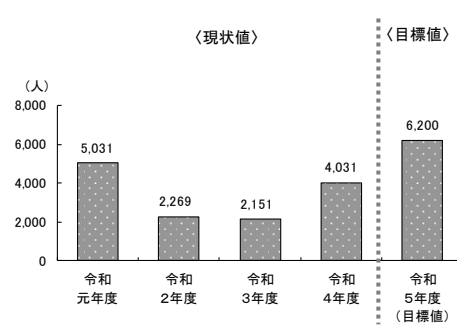
### データの推移等

スポーツ施設利用者数（指標 I-1）



資料：いきがい学習課

スポーツ教室などの参加者数（指標 I-2）



資料：いきがい学習課

### 指標結果

	後期計画の指標	R 4 年度	R 5 目標値	方向性
I-1	スポーツ施設利用者数	340,975 人	700,000 人	↗
I-2	スポーツ教室などの参加者数	4,031 人	6,200 人	↗



## 取組みの成果

市民体育館管理及び市民道夢館管理については、指定管理者制度の導入により、利用者のマナーの向上の喚起や多数の自主事業であるコース型教室拡充等、市民の多様なニーズに対応した運営を実施しました。

市民スポーツについては、新型コロナウイルス感染防止のため、事業の大半が中止となりましたが、できる範囲でスポーツ大会及びスポーツチャレンジを実施したことにより、スポーツへの関心が高まり、地域の交流を深めることに寄与しました。また、小中学生対象にリオデジャネイロオリンピック女子バスケットボール日本代表の大崎佑圭氏を講師に招き、体験教室を開催しました。

※ 平成27年4月1日から「松原市教育に関する職務権限の特例を定める条例」が施行され、スポーツ・文化に関することについては、教育振興基本計画から除かれることになりました。

## 基本的な方針 3 文化財の保護と活用をとおして、郷土への愛着と理解を深める

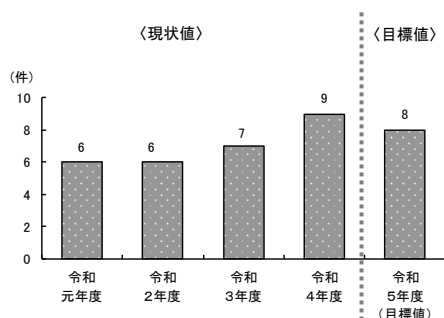
### 重点目標（1）歴史・文化の振興

#### これまでの取組みのあらまし

- ・ 指定文化財指定数については、令和5年度目標を上回る件数の文化財を指定することができました。
- ・ 歴史文化関連の講座などの実施回数については、新型コロナウイルス感染症の流行がやや落ち着き、昨年度を上回る回数の講座を実施することができました。

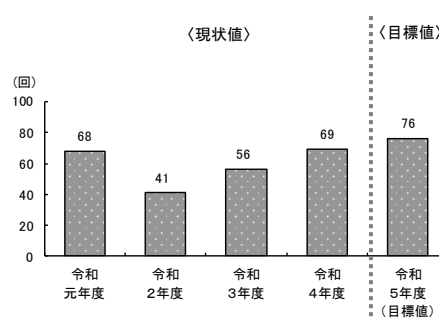
#### データの推移等

指定文化財指定数（指標 J-1）  
（累計）



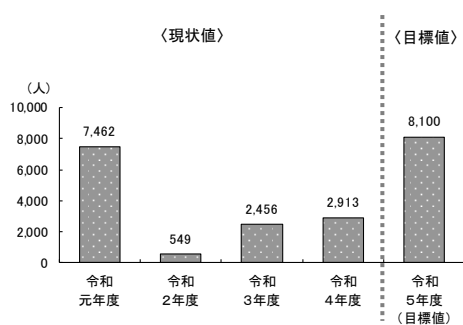
資料：文化財課

歴史文化関連の講座などの実施回数  
（指標 J-2）



資料：文化財課

### 郷土資料館の入館者数（指標 J-3）



資料：文化財課

### 指標結果

後期計画の指標		R 4 年度	R 5 目標値	方向性
J-1	指定文化財指定数（累計数）	9 件	8 件	○
J-2	歴史文化関連の講座などの実施回数	69 回	76 回	↗
J-3	郷土資料館の入館者数	2,913 人	8,100 人	↗

### 取組みの成果

調査・保存については、天美我堂の善正寺で文化財総合調査を実施しました。また、来迎寺紙本著色融通念仏縁起絵巻を市指定有形文化財に指定し、有形文化財 1 件の市指定について松原市文化財保護審議会に諮りました。

文化振興については、文化財保護の普及啓発のため、市ホームページにおいて「まつばら文化財デジタルアーカイブ」として二次利用可能な形でデータ公開を開始しました。また、新型コロナウイルスの感染防止措置を図りながら、可能な範囲で展示や講座を実施しました。

ボランティア団体にインターネット上で公開した資料や講座についての情報を提供しました。また、市域の発掘調査成果と正確な文化財情報の入手方法についての講座を実施しました。

### 3 第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査結果及び松原市の教育に関する計画を作るためのアンケート（子どもアンケート）から見える本市の状況

#### (1) 第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査の概要

##### ① 調査の目的

令和6年度から5カ年を計画期間とする「第2期松原市教育振興基本計画」の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

##### ② 調査対象

松原市在住の18歳以上を層化無作為抽出

※層化無作為抽出：母集団を、年代（層化）ごとに分割し、各年代から標本を抽出する方法

##### ③ 調査期間

令和4年10月19日から令和4年11月10日

##### ④ 調査方法

郵送・web

##### ⑤ 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
1,000 通	342 通	34.2%

##### ⑥ 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

## ⑦ 第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査結果の概要

### ア 学校園教育について

本市の就学前教育、学校教育における取組みの評価としては、「学校給食は、栄養バランスがとれ、食物アレルギーに配慮した安心・安全でおいしい給食が提供されている」が最も高く、「就学前・小学校・中学校において子どもの健康管理ができてい  
る」「就学前における教育・保育の環境が充実している」が続いています。

また、市が力を入れる必要があると思う（「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計）教育施策や教育事業として、「子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する」「悩みがある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる」「いじめや不登校等の未然防止に関する生徒指導の充実を図る」などが上位に挙げられています。

さらに、身についており、重要性も高い項目としては、「善悪を判断する力」「人間関係を築く力」「他者に対する理解と思いやりや優しさ」などが挙げられています。一方、身についていないが、重要性は高い項目として、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が挙げられています。

新型コロナウイルス感染症の影響下における松原市の子どもたちの教育について不安を感じていることとしては、「子どもたちの健康状態や体力の低下」「子どもたちの学力の低下」「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」などが挙げられています。

松原市の教育の課題としては、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」「子どもたちの学力の低下」「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」などが挙げられています。

これらの点から、子どもたちが主体的に学習に取り組む態度を身につけられる教育内容・方法の充実、児童生徒等の安心・安全を確保するための取組みの充実、いじめの未然防止と早期発見の取組みの徹底等が求められていると考えられます。

### イ 家庭での教育について

家庭の教育力（家庭で、親が子に対して行う教育）に対する評価としては、機能している（「機能している」と「ある程度は機能している」の合計）を回答した人が、機能していない（「あまり機能していない」と「機能していない」の合計）を回答した人を上回っています。

このような家庭の教育力を更に高めるために必要な取組みとして、「保護者がしつけや教育について相談できる場所をつくる」や「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」「保護者が子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」「子どもが保護者以外の大人（祖父母、近所の人）とふれあう機会を増やす」などが上位に挙げられています。

これらの点から、親の教育力を高めるための学びの場の確保や相談体制の充実、親と子のふれあいと交流の場づくりが求められていると考えられます。

## ウ 地域での教育について

地域の教育力（地域社会の中で子どもたちが大人や異なる年齢の友人たちとの交流を通じた様々な体験などができる教育機能のこと）に対する評価としては、機能している（「機能している」と「ある程度は機能している」の合計）を回答した人は、前回調査より改善しているものの家庭の教育力より低くなっています。本市において、地域の教育力の向上が喫緊の課題であることがうかがえます。

このような地域の教育力を高めるために必要な取組みとして、「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツをしたりできる機会をつくる」や「治安を良くし、子どもが自由に遊べるようにする」「地域の大人が、地域の子どもの関心を持ち、ほめたり、注意したりする」などが上位に挙げられています。

地域の学校に対して協力してみたいと思うこととして、「通学路における登下校時の見守り活動」「自分が持つ知識・技能を教える」などが挙げられています。一方、「協力したいことはない」と回答した人が最も高くなっています。

これらの点から、異なる年齢の子どもや異なる世代の地域の人々とのかかわりの中で、様々な体験・経験の機会を提供するとともに、子どもの安全を確保しつつ、地域の大人などの力を集結して子どもを育てる環境を整備することが求められていると考えられます。

## エ 生涯学習・文化などの活動について

生涯学習・文化などの活動に対する今後の活動意向で最も高いものは「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」となっており、「パソコン・インターネットに関すること」「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」がつづいています。また、この1年間の生涯学習・文化などの活動で最も参加割合が高かった活動についても、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」が最も多くなっていますが、今後の活動意向に比べて低い状況です。このことから、本市において、生涯学習・文化などの活動についてのニーズはあるものの、実際の活動につながっていない実態があります。

一方、本市の生涯学習・文化などの活動における取組みの評価としては、「図書館のサービスが充実している」が最も多く、「健康づくりを楽しむ機会が充実している」、「公民館活動が充実している」がつづいています。

リカレント教育や社会人の学び直しについては、「環境が整備されれば学習してみたい」と回答した人が最も高くなっています。

また、本市の生涯学習・文化などの活動をより充実させていくために必要な取組みとして、「コンサートや演劇などの機会の充実」が最も多く、「文化・芸術を気軽に学べる教室の開催」「文化・芸術施設や設備の充実」がつづいています。

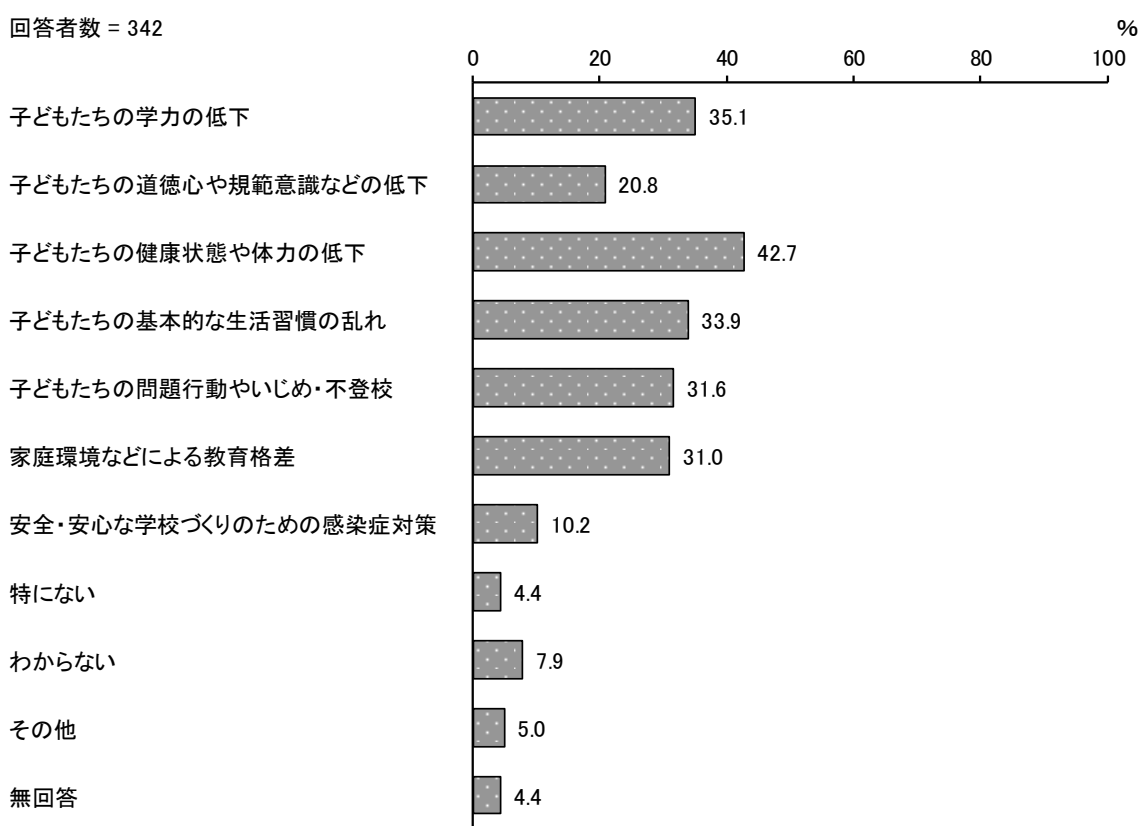
これらの点から、参加への意欲を実際の活動につなげていくためのきっかけづくりや、気軽に参加できる機会づくりや施設等の環境整備が求められていると考えられます。

## (2) 市民意識調査の主な結果

### ① 松原市の子どもたちの教育について不安を感じていること

「子どもたちの健康状態や体力の低下」(42.7%)が最も高く、「子どもたちの学力の低下」(35.1%)、「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」(33.9%)となっています。

子どもたちの教育についての不安

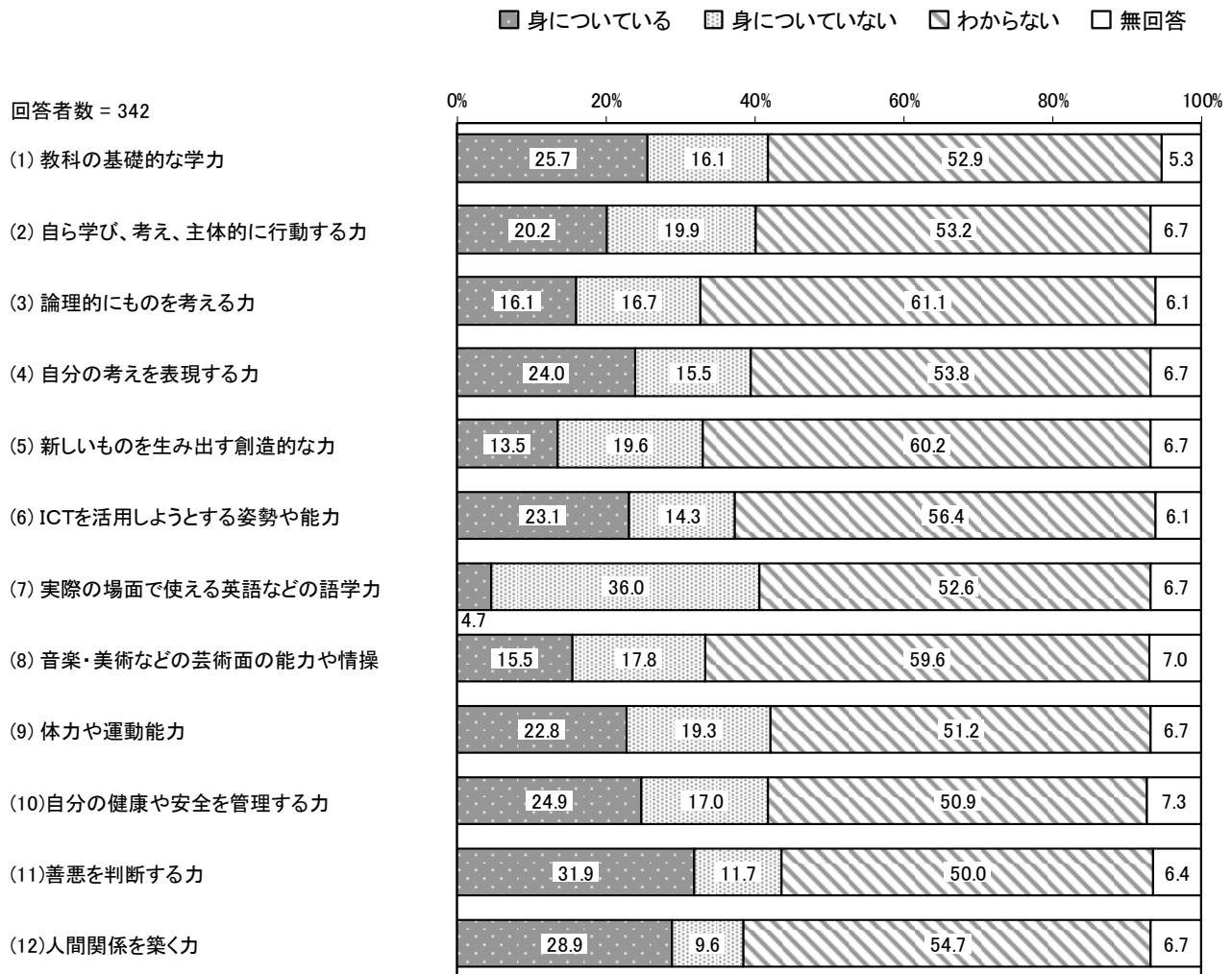


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

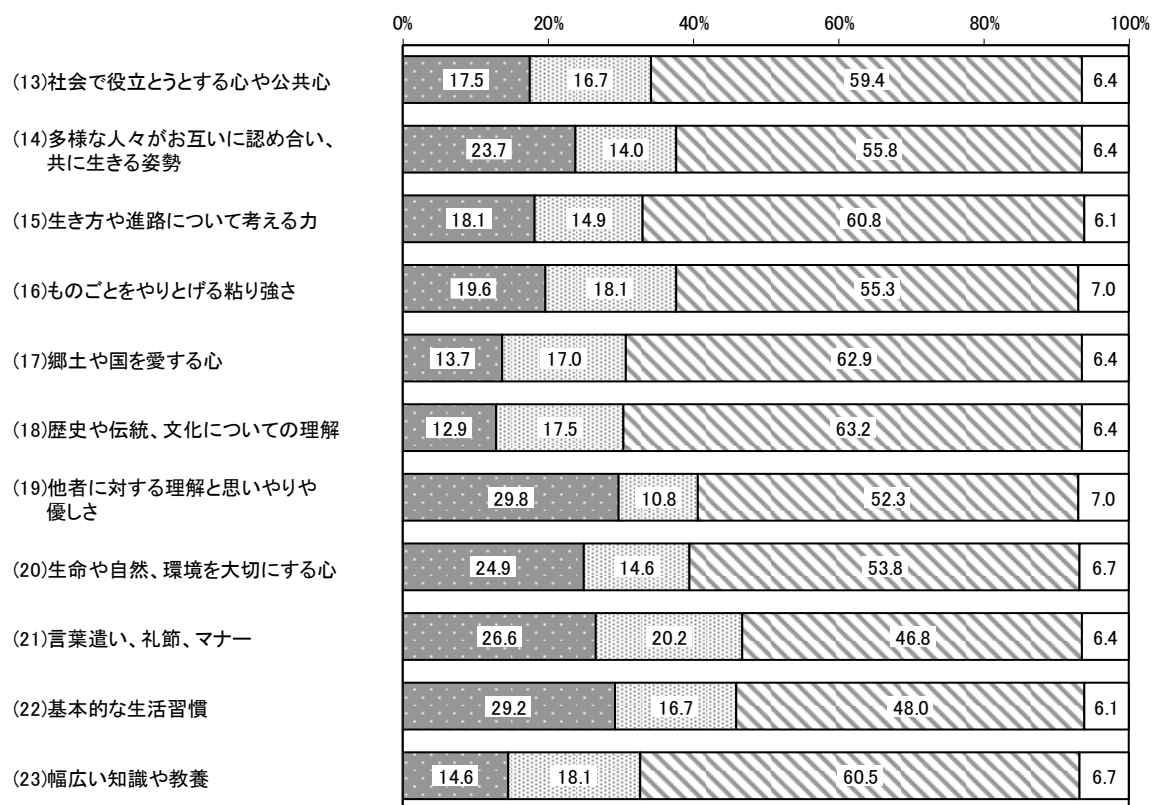
## ② 学校教育で身につけるべき能力や態度について

現在の状況で「身につけている」の割合が高いのは、「善悪を判断する力」(31.9%)、「人間関係を築く力」(28.9%)、「教科の基礎的な学力」(25.7%)、「自分の健康や安全を管理する力」(24.9%)となっています。

学校教育で身につけるべき能力や態度の現在の状況について



■ 身につけている □ 身につけていない ▨ わからない □ 無回答



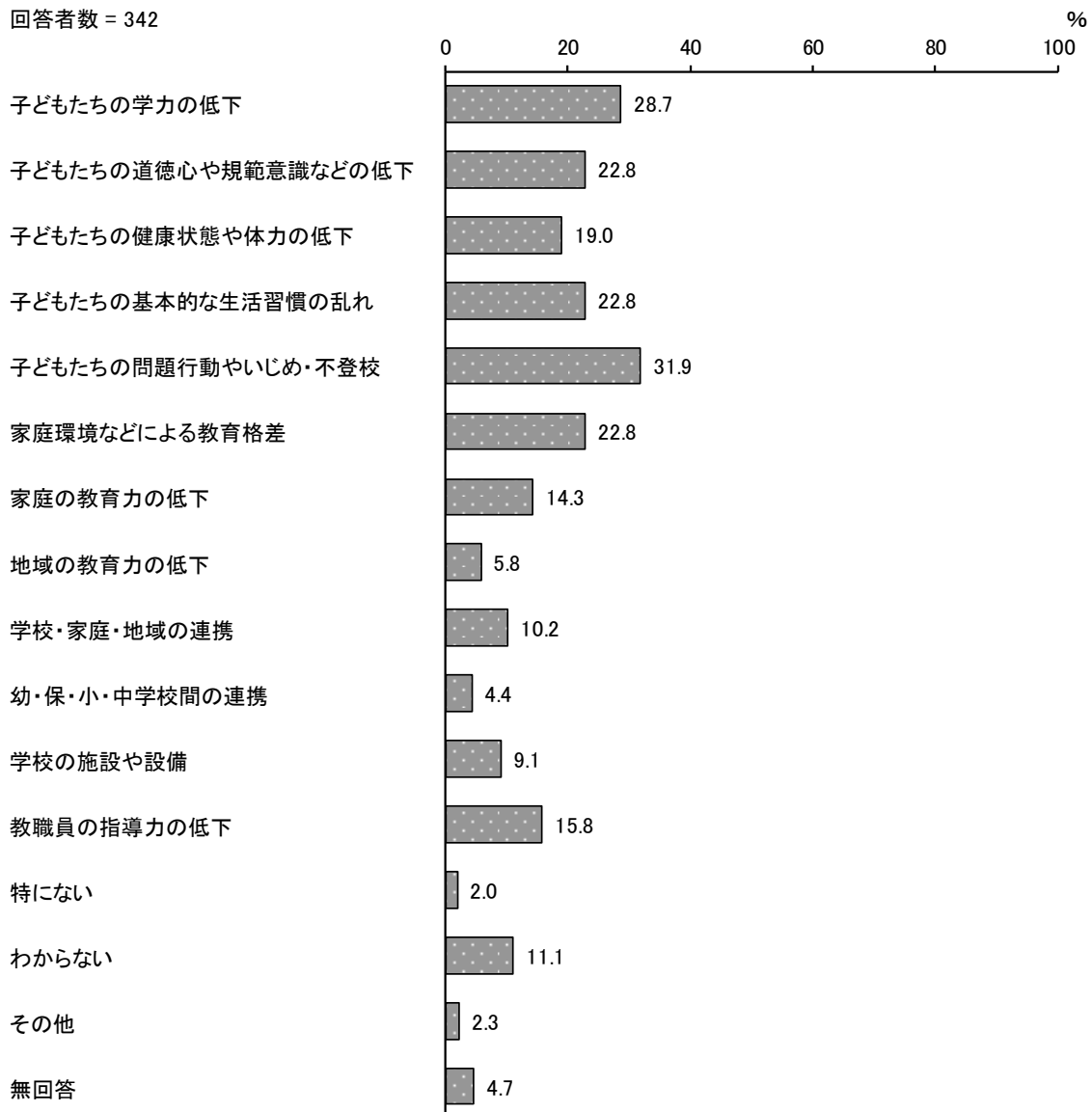
資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）



### ③ 松原市の教育の課題について

「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が31.9%と最も高く、次いで「子どもたちの学力の低下」の割合が28.7%、「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」、「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が22.8%となっています。

松原市の教育の課題について

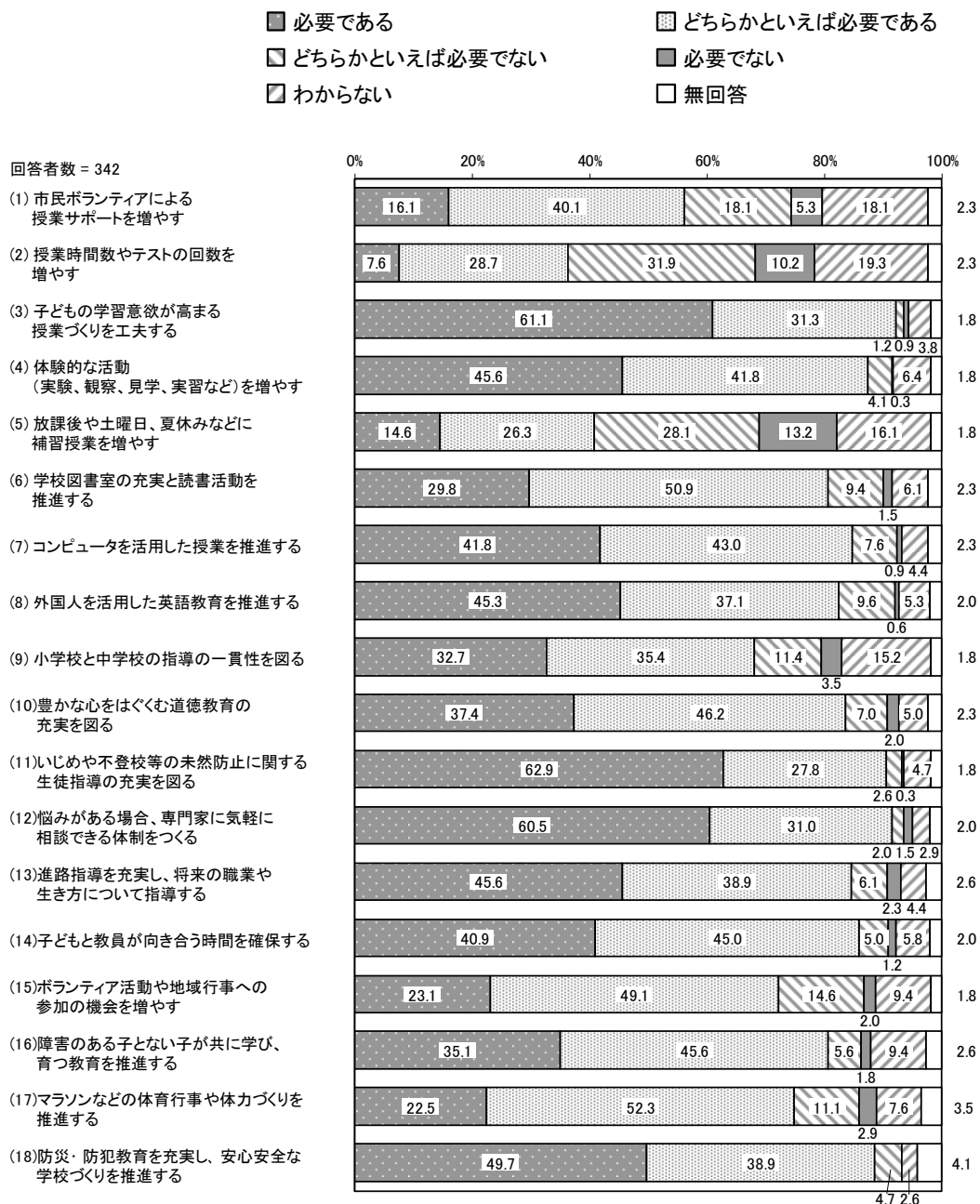


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

#### ④ 力を入れるべき教育施策や教育事業について

必要性について“必要である”（「必要である」＋「どちらかといえば必要である」の合計）の割合が高いのは、「子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する」（92.4%）が最も高く、「悩みがある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる」（91.5%）、「いじめや不登校等の未然防止に関する生徒指導の充実を図る」（90.7%）、「防災・防犯教育を充実し、安心安全な学校づくりを推進する」（88.6%）が続いています。

力を入れるべき教育施策や教育事業について

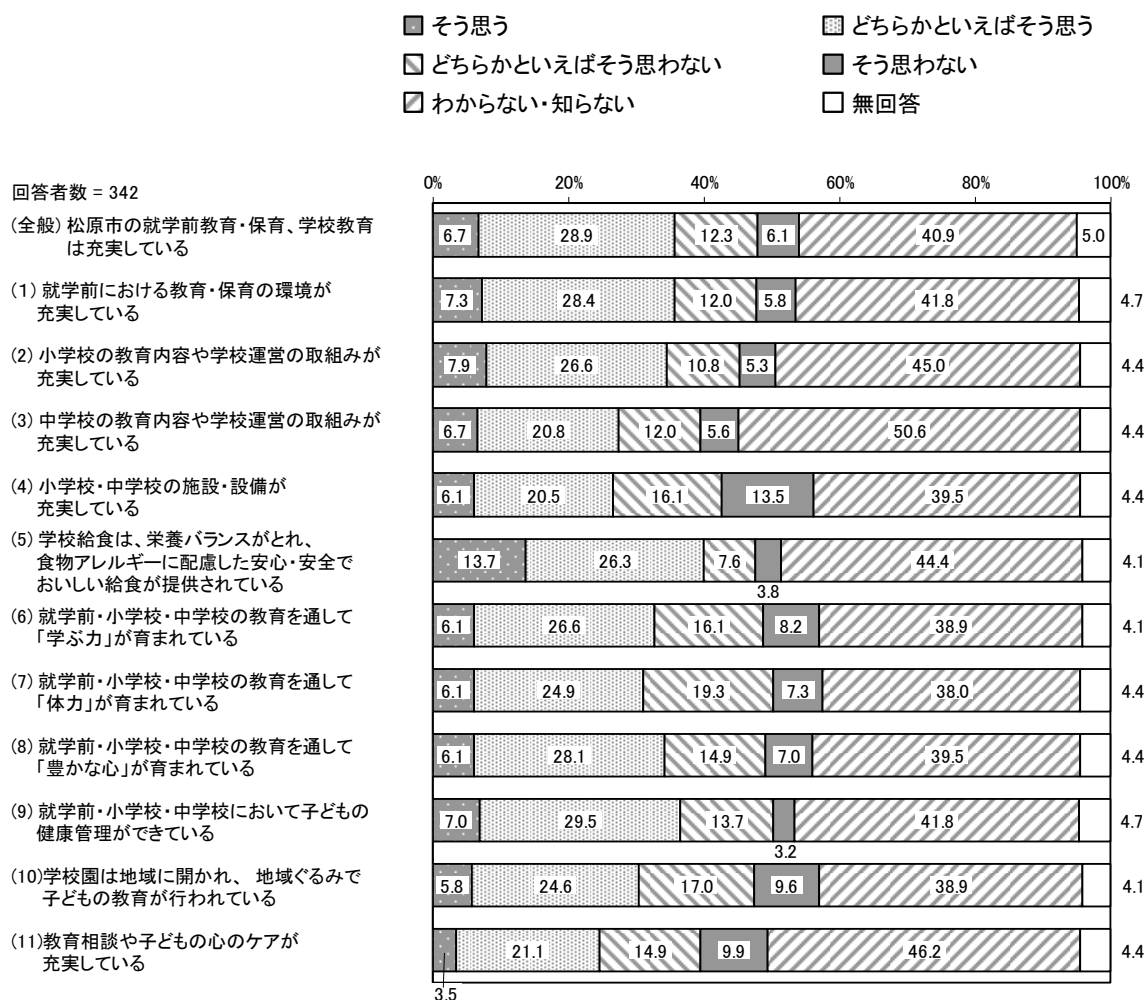


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

## ⑤ 学校園教育における現在の取組みについて

『(5) 学校給食は、栄養バランスがとれ、食物アレルギーに配慮した安心・安全でおいしい給食が提供されている』『(9) 就学前・小学校・中学校において子どもの健康管理ができています』で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”（以下、“そう思う”という。）の割合が高く、『(4) 小学校・中学校の施設・設備が充実している』『(7) 就学前・小学校・中学校の教育を通して「体力」が育まれている』『(10) 学校園は地域に開かれ、地域ぐるみで子どもの教育が行われている』で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”（以下、“そう思わない”という。）の割合が高くなっています。

学校園教育における現在の取組みについて

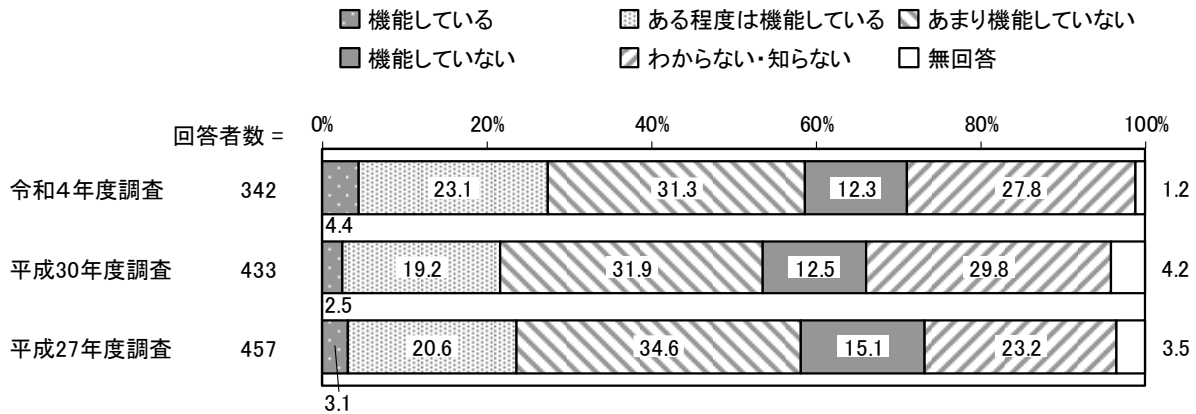


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

⑥ 『地域の教育力』の現状について

地域の教育力（地域社会の中で子どもたちが大人や異なる年齢の友人たちとの交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと）について、機能していると回答した人（「機能している」と「ある程度機能している」の合計）は、今回調査（R4）で27.5%となっており、前回調査（H30）から5.8ポイント増加しています。

地域での教育の現状

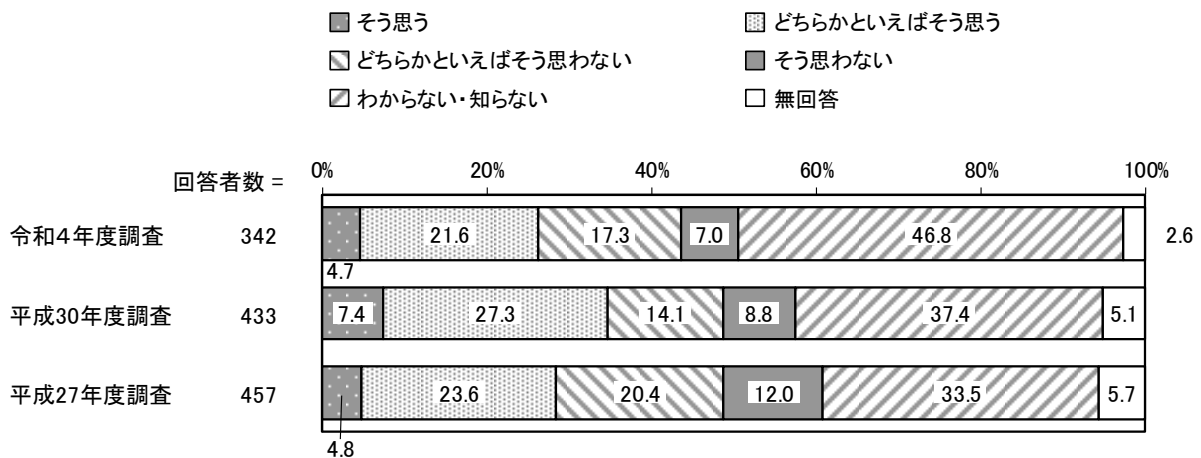


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

⑦ 松原市の生涯学習・文化の現状について

（全般）松原市の生涯学習・文化環境は充実しているかについて、今回調査（R4）では「そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が26.3%となっており、前回調査（H30）から8.4ポイント減少しています。

（全般）松原市の生涯学習・文化環境は充実しているか

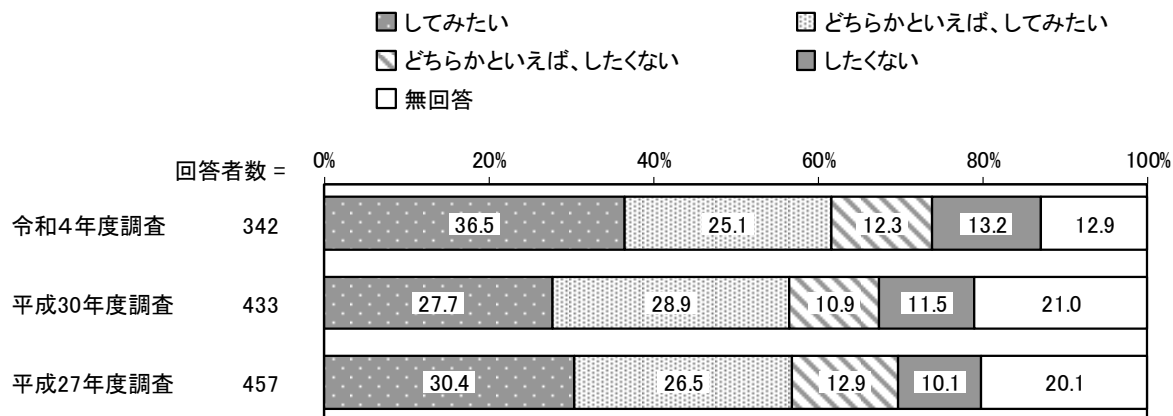


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

### ⑧ 生涯学習・文化活動の希望について

今後の活動意向について、今回調査（R4）では「活動してみたい（「してみたい」と「どちらかといえば、してみたい」の合計）が61.6%となっており、前回調査（H30）から5.0ポイント増加しています。

今後の活動（参加）意向

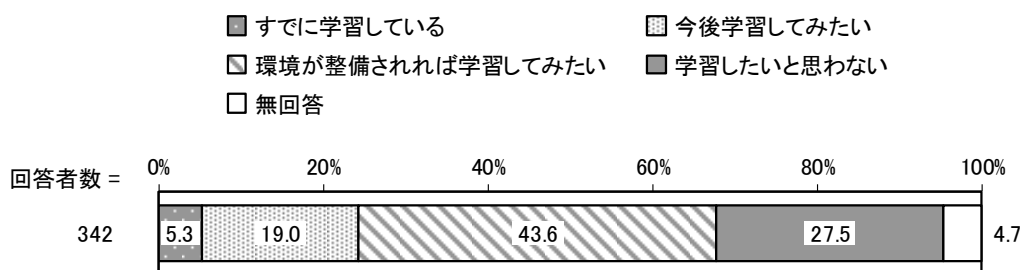


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

### ⑨ 学びなおしについて

「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が43.6%と最も高く、次いで「学習したいと思わない」の割合が27.5%、「今後学習してみたい」の割合が19.0%となっています。

リカレント教育や社会人の学び直しについて

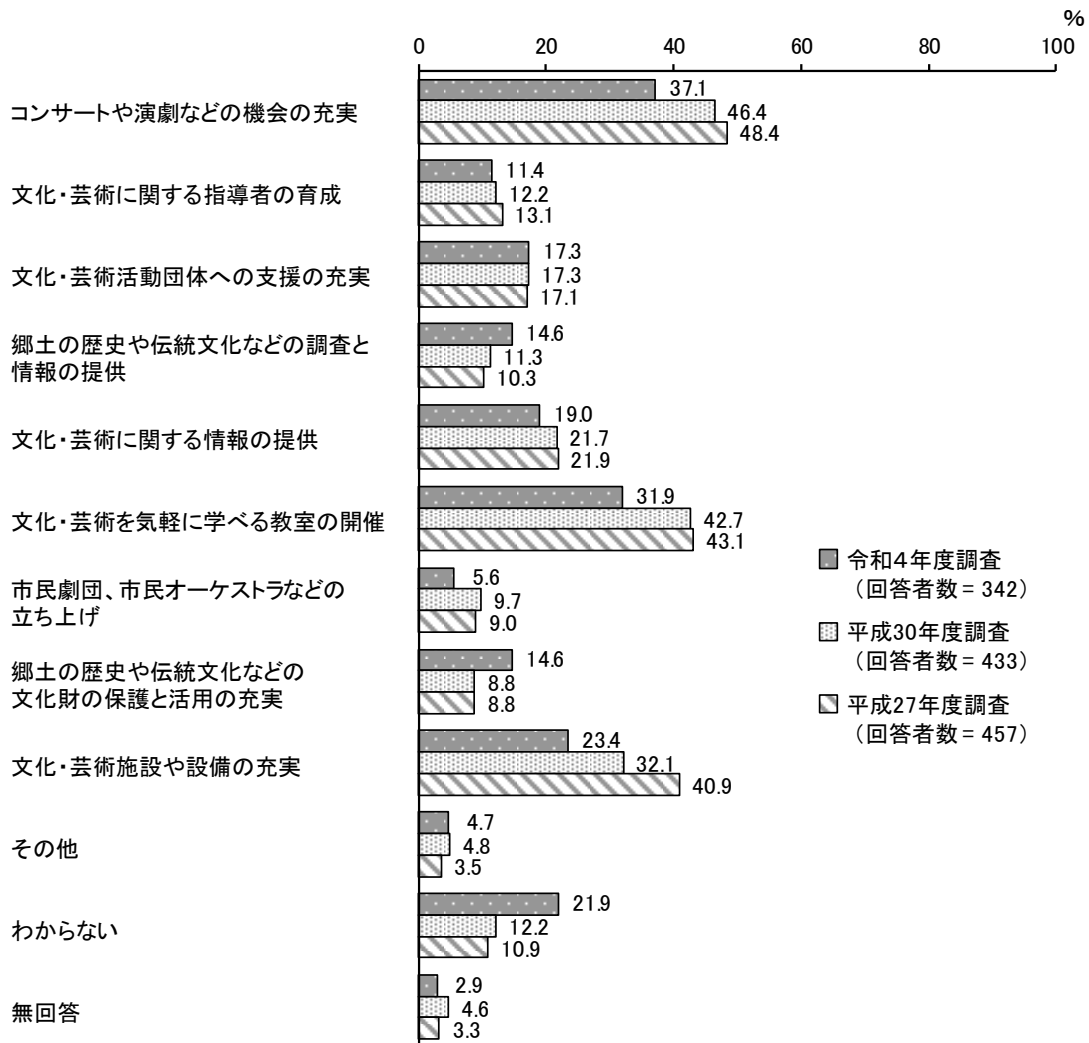


資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

⑩ 松原市の生涯学習・文化活動をより充実させていくために必要な取組みについて

松原市の生涯学習・文化活動をより充実させていくために必要な取組みについて、今回調査（R4）では「コンサートや演劇などの機会の充実」（37.1%）が最も高く、「文化・芸術を気軽に学べる教室の開催」（31.9%）、「文化・芸術施設や設備の充実」（23.4%）が続いており、上位3つの項目は前回調査と同様となっています。

松原市の生涯学習・文化活動をより充実させていくために必要な取組みか



資料：第2期松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査 結果報告書（令和4年）

⑪ 学校教育で身につけるべき能力や態度の現在の状況と重要性について

ア 現在の状況・重要性の得点化

次頁記載の23項目の質問項目について、「現在の状況」と「重要性」を3つと5つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■現在の状況・重要性の得点化の手順■

満足度		得点		重要性		得点
身につけていない	→	-2点		重要でない	→	-2点
わからない	→	0点		あまり重要でない	→	-1点
身につけている	→	2点		わからない	→	0点
無回答	→	計算対象外		やや重要	→	1点
				とても重要	→	2点
				無回答	→	計算対象外

■得点の算出式■

<p>2点×「身につけている(とても重要)」の回答数                  +1点×「やや重要」の回答数                  +0点×「わからない」の回答数                  -1点×「あまり重要でない」の回答数                  -2点×「身につけていない(重要でない)」の回答数／無回答を除く回答数</p>
--

算出された現在の状況・重要性の得点をもとに、各施策の現在の状況・重要性に順位付けを行いました。

■現在の状況・重要性■

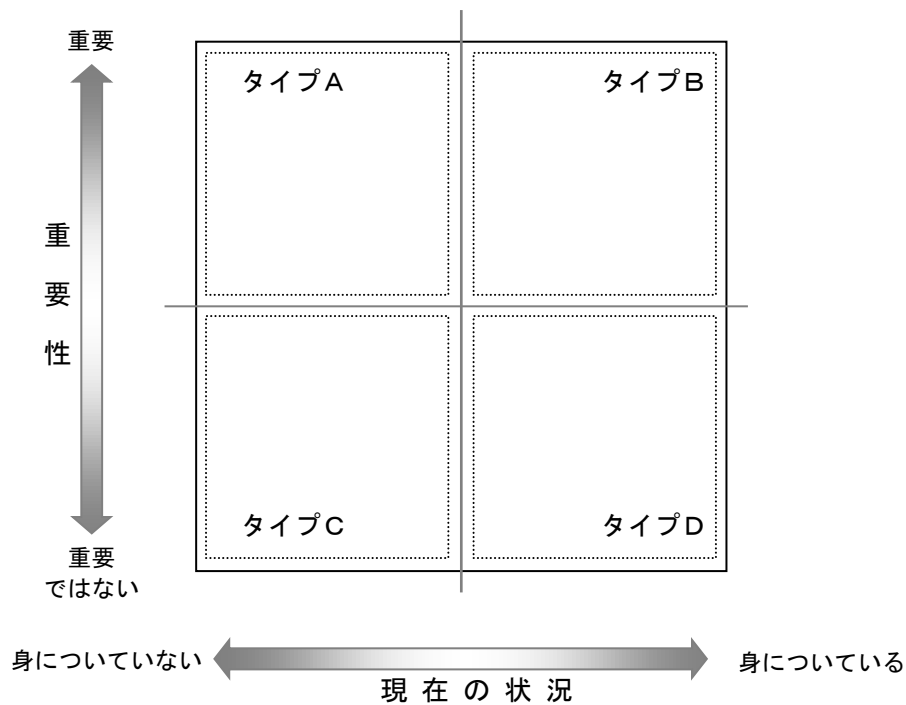
現在の状況	得点	順位	得点	重 要 性
施策名				施策名
(11) 善悪を判断する力	0.43	第1位	1.80	(11) 善悪を判断する力
(12) 人間関係を築く力	0.41	第2位	1.73	(2) 自ら学び、考え、主体的に行動する力
(19) 他者に対する理解と 思いやりや優しさ	0.41	第3位	1.68	(19) 他者に対する理解と 思いやりや優しさ
(22) 基本的な生活習慣	0.27	第4位	1.65	(12) 人間関係を築く力
(20) 生命や自然、環境を 大切にする心	0.22	第5位	1.63	(10) 自分の健康や安全を 管理する力
(14) 多様な人々がお互いに 認め合い、共に生きる姿勢	0.21	第6位	1.60	(21) 言葉遣い、礼節、 マナー
(1) 教科の基礎的な学力	0.20	第7位	1.57	(4) 自分の考えを表現する力
(6) ICTを活用しようとする姿勢や能力	0.19	第8位	1.50	(20) 生命や自然、環境を 大切にする心
(4) 自分の考えを表現する力	0.18	第9位	1.48	(1) 教科の基礎的な学力
(10) 自分の健康や安全を 管理する力	0.17	第10位	1.47	(14) 多様な人々がお互いに 認め合い、共に生きる姿勢
(21) 言葉遣い、礼節、 マナー	0.14	第11位	1.43	(22) 基本的な生活習慣
(9) 体力や運動能力	0.08	第12位	1.40	(16) ものごとをやりとげる 粘り強さ
(15) 生き方や進路について 考える力	0.07	第13位	1.29	(7) 実際の場面で使える 英語などの語学力
(16) ものごとをやりとげる 粘り強さ	0.03	第14位	1.29	(13) 社会で役立つと する心や公共心
(13) 社会で役立つと する心や公共心	0.02	第15位	1.28	(3) 論理的にものを 考える力
(2) 自ら学び、考え、 主体的に行動する力	0.01	第16位	1.27	(15) 生き方や進路について 考える力
(3) 論理的にものを 考える力	-0.01	第17位	1.26	(5) 新しいものを 生み出す創造的な力
(8) 音楽・美術などの芸術 面の能力や情操	-0.05	第18位	1.18	(6) ICTを活用しよう とする姿勢や能力
(17) 郷土や国を愛する心	-0.07	第19位	1.12	(9) 体力や運動能力
(23) 幅広い知識や教養	-0.08	第20位	1.11	(23) 幅広い知識や教養
(18) 歴史や伝統、文化に ついての理解	-0.10	第21位	0.75	(18) 歴史や伝統、文化に ついての理解
(5) 新しいものを 生み出す創造的な力	-0.13	第22位	0.72	(17) 郷土や国を愛する心
(7) 実際の場面で使える 英語などの語学力	-0.67	第23位	0.66	(8) 音楽・美術などの芸術 面の能力や情操

※前計画（後期計画）からの追加設問：「(2) 自ら学び、考え、主体的に行動する力」、  
「(6) ICTを活用しようとする姿勢や能力」、「(14) 多様な人々がお互いに認め合い、  
共に生きる姿勢」



## イ ポートフォリオ分析による現在の状況・重要性の評価

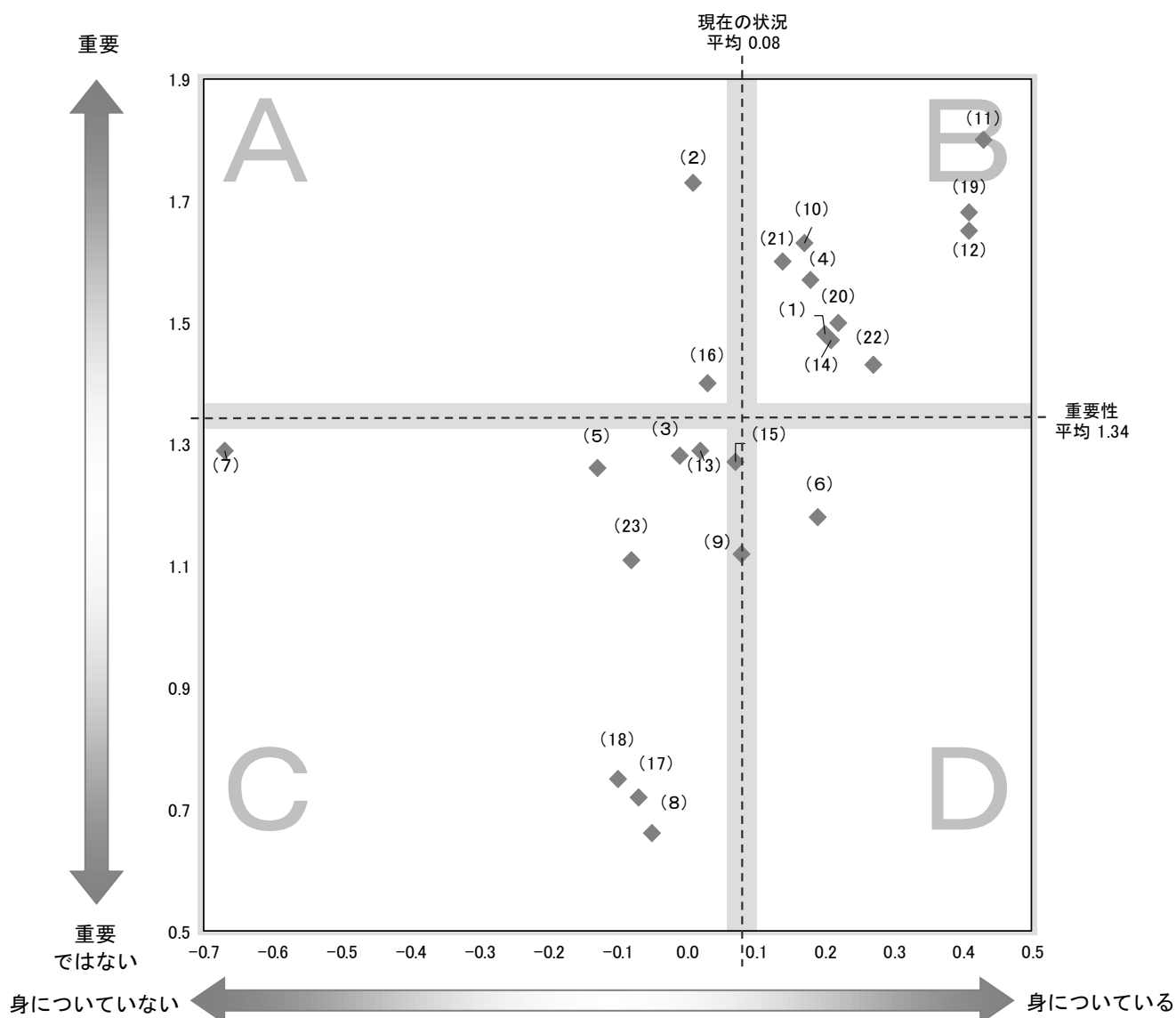
各項目の現在の状況・重要性の得点の関係について、現在の状況・重要性をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。



- ◆タイプA 身についていないが、重要性は高い  
→ 今後の重点課題として検討が必要なタイプ。
- ◆タイプB 身についており、重要性も高い  
→ 事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプ。
- ◆タイプC 身についておらず、重要性も低い  
→ 全体に比べ、重要性および現在の状況が身についていない理由についての検証が必要なタイプ。施策の縮小や廃止などを含めた検討が必要。
- ◆タイプD 身についているが、重要性は低い  
→ これまでの施策が充実した結果、現在の状況が身についているものが含まれていると考えられるタイプ。ただし、施策が過剰になっていないか検討が必要。

●施策のポートフォリオ分析（回答者数 = 342）

身についていないが、重要性は高い施策（タイプA）は、『(2)自ら学び、考え、主体的に行動する力』『(16)ものごとをやりとげる粘り強さ』となっています。

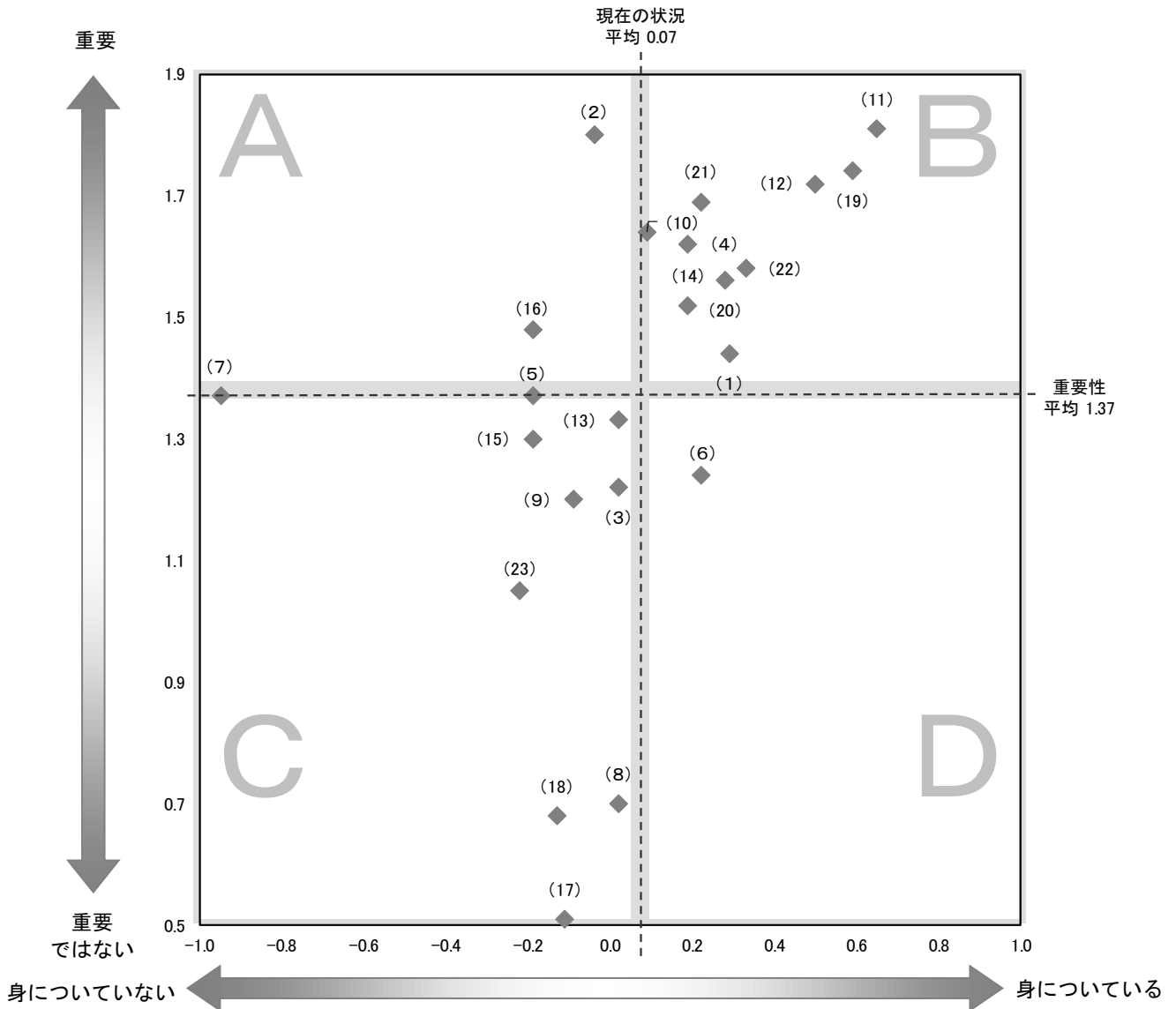


項目	
(1) 教科の基礎的な学力	(13) 社会で役立つとしようとする心や公共心
★(2) 自ら学び、考え、主体的に行動する力	★(14) 多様な人々がお互いに認め合い、共に生きる姿勢
(3) 論理的にものを考える力	(15) 生き方や進路について考える力
(4) 自分の考えを表現する力	(16) ものごとをやりとげる粘り強さ
(5) 新しいものを生み出す創造的な力	(17) 郷土や国を愛する心
★(6) ICTを活用しようとする姿勢や能力	(18) 歴史や伝統、文化についての理解
(7) 実際の場面で使える英語などの語学力	(19) 他者に対する理解と思いやりや優しさ
(8) 音楽・美術などの芸術面の能力や情操	(20) 生命や自然、環境を大切にしようとする心
(9) 体力や運動能力	(21) 言葉遣い、礼節、マナー
(10) 自分の健康や安全を管理する力	(22) 基本的な生活習慣
(11) 善悪を判断する力	(23) 幅広い知識や教養
(12) 人間関係を築く力	

★印は前計画（後期計画）からの追加設問

●施策のポートフォリオ分析（子どものいる世帯（大学生以外の成人の子は除く） 回答者数 = 110）

身についていないが、重要性は高い施策（タイプA）は、『(2)自ら学び、考え、主体的に行動する力』『(5)新しいものを生み出す創造的な力』『(7)実際の場面で使える英語などの語学力』『(16)ものごとをやりとげる粘り強さ』となっています。



項目	
(1) 教科の基礎的な学力	(13) 社会で役立とうとする心や公共心
★(2) 自ら学び、考え、主体的に行動する力	★(14) 多様な人々がお互いに認め合い、共に生きる姿勢
(3) 論理的にものを考える力	(15) 生き方や進路について考える力
(4) 自分の考えを表現する力	(16) ものごとをやりとげる粘り強さ
(5) 新しいものを生み出す創造的な力	(17) 郷土や国を愛する心
★(6) ICTを活用しようとする姿勢や能力	(18) 歴史や伝統、文化についての理解
(7) 実際の場面で使える英語などの語学力	(19) 他者に対する理解と思いやりや優しさ
(8) 音楽・美術などの芸術面の能力や情操	(20) 生命や自然、環境を大切にできる心
(9) 体力や運動能力	(21) 言葉遣い、礼節、マナー
(10) 自分の健康や安全を管理する力	(22) 基本的な生活習慣
(11) 善悪を判断する力	(23) 幅広い知識や教養
(12) 人間関係を築く力	

★印は前計画（後期計画）からの追加設問

### (3) 子どもアンケートの概要

---

#### ① 調査の目的

令和6年度から5カ年を計画期間とする「第2期松原市教育振興基本計画」の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

#### ② 調査対象

松原市在住の小学6年生と中学3年生

#### ③ 調査方法

web

#### ④ 回収状況

	回収数
小学6年生	620通
中学3年生	649通

#### ⑤ 子どもアンケート結果の概要

子どもアンケートの結果から本計画の策定にあたり、児童生徒等の学習状況や生活状況、家庭や地域における教育など、さまざまな課題整理の基礎となるデータを一部抜粋しました。

##### ア 学習への期待度について

「授業や勉強をがんばることであなたにとってどのようなよいことがあると思うか（学習への期待度）」と「いろいろなことにチャレンジする（自己有用感）」との相関性をみると、いろいろなことにチャレンジしたいと思う児童学生ほど、学習への期待度が高くなる傾向があります。

また、「授業や勉強をがんばることであなたにとってどのようなよいことがあると思うか（学習への期待度）」と「自分によいところがある（自己肯定感）」との相関性をみると、自分によいところがあると思う児童学生ほど、学習への期待度が高くなる傾向があります。

## イ 将来の夢があるかについて

「将来の夢があるか」と「いろいろなことにチャレンジする（自己有用感）」、「自分によいところがある（自己肯定感）」との相関性をみると、将来の夢がある児童学生ほどいろいろなことにチャレンジし、自分によいところがあると思う傾向があります。

また、「将来の夢があるか」と「将来なりたい職業があるか」、「目標とする人はいるか」、「地域の大人が自分たちを見守ってくれているか」との相関性をみると、将来の夢がある児童学生ほど、将来なりたい職業、目標とする人がおり、地域の大人たちへの関心が高くなる傾向があります。

#### (4) 子どもアンケートの主な結果

##### ① 学習への期待度について

「いろいろなことにチャレンジしたいと思う」別でみると、「そう思う」で「新しいことを知ることができる」(77.6%)、「どちらかといえばそう思う」で「新しいことを知ることができる」(72.5%)と7割を超えています。

また、いろいろなことにチャレンジしたいと思う児童学生ほど、学習への期待度が高くなる傾向があります。

「授業や勉強をがんばることであなたにとってどのようなよいことがあるか」

×

「いろいろなことにチャレンジしたいと思う」

	全 体	授業や勉強をがんばることであなたにとって どのようなよいことがあるか						
		新しいことを知 ることができる	いろいろな考 え方にな	行動でき るよう	友だちと協 力して	な りやす く伝え るよう	自分の考 えをわか らぬ め(みと めて)も ほめて もらえる ・認 める 通すこ とができ る いかな ど、先 を見 る 何をする とうまく	
全 体	100.0	69.4	54.8	47.6	35.9	41.4	29.1	
いろいろなことにチャ レンジしたいと思 つ	そう思う	100.0	77.6	61.1	59.9	43.6	49.8	36.5
	どちらかといえばそう 思う	100.0	72.5	56.3	50.0	33.8	40.2	26.6
	どちらかといえばそう 思わない	100.0	63.2	51.4	37.7	36.0	38.1	26.3
	そう思わない	100.0	54.7	43.8	21.9	25.0	32.8	26.6
	わからない	100.0	48.8	40.5	29.8	22.6	26.2	20.2

		授業や勉強をがんばることであなたにとって どのようなよいことがあるか					
		自分なりの表現が できるようになる	自分自身のこと を も つ と 知 る こ と が で き る よ う に な る	自分以外の人 たち の 気 持 ち を も つ と 知 る こ と が で き る よ う に な る	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		42.2	23.7	31.0	8.4	3.0	1.5
いろいろなことにチャ レンジしたいと思 つ	そう思う	50.2	35.0	40.9	4.7	3.2	0.5
	どちらかといえばそう 思う	44.5	19.9	30.8	4.6	2.0	0.9
	どちらかといえばそう 思わない	36.4	17.8	22.7	9.3	2.4	1.2
	そう思わない	21.9	9.4	14.1	20.3	4.7	4.7
	わからない	26.2	17.9	22.6	33.3	8.3	1.2

資料：子どもアンケート調査（令和4年）

「自分にはよいところはある」別でみると、「そう思う」で「新しいことを知ることが出来る」(80.8%)が最も高くなっています。

また、自分にはよいところはあると思う児童学生ほど、学習への期待度が高くなる傾向があります。

「授業や勉強をがんばることであなたにとってどのようなよいことがあるか」

×

「自分にはよいところがある」

	全 体	授業や勉強をがんばることであなたにとって どのようなよいことがあるか					
		新 し い こ と を 知 る こ と が で き る	あ い ろ あ い ろ な 考 え 方 が で き る よ う に な る	あ い ろ あ い ろ な 考 え 方 が で き る よ う に な る	あ い ろ あ い ろ な 考 え 方 が で き る よ う に な る	あ い ろ あ い ろ な 考 え 方 が で き る よ う に な る	あ い ろ あ い ろ な 考 え 方 が で き る よ う に な る
全 体	100.0	69.4	54.8	47.6	35.9	41.4	29.1
よ い と こ ろ に は 自 分 に は あ る	そう思う	100.0	80.8	65.1	56.7	47.1	37.2
	どちらかといえばそう 思う	100.0	71.8	55.5	51.3	35.8	27.3
	どちらかといえばそう 思わない	100.0	66.3	52.9	39.5	32.6	25.0
	そう思わない	100.0	42.3	37.8	33.3	22.5	23.4
	わからない	100.0	60.2	46.2	36.8	26.3	25.1

	全 体	授業や勉強をがんばることであなたにとって どのようなよいことがあるか					無 回 答
		自 分 な り の 表 現 が で き る よ う に な る	自 分 自 身 の こ と を も っ と 知 る こ と が で き る よ う に な る	自 分 以 外 の 人 た ち の 気 持 ち を も っ と 知 る こ と が で き る よ う に な る	わ か ら な い	そ の 他	
全 体	42.2	23.7	31.0	8.4	3.0	1.5	
よ い と こ ろ に は 自 分 に は あ る	そう思う	52.4	33.9	42.3	3.5	0.5	
	どちらかといえばそう 思う	45.8	22.8	30.8	2.8	1.0	
	どちらかといえばそう 思わない	32.0	15.7	23.3	11.0	2.9	
	そう思わない	32.4	16.2	21.6	22.5	-	
	わからない	29.2	15.2	19.9	21.1	3.5	1.2

資料：子どもアンケート調査（令和4年）

## ② 将来の夢について

「将来の夢があるか」別で見ると、「将来の夢がある」で「そう思う」(44.6%)と最も高く、次いで「将来の夢がなんとなくある」で「どちらかといえばそう思う」(41.9%)となっています。

また、将来の夢がある児童学生ほど、自己有用性が高くなる傾向があります。

「いろいろなことにチャレンジする」×「将来の夢がありますか」

		全 体	いろいろなことにチャレンジする					無 回 答
			そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	
全 体		100.0	31.8	35.9	19.4	5.0	6.6	1.3
あ り ま す か	あ る	100.0	44.6	34.8	11.8	4.1	4.3	0.4
	な ん と な く あ る	100.0	25.9	41.9	21.5	3.3	6.4	0.9
	な い	100.0	21.1	29.6	28.6	9.1	10.4	1.3

資料：子どもアンケート調査（令和4年）

「将来の夢があるか」別で見ると、「将来の夢がある」で「そう思う」(42.8%)と最も高く、次いで「将来の夢がなんとなくある」で「どちらかといえばそう思う」(34.8%)となっています。

また、将来の夢がある児童学生ほど、自己肯定感が高くなる傾向があります。

「自分にはよいところがある」×「将来の夢がありますか」

		全 体	いろいろなことにチャレンジする					無 回 答
			そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	
全 体		100.0	31.0	31.3	13.5	8.7	13.4	2.1
あ り ま す か	あ る	100.0	42.8	30.3	10.0	5.9	9.8	1.2
	な ん と な く あ る	100.0	27.1	34.8	16.0	8.0	12.9	1.3
	な い	100.0	18.9	28.9	16.0	14.2	20.1	1.9

資料：子どもアンケート調査（令和4年）



「将来の夢があるか」別で見ると、「将来の夢がある」で「なりたい職業がある」(73.1%)と最も高く、次いで「将来の夢がない」で「なりたい職業を考えているがまだ決まっていない」(67.0%)となっています。

また、将来の夢がある児童学生ほど、将来なりたい職業がある傾向があります。

「将来なりたい職業がある」×「将来の夢がありますか」

		全 体	将来なりたい職業がある				無 回 答
			る な り た い 職 業 が あ る	る ん と な く 決 め て い な い	ま え て い る が ま だ 決 ま て い な い	な い な り た い 職 業 に つ いて 考 え た こ と が あ る	
全 体		100.0	30.9	16.4	40.8	11.1	0.9
あ り ま す か	ある	100.0	73.1	11.8	10.6	4.5	-
	なんとなくある	100.0	6.2	31.9	55.7	5.3	0.9
	ない	100.0	1.3	1.9	67.0	29.6	0.3

資料：子どもアンケート調査（令和4年）

「将来の夢があるか」別で見ると、「将来の夢がある」で「いる」(66.4%)と最も高く、次いで「将来の夢がない」で「いない」(54.7%)となっています。

また、将来の夢がある児童学生ほど、目標とする人がいる傾向があります。

「目標とする人がいるか」×「将来の夢がありますか」

		全 体	目標とする人がいるか			無 回 答
			い る	な ん と な く い る	い な い	
全 体		100.0	44.6	26.2	28.2	1.0
あ り ま す か	ある	100.0	66.4	20.0	13.4	0.2
	なんとなくある	100.0	37.7	35.3	26.2	0.9
	ない	100.0	21.4	23.6	54.7	0.3

資料：子どもアンケート調査（令和4年）

「将来の夢があるか」別でみると、「将来の夢がある」で「感じる」(39.9%)と最も高く、次いで「将来の夢がなんとなくある」で「たまに感じる」(36.4%)となっています。

また、将来の夢がある児童学生ほど、地域の大人に対する関心が高い傾向があります。

「地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じるか」×「将来の夢がありますか」

		全 体	地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じるか				
			感じる	たまに感じる	あまり感じない	感じない	無回答
全 体		100.0	33.0	31.3	24.2	10.5	1.0
あ り ま す か	ある	100.0	39.9	28.3	21.8	9.4	0.6
	なんとなくある	100.0	31.7	36.4	21.7	9.5	0.7
	ない	100.0	25.5	29.6	30.8	13.8	0.3

資料：子どもアンケート調査（令和4年）

## (5) 市民意識調査アンケート、子どもアンケートの結果と計画への反映点

国の方針等を受け、アンケート調査で把握したニーズを踏まえ、以下の内容を第2期教育振興基本計画に盛り込みました。

### ◆市民意識調査

アンケート結果（市民意識調査）	第2期教育振興基本計画への反映
子どもたちに望む、将来像について（上位3つ） 1. まわりの人に思いやりがある人 2. 規則を守り、他人に迷惑をかけない人 3. 自分の意思を適切に表現できる人	基本方針1 重点施策（2） 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み ⇒P●
学校教育で身につけるべき能力や態度（現在の状況）について 【身につけている項目（上位3つ）】 1. 善悪を判断する力 2. 人間関係を築く力 3. 他者に対する理解と思いやりや優しさ 【身につけていない項目（上位3つ）】 1. 実際の場面で使える英語などの語学力 2. 新しいものを生み出す創造的な力 3. 歴史や伝統、文化についての理解	基本方針1 重点施策（1） 社会の変化に応える確かな学力の育成 及び ⇒P● 重点施策（2） 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み ⇒P●
学校教育で身につけるべき能力や態度（重要性）について（上位3つ） 1. 善悪を判断する力 2. 自ら学び、考え、主体的に行動する力 3. 他者に対する理解と思いやりや優しさ	基本方針1 重点施策（1） 社会の変化に応える確かな学力の育成 及び ⇒P● 重点施策（2） 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み ⇒P●
力を入れるべき教育施策や教育事業について（上位3つ） 1. 子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する 2. 悩みがある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる 3. いじめや不登校等の未然防止に関する生徒指導の充実を図る 4. 防災、防犯教育を充実し、安心安全な学校づくりを推進する	基本方針1 重点施策（1） 社会の変化に応える確かな学力の育成 及び ⇒P● 重点施策（2） 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み ⇒P● 基本方針2 重点施策（1） 安心・安全な学校園づくりの推進 ⇒P● 基本方針3 重点施策（2） 青少年の健全育成の推進 ⇒P● 基本方針4 重点施策（1） 生涯学習の機会の拡充と歴史・文化の振興 ⇒P●

◆子どもアンケート

アンケート結果（子どもアンケート）	第2期教育振興基本計画への反映
<p>「授業や勉強をがんばることであなたにとってどのようなよいことがあると思うか（学習への期待度）」、について、「いろいろなことにチャレンジする」（自己有用感）と「自分にはよいところがある」（自己肯定感）との相関をみると、自己有用感や自己肯定感に肯定的であるほど、学習への期待度が高くなる傾向がみられ、より主体的・対話的で深い学びを自ら実践していると考えられる。</p>	<p>基本方針1 重点施策（1） 社会の変化に応える確かな学力の育成 及び ⇒P● 重点施策（2） 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み ⇒P●</p>
<p>将来の夢がある児童・生徒ほど、自己有用感と自己肯定感に肯定的な割合が高くなる傾向がみられる他、将来なりたい職業、目標とする人がおり、地域の大人たちへの関心が高くなっていることから、自らの生き方について、夢や希望を育むことができる取組みが求められる。</p>	<p>基本方針3 重点施策（1） コミュニティ・スクールの推進及び学校園と地域の協働による家庭教育支援 ⇒P●</p>

## 4 松原市教育振興基本計画（後期計画）の総括

---

## 1 松原市教育大綱

### (1) 策定の趣旨及び大綱の位置付け

本市の教育、学術及び文化等の振興に関する施策の基本的な方針を示す「松原市教育大綱」（以下「大綱」という。）を定めます。この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき総合教育会議において、市長と教育委員会が協議し、教育行政を推進するため市長が策定するものです。

なお、この大綱については、松原市の教育方針となるため、教育、学術及び文化の振興に関わる全ての教員及び職員は遵守しなければなりません。

### (2) 策定にあたっての考え方と計画期間

この大綱は、国・府の教育振興基本計画（※1）を参酌した上で、平成31年3月に策定された松原市第5次総合計画との整合性を図り、これまでの大綱の基本理念・基本的な方針を継承し、新たに教育目的（ビジョン）を定め、本市の教育の現状を踏まえた必要な修正を加え、令和10年度までの期間とするものです。

※1：（国）第4期教育振興基本計画（計画期間：令和5年度～令和9年度）

大阪府教育振興基本計画（計画期間：令和5年度～令和14年度）

### (3) 基本理念

社会全体で人を育て、人が輝くための教育

#### (4) 教育目的（ビジョン）

---

基本理念の方向性を明確に示すために、教育目的（ビジョン）を定めます。

今後の社会を構成する当事者として、責任ある行動をとり、自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越える力、それらを総合し、「人間力」と表現します。

### 未来を切り拓く「人間力」の育成

#### ○目指す子ども像○

- ・ 将来への夢を持ち、地道に努力を重ねる子ども
- ・ 運動や学習、何事にも意欲的に取り組む子ども
- ・ 自分から挨拶できる等、豊かな人間関係をつくれる子ども
- ・ 自分と家族、他者（ひと）を大切にできる、思いやりのある子ども
- ・ 故郷まつばらを誇れる子ども

#### (5) 基本方針

---

##### (1) 「確かな学力」の向上を図るとともに「生きる力」を育みます

- ①生きて働く知識・技能の習得とともに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成といった「確かな学力」を育むため、学校園全体で組織的・計画的にさまざまな学力向上の方策に取り組む。また、学びに向かう力や創造力を養うため、学校園での取組みの充実に合わせて、家庭学習や基本的生活習慣の確立に向け、家庭への啓発を図る。
- ②社会の一員として生きていくための規律・規範の確立と道徳教育やキャリア教育などを通し、全ての子どもがいじめを許さず、互いの人権を尊重するなど豊かな人間性の育成に努める。また、きめ細かな指導・支援ができる「ともに学び、ともに育つ」学校園づくりを進めるとともに、不登校の未然防止と、継続的な支援の推進を図る。
- ③教育活動全体を通じて、発達段階に応じた健康教育を進めるとともに、体力の向上にむけた運動機会の確保に努める。また、安心・安全な学校給食の提供を行い、小中学校での食育の充実を努める。

(2) 安心・安全に学ぶことができる学校園づくりを推進します

- ①セーフコミュニティの理念のもと、体および心のけがの原因となる事故、暴力等の予防に児童生徒が主体的に取り組む活動（インターナショナルセーフスクール）や学校園施設の予防保全の考えによる維持管理等により、安心・安全な学校園づくりを進める。
- ②教育公務員として求められる資質・能力の向上に努め、保護者や地域から信頼され、開かれた学校園づくりを進める。

(3) 学びや育ちを支えるための地域における協働の取組みを推進します

- ①コミュニティ・スクールを核として、学校園と地域住民が協働し、教育活動への主体的な参画とともに、地域の活性化やネットワーク化を進める。
- ②全ての子どもが地域社会とつながりを持ち、多様化する児童虐待などを見逃さない地域コミュニティの充実を図るとともに、スクールソーシャルワーカー等の専門家や関係諸機関とも連携し、子どもの支援を一層進める。

(4) 郷土への愛着を深めるとともに、誰もが学び続けられる機会を提供します

- ①全ての市民が、生きがいを持ち、心豊かで、健康な生活を送るため、市民ニーズや人権などに配慮した交流や学びの機会を提供するとともに、学んだことを社会に還元できる環境を整えていく。
- ②市民の学びたい、交流したい、社会に働きかけたいなどの多様化するニーズに応えられるよう、図書館、公民館などを有効に活用し、教育と文化の発展及び魅力あるまちづくりに寄与していく。
- ③市民の財産である文化財を後世に伝えるため、文化財の保護・保存に努めていく。また、文化財に親しむ機会の充実や文化財愛護意識の啓発など郷土への愛着と理解を深めていく。



## (6) 関連法令条文（抜粋）

---

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律＜平成26年6月20日改正＞

（大綱の策定等）

第1条の3 地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下単に「大綱」という。）を定めるものとする。

2 地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、次条第1項の総合教育会議において協議するものとする。

3 地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 第1項の規定は、地方公共団体の長に対し、第21条に規定する事務を管理し、又は執行する権限を与えるものと解釈してはならない。

○教育基本法＜平成18年12月22日法律第120号＞

（教育振興基本計画）

第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

## 2 施策の体系

[ 松原市教育大綱 ]

[ 基本理念 ] [ 教育目的（ビジョン） ] [ 目指す子ども像 ]

[ 基本方針 ]

社会全体で人を育て、人が輝くための教育

未来を切り拓く「人間力」の育成

- ・ 将来への夢を持ち、地道に努力を重ねる子ども
- ・ 運動や学習、何事にも意欲的に取り組む子ども
- ・ 自分から挨拶できる等、豊かな人間関係をつくれる子ども
- ・ 自分と家族、他者（ひと）を大切にできる、思いやりのある子ども
- ・ 故郷まつばらを誇れる子ども

基本方針 1 「確かな学力」の向上を図るとともに「生きる力」を育みます

基本方針 2 安心・安全に学ぶことができる学校園づくりを推進します

基本方針 3 学びや育ちを支えるための地域における協働の取組みを推進します

基本方針 4 郷土への愛着を深めるとともに誰もが学び続けられる機会を提供します



[ 重点目標 ]

[ 主な取組み ]

(1) 社会の変化に応える確かな学力の育成

(1) - 1 家庭・地域との協働と検証をととした「確かな学力」の育成

- ①地域とともにある学校園づくり (P●●)
- ②外国語活動・英語教育の指導の充実 (P●●)
- ③郷土愛を育む教育の推進 (P●●)
- ④「学力向上アクションプランアンケート」の実施と検証・改善 (P●●)
- ⑤学力向上のための校内研究体制の充実 (P●●)
- ⑥個に応じた指導の充実と改善 (P●●)
- ⑦情報活用能力の育成と ICT を有効に活用した教育活動の推進
- ⑧放課後学習など、自学自習力の育成と家庭学習習慣
- ⑨「本好きな子どもを育てる」読書環境整備・読書活

(2) 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み

(2) - 1 規律・規範の確立と「ともに学び、ともに育つ」学校づくり

- ①道徳教育の充実 (P●●)
- ②生徒指導の充実・強化 (P●●)
- ③いじめの未然防止及び早期解決や不登校に対する組織的対応の推進 (P●●)
- ④人権尊重の教育の徹底 (P●●)
- ⑤「ともに学び、ともに育つ」支援教育の推進 (P●●)
- ⑥キャリア教育の充実 (P●●)
- ⑦教育相談・支援体制の充実 (P●●)
- ⑧体力の向上と健康教育の充実 (P●●)
- ⑨給食を活用した学校全体での食育の取組み (P●●)
- ⑩国際相互理解や相互信頼を深める取組み (P●●)

(1) 安心・安全な学校園づくりの推進

(1) - 1 学習環境の充実

- ①学校における教育環境などの調査研究と整備 (P●●)
- ②各小中学校のトイレ、空調設備などの整備 (P●●)

(1) - 2 安心・安全な学校園づくり

- ①セーフスクールの推進 (P●●)
- ②学校施設の点検・整備 (P●●)
- ③各幼稚園施設の更新 (P●●)
- ④学校の危機管理体制の確立及び防災・防犯に関する教育の充実
- ⑤管理員配置や防犯
- ⑥安心・安全な学校
- ⑦地域の協力団体と

(2) 持続可能な学校園運営体制の充実と教育員の資質向上

(2) - 1 学校園運営体制の確立と開かれた学校園づくり

- ①経験年数の少ない教職員を対象にした育成の強化 (P●●)
- ②多様な研修への積極的な参加と全ての教職員の資質向上 (P●●)
- ③学校における「働き方改革」の推進 (P●●)
- ④学校園だより・校園長だより・ホームページの充実など、積極

(1) コミュニティ・スクールの推進及び学校園と地域の協働による家庭教育支援

(1) - 1 地域の教育力の向上と教育コミュニティの育成

- ①いきいき事業の推進 (P●●)
- ②地域の総合的教育力の向上 (P●●)
- ③「子ども110番の家」運動の推進 (P●●)
- ④学校・家庭・地域・行政の連携による教育支援活動の促進 (P●●)
- ⑤学校施設の開

(2) 青少年の健全育成の推進

(2) - 1 地域で取り組む青少年の健全育成

- ①青少年健全育成団体の活動支援 (P●●)
- ②青少年対策会議の活用 (P●●)
- ③少年自然の家の利活用 (P●●)

(1) 生涯学習の機会の拡充と歴史・文化の振興

(1) - 1 生涯学習の充実と「智の拠点」づくり

- ①松原市生涯学習地域サポーター（通称：まっ com）の活用 (P●●)
- ②地域・家庭の教育力の向上 (P●●)
- ③地域の仲間づくり (P●●)
- ④公民館グループ活動の促進 (P●●)
- ⑤読書環境の充実 (P●●)
- ⑥市民図書館における乳幼児向けサービスの充実 (P●●)
- ⑦市民図書館と学校との連携の推進 (P●●)
- ⑧図書館ボランティアの養成 (P●●)
- ⑨市民図書館におけるレファレンスサービスの広報 (P●●)



# 第 4 章

## 計画の内容

### 1 計画の見方

#### 2 施策の展開

基本方針 1 「確かな学力」の向上を図るとともに「生きる力」を育みます

重点施策（1） 社会の変化に応える確かな学力の育成

##### 基本方針のねらい

新学習指導要領実施を踏まえ、子どもたちが、学習内容を自分の人生や社会のあり方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けていくために、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学び創造力を持つ子どもの育成を目指します。また、ICT機器を効果的に活用した探究的な学習の充実や、情報リテラシー教育の推進などを図ります。

##### 指標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
全国学力・学習状況調査における平均正答率	子どもたちの学力が向上・維持できているか	小学校 57.9% (全国 64.4%) 中学校 52.8% (全国 60.2%)	R10 全国平均	小学校(国語、算数)、中学校(国語、数学)の平均正答率	教育推進課

##### 【基本方針のねらい】

この重点施策で実施する施策の方向性について記載しています。

##### 【指標】

重点施策の達成度を測るための指標です。

##### 対処すべき課題と今後の対応

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、児童・生徒の学力の低下に不安を感じるなど、子どもたちの学力の低下に不安を感じるなかで、学びに向かう力を養うための学習や基本的な生活習慣の確立に向け、活動を推進する必要があります。

##### 【対処すべき課題と今後の対応】

市民意識調査アンケートなどからみえた現状や課題について記載しています。

##### 【今後の方向性】

重点施策における取組みの今後の方向性について記載しています。

##### 今後の方向性

- ◆学校の特色と創意を活かした適正な教育課程の編成と実施
- ◆的確な学力実態把握と、言語活動がより充実した授業改善をとおして、「主体的・対話的で深い学び」の具現化及び一層の学力向上の取組みの充実
- ◆児童・生徒の一人一台端末及びクラウド環境を効果的に活用した教育活動の研究と実施
- ◆家庭との連携による家庭学習や生活習慣の定着に向けた取組みの充実

##### 主な取組み

(1) -1 家庭・地域との協働と検証をとおした「確かな学力」の育成  
<今後の方向性>

- ◆学校の特色と創意を活かした適正な教育課程の編成と実施

主な取組み	内容	関係部署
① 地域とともにある学校づくり	学校運営について、学校、家庭、地域、行政が協働し、就学前教育との連携を図るとともに、小・中学校9年間の一貫した教育を進めていくことで、多様性と包摂性がもたらす持続的な社会の発展に向けた松原市の学校教育の一層の充実を図ります。	教育推進課

##### 【主な取組み】

取組みの具体的な内容を記載しています。

## 2 施策の展開

### 基本方針 1 「確かな学力」の向上を図るとともに「生きる力」を育みます

#### 重点施策（1） 社会の変化に応える確かな学力の育成

##### 施策の方向基本方針のねらい

新学習指導要領実施を踏まえ、子どもたちが、学習内容を自分の人生や社会のあり方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けていくために、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学び創造力を持つ子どもの育成を目指します。また、ICT機器を効果的に活用した探究的な学習の充実や、デジタル・シティズンシップ情報リテラシー教育の推進などを図ります。

##### 指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(A-1) 全国学力・学習状況調査における平均正答率	子どもたちの学力が向上・維持できているか	小学校 57.9% (全国 64.4%) 中学校 52.8% (全国 60.2%)	R10 全国平均	小学校（国語、算数）、中学校（国語、数学）の平均正答率	教育推進課
(A-2) 授業において自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童・生徒の割合	主体的・対話的で深い学びが推進されているか	小学校 79.6% 中学校 93.6%	小学校 88.0% 中学校 94.0%	「授業において自分の考えを発表する機会が与えられていますか」の質問に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童・生徒の割合	教育研修センター
(A-3) 読書が好きな児童・生徒の割合	子どもたちの学力が向上・維持できているか	75.7%	82.0%	「読書は好きだ」の質問に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童・生徒の割合	教育推進課



指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(A-4) 学校の授業以外で普段（月～金曜日）、1日の勉強時間が30分未満の児童・生徒の割合	子どもたちの学力が向上・維持できているか	小学校 24.4% (全国 14.7%) 中学校 17.4% (全国 13.4%)	R10 全国平均	「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、「30分未満」「全くしない」と答えた児童・生徒の割合	教育研修センター

### 現状と課題対処すべき課題と今後の対応

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、発表したり交流したりする活動の機会が減少する中、アンケート調査においても、「子どもたちの健康状態や体力の低下」や「子どもたちの学力の低下」に不安を感じる割合が高くなっています。感染症予防対策を講じながら、学びに向かう力を養うため、学校園での取組みの充実とともに、家庭学習や基本的な生活習慣の確立に向け、計画的に家庭・地域との連携を深めながら教育活動を推進することが必要です。
- 全国学力・学習状況調査の平均正答率は、全国値には届いていませんが、生きて働く知識・技能の習得とともに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力などの育成といった「確かな学力」を育むため、「学力向上アクションプラン」の策定など、学校園全体で組織的・計画的にさまざまな学力向上の取組を進める必要があります。
- ICT 機器や学習支援ソフトを活用するための研修を各校で企画・実施したほか、各校の実態に合わせて、個に応じた指導の充実と改善を推進していますが、引き続き、これまでの実践とICTを活用しながら、多様性、包摂性を高め、一人ひとりに応じて全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現をしていく必要があります。

## 今後の方向性

- ◆学校の特色と創意を活かした適正な教育活動と実施
- ◆的確な学力実態把握と、言語活動がより充実した授業改善をとおして、「主体的・対話的で深い学び」の具現化及び一層の学力向上の取組みの充実
- ◆児童・生徒の一人一台端末及びクラウド環境を効果的に活用した教育活動の研究と実施
- ◆家庭との連携による家庭学習や生活習慣の定着に向けた取組みの充実

## 主な取組み

(1) - 1 家庭・地域との協働と検証をとおした「確かな学力」の育成

### <今後の方向性>

- ◆学校の特色と創意を活かした適正な教育活動と実施

主な取組み	取組内容	関係部署
①地域とともにある学校園づくり	学校運営について、学校、保護者家庭、地域、行政が協働し、就学前教育との連携を図るとともに、小・中学校9年間の一貫した教育を進めていくことで、多様性と包摂性がもたらす持続的な社会の発展に向けた松原市の学校教育の一層の充実を図ります。	教育推進課
②外国語活動・英語教育の指導の充実	義務教育終了段階で、身近な事柄について、英語を使ってコミュニケーションを図ることができる生徒の育成を目指し、児童・生徒が主体的に英語を活用する場面を設定するなど、言語活動の充実に積極的に取り組み、コミュニケーション能力の素地、基礎を養っていきます。 それらの取組みの推進にあたっては、外国語指導助手(A L TやJ E T-A L T)などを積極的に活用します。	教育推進課
③郷土愛を育む教育の推進	松原市の歴史、文化、産業などについて記載した副読本やさまざまな教材の継続的な活用、体験学習などをとおして、郷土愛を育みます。	教育推進課

<今後の方向性>

- ◆的確な学力実態把握と、言語活動がより充実した授業改善をとおして、「主体的・対話的で深い学び」の具現化及び一層の学力向上の取組みの充実

主な取組み	内容	関係部署
④「学力向上アクションプランアンケート」の実施と検証・改善	児童・生徒を対象としたアンケートである「学力向上アクションプランアンケート」を各学期に実施します。その結果を学校と教育委員会で共有し、学力向上の取組みを組織的に推進・検証します。	教育研修センター
⑤学力向上のための校内研究体制の充実	教職員の指導力の向上のため、各小中学校における校内授業研究の活性化及び校内推進体制の確立を図ります。教職員による相互授業参観などをはじめとした、学びあう学校文化の増進に努めます。	教育研修センター
⑥個に応じた指導の充実と改善	児童・生徒の実態や学習内容の程度に応じた習熟度別指導や教職員の専門性を生かした専科指導を推進します。また、習熟度別指導を含めた少人数授業や専科指導の実施にあたっては、その指導の効果検証に努め、その結果を活かした指導方法の工夫改善を図っていきます。	教育推進課

<今後の方向性>

- ◆児童・生徒の一人一台端末及びクラウド環境を効果的に活用した教育活動の研究と実施

主な取組み	内容	関係部署
⑦情報活用能力の育成とICTを有効に活用した教育活動の推進	児童・生徒一人一台端末をはじめとしたICT機器や、学習支援ソフトなどのアプリケーションやクラウド環境を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びにより、情報活用能力（情報モラルを含む）の育成と学力向上を実現する教育活動を推進します。	教育研修センター

<今後の方向性>

◆家庭との連携による家庭学習や生活習慣の定着に向けた取組みの充実

主な取組み	内容	関係部署
⑧放課後学習など、自学自習力の育成と家庭学習習慣の定着を図る取組みの推進	<p>自学自習力の育成と学習習慣の確立に向けて、「放課後学習などサポート事業」を実施します。児童・生徒の個々の課題に応じ、退職教員や学生アドバイザーなどの外部人材を活用した学習支援に取り組みます。また、児童・生徒一人一台端末に実装するAIドリルを活用することにより、授業中、放課後、家庭での学習をサポートします。その際、児童・生徒が家庭・保護者の協力のもと家庭学習に取り組むことができるよう、啓発に取り組みます。</p>	教育研修センター
⑨「本好きな子どもを育てる」読書環境整備・読書活動の推進	<p>知的活動の基盤となる教養・価値観・感性や言語の能力を育むため、読書環境の整備や読書活動の充実を学校、家庭、地域、読書の森（松原図書館）をはじめとした市民図書館、行政の連携により推進し、学校図書館司書を活用した図書室の機能を高めるとともに、図書室の有効活用を推進します。</p>	教育推進課

## 重点施策（２） 互いの人権を尊重し、豊かでたくましい人間性の育み

### 基本方針のねらい

子どもたちが、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通じて、答えが一つではない課題に子どもたちが向き合い、考え、行動できる力を養います。

いじめについては、**早期発見・早期対応を図るとともに、いじめの未然防止を目指した組織的な取組を進め、すべての子どもたちが安心して生活し、学ぶことができる学校づくりを進めます。**子どもたちの人間関係づくりの取組みを充実させるとともに、組織的な対応による早期発見・早期対応を図り、すべての子どもたちが安心して生活し学ぶことのできる学校園づくりを進めます。

また、子どもたちや保護者の抱える様々な課題の未然防止・早期発見・早期解決に向け、関係機関との連携やキンダーカウンセラー、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家の活用を図り、支援体制の充実を図ります。

さらに、運動機会の確保や食育の充実に努め、児童・生徒の体力の向上及び健康の保持・増進を図り、豊かな生活を送るための基礎を培います。

### 指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(B-1) 自分には、よいところがあると思う児童・生徒の割合	子どもたちの自己肯定感が育成されているか	小学校 75.5% (全国 79.3%) 中学校 74.0% (全国 78.5%)	R10 全国平均	「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童・生徒の割合	教育推進課

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(B-2) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童・生徒の割合	自他の人権を尊重する教育が進められているか	小学校 95.3% (全国 96.8%) 中学校 96.7% (全国 96.4%)	100.0%	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童・生徒の割合	教育推進課
(B-3) 朝食を毎日食べている児童・生徒の割合	健やかな体を育てる教育が推進されているか	小学校 91.7% (全国 94.4%) 中学校 86.7% (全国 91.9%)	R10 全国平均	「朝食を毎日食べていますか」という質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童・生徒の割合	教育推進課
(B-4) 公立幼稚園の園庭開放などの子育て支援事業に係る事業の参加者数	幼稚園が家庭や地域に開かれているか	1,023 人	720 人	事業への参加者を集計	子ども施設課 子育て支援課
(B-5) 将来の夢や目標をもっている子どもの割合 <b>新規</b>	子どもたちが将来へのビジョンを持っているか	小学校 77.7% (全国 79.8%) 中学校 66.8% (全国 67.3%)	R10 全国平均	「将来の夢や目標をもっている」の質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童・生徒の割合	教育推進課
(B-6) 人の役に立つ人間になりたいと思う子どもの割合 <b>新規</b>	子どもたちの自己有用感が育成されているか	小学校 93.5% (全国 95.1%) 中学校 94.9% (全国 95.0%)	R10 全国平均	「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童・生徒の割合	教育推進課

## 対処すべき課題と今後の対応

- 全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査では、特に、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童・生徒の割合において、高い水準を維持することができました。しかし、コロナ禍における「子どもたちの教育について不安を感じていること」についてのアンケート調査では、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が高くなっており、力を入れるべき教育施策や教育事業については、「悩みがある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる」「いじめや不登校などの未然防止に関する生徒指導の充実を図る」などが挙がっています。今後も「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止を第一に、発生した際の早期発見・早期対応に取り組んでいくことが必要です。
- 学校教育で身につけるべき能力や態度については、身につけており、重要性も高い項目として、「善悪を判断する力」「他者に対する理解と思いやりや優しさ」「人間関係を築く力」などとなっている一方、身につけていないが、重要性は高い項目として、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が挙げられています。子どもたちの規範意識、自尊感情、主体的に判断し適切に行動する力を育むための道徳教育、人権教育が重要です。
- キャリア教育の充実では、児童・生徒が自己肯定感や自己有用感をもって、自らの生き方についての夢や希望を育むことができる取組みを推進することができましたが、コロナ禍において、職場体験の開催が難しくなっていることから、職場体験に代わる体験活動などの検討が必要です。
- 就学前教育の充実では、キンダーカウンセラーを配置し、園児だけでなく、子育てや指導方法に悩みや不安を抱える保護者や教職員への相談活動を継続して行うことができました。学校教育ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる相談を実施しています。今後も、より相談しやすい環境整備のために、取組みの継続が必要です。

## 今後の方向性

- ◆児童・生徒の豊かな心を育てる道徳教育の充実
- ◆全校的な生徒指導体制の充実及び家庭・地域・関係諸機関との連携強化とネットワークの構築による開かれた生徒指導の推進
- ◆発達支持的生徒指導を中心とし、いじめ・不登校などの生徒指導上の課題への組織的対応を推進

- ◆不登校の未然防止として魅力的な学校づくりに取り組むとともに、児童生徒の状況をつかみきめ細やかな対応に努める
- ◆人権尊重の理念に基づいた人権教育の推進
- ◆「ともに学び、ともに育つ」視点に立った支援教育の充実
- ◆児童・生徒の夢や希望を育む進路指導・キャリア教育の充実
- ◆就学支援や相談体制の充実
- ◆食育や健康教育、そして体力づくりの推進
- ◆子どもの豊かな心や生きる力の基礎を培う取組の推進



## 主な取組み

### (2) - 1 規律・規範の確立と「ともに学び、ともに育つ」学校づくり

#### <今後の方向性>

#### ◆児童・生徒の豊かな心を育てる道德教育の充実

主な取組み	内容	関係部署
①道德教育の充実	道德教育については、学校園の教育活動全体を通じて、計画的・発展的に行い、幼児・児童・生徒の豊かな人間性の育成に努めます。また、「特別の教科 道德」を通じて、児童・生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成し、その評価のあり方の検討、実施に努めます。	教育推進課

#### <今後の方向性>

#### ◆全校的な生徒指導体制の充実及び家庭・地域・関係諸機関との連携強化とネットワークの構築による開かれた生徒指導の推進

主な取組み	内容	関係部署
②生徒指導の充実・強化	生徒指導上の課題については、全教職員が一致協力した生徒指導・生徒理解体制を確立し、未然防止や初期対応にあたりとともに発達支持的生徒指導を行い、再発防止に取り組みます。また、学校全体として、情報の共有、日常から報告・連絡・相談体制を構築するとともに、必要に応じて関係諸機関との連携した対応に努めます。	教育研修センター

#### <今後の方向性>

#### ◆発達支持的生徒指導を中心とし、いじめ・不登校などの生徒指導上の課題への組織的対応を推進

#### ◆不登校の未然防止として魅力的な学校づくりに取り組むとともに、児童生徒の状況をつかみきめ細やかな対応に努める

主な取組み	内容	関係部署
③いじめの未然防止及び早期解決や不登校に対する組織的対応の推進	「いじめ防止対策基本方針」に即して、いじめの未然防止、早期発見に努め、事実を正確に把握した上で、迅速かつ適切に対応し、早期解決に努めます。 不登校については、日頃から安心して過ごすことができる魅力ある学校づくりに取り組むとともに、児童・生徒の状況の把握に努め、家庭訪問を行うなどきめ細やかな対応に努めます。また、校内不登校支援会議などを定期的・継続的に開催し、関係機関との連携も含め組織的に取り組みます。	教育研修センター

<今後の方向性>

◆人権尊重の理念に基づいた人権教育の推進

主な取組み	内容	関係部署
④人権尊重の教育の徹底	同和問題をはじめ、子ども、男女平等など、性的マイノリティ、障がい者、在日外国人などに係るさまざまな人権問題の解決に向け、教職員が人権尊重の理念について十分に認識し、取り組んでいきます。また、教育活動全体を通じた計画的な人権教育の推進により、人権尊重の理念に基づいた学級・学校づくりに努めます。	教育推進課

<今後の方向性>

◆「ともに学び、ともに育つ」視点に立った支援教育の充実

主な取組み	内容	関係部署
⑤「ともに学び、ともに育つ」支援教育の推進	全ての幼児・児童・生徒、教職員及び保護者と地域住民に対し、支援教育の理解と啓発を推進させ、「ともに学び、ともに育つ」という観点からの学校づくりや集団づくりを進め、障がい者の人権が尊重される学習活動を一層推進していきます。 また、「ともに学び、ともに育つ」教育の実現に向け、教育支援員や介助員、医療的ケア看護師の配置など、必要な合理的配慮に取り組めます。	教職員課 教育推進課

<今後の方向性>

◆児童・生徒の夢や希望を育む進路指導・キャリア教育の充実

主な取組み	内容	関係部署
⑥キャリア教育の充実	児童・生徒の発達段階に応じ、自分の人生を自分らしく幸せに生きていけるという視点に基づいたキャリア教育を系統的・継続的に行うように努めるとともに、小学校段階から校内進路指導体制を整備し、特に児童・生徒が自信や自己有用感をもって、自らの生き方についての夢や希望を育むことができる取組みを推進します。	教育研修センター

<今後の方向性>

◆就学支援や相談体制の充実

主な取組み	内容	関係部署
⑦教育相談・支援体制の充実	<p>スクールサポーター・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどを配置し、児童・生徒、保護者、教職員などの相談や支援を行うとともに、教育的ニーズの的確な把握と、就学に関する適切な説明や多様な情報提供に努めます。</p> <p>経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し就学援助を実施するなど、経済的負担の軽減を図ります。</p>	<p>教育研修センター 教職員課</p>

<今後の方向性>

◆食育や健康教育、そして体力づくりの推進

主な取組み	内容	関係部署
⑧体力の向上と健康教育の充実	<p>学校園の教育活動全体を通じて、幼児・児童・生徒の発育・発達段階に応じた健康教育、各小中学校における「体力づくり推進計画の策定」による体力づくりを進めるに当たっては、家庭や地域社会と連携し組織的・計画的に実施していきます。また、薬物乱用防止教育やがん教育などを進めるとともに、児童・生徒の体力・運動能力の実態を把握し、体育の授業をはじめ体育的行事・部活動などのさまざまな機会をとらえて運動する習慣を育むとともに、体力・運動能力の向上に努めます。</p>	<p>教育推進課</p>
⑨給食を活用した学校全体での食育の取組み	<p>児童・生徒の健康と体力の基礎となる食に関する指導については、学校給食センター、栄養教諭、栄養職員、養護教諭と積極的に連携し、給食指導をはじめ、各教科、「総合的な学習の時間」などを積極的に活用し、学校全体で取り組むとともに、小中学校の連携した食育の取組みにも努めます。</p> <p>さらに、家庭での朝食の喫食や望ましい食習慣・生活習慣などについて、家庭・保護者への啓発にも取り組みます。</p>	<p>学校給食課 教育推進課</p>

<今後の方向性>

◆子どもの豊かな心や生きる力の基礎を培う取組の推進

主な取組み	内容	関係部署
⑩国際相互理解や相互信頼を深める取組み	<p>友好交流協定を結んでいる「台湾台北市文山区」をはじめとした諸外国や地域などとの友好・文化交流活動などの推進や、国際交流キャンプの充実を図ります。また、海外からの帰国・編入した児童・生徒について、校園内への受け入れ体制の充実に努めるとともに、相互理解や相互信頼を深めながら、日本や松原の良さを発信できるよう、工夫していきます。</p> <p>さらに、在住外国人が日本語の読み書きを学び、地域住民と交流できる居場所として「国際広場“もめん”」<b>「で愛教室」</b>を案内していきます。</p>	<p>教育推進課 市民協働課</p>

(2) - 2 子ども・子育て支援施策の充実

<今後の方向性>

◆子どもの豊かな心や生きる力の基礎を培う取組の推進

主な取組み	内容	関係部署
①就学前教育の充実	<p>生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な幼児期の教育において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』」を大切にしたい保育の実現を図ります。そのために、地域人材の活用促進や教職員研修を実施します。また、就学前教育と小学校教育の円滑な接続のために、小学校とのスムーズな連携をめざします。</p>	<p>子ども施設課 教育研修センター</p>
②家庭、地域の連携と子育て支援の充実	<p>家庭との連携を深め、子育て支援策の充実を図るため、子育て相談などにおいて、公立幼稚園が家庭や地域に一層開かれたものとなるように、創意工夫を活かした取組みを積極的に行います。また、在宅で子育てをしている保護者の園庭開放事業への参加促進に向けて、ニーズの調査や周知・啓発を行います。</p>	<p>子ども施設課 子育て支援課</p>

## 基本方針 2 安心・安全に学ぶことができる学校園づくりを推進します

### 重点施策（１） 安心・安全な学校園づくりの推進

#### 基本方針のねらい

質の高い教育環境の実現のために、多様な学習活動に対応した学校施設の質的改善を進め、良好な学習環境の整備・充実を目指します。また、各学校の施設・設備について、予防保全の考えによる維持管理等により、将来にわたり安全・安心な環境を確保します。

子どもたちの情報活用能力の育成及び学校の情報化を図るために、情報機器や情報ネットワークなど、学校のICT環境の充実を図ります。

さらに、本市の特徴でもある「インターナショナルセーフスクール（ISS）」の取組みを、学校、家庭、地域、行政で協働して推進します。

#### 指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(C-1) トイレ改修率	学校施設の設備が時代の変化に対応しているか	91.0%	95.0%以上	小中学校のトイレ全室のうち、便器の入替等の改修を行ったトイレの室数の割合	教育総務課
(C-2) トイレ洋式化率	学校施設の設備が時代の変化に対応しているか	47.3%	59.0%以上	小中学校の全トイレの大便秘器数のうち洋式便器の占める割合	教育総務課
(C-3) 公立認定こども園の開設数	幼稚園と保育所の機能を兼ね備えかつ子育て支援に対応しているか	1	2	公立認定こども園の開設状況	子ども施設課
(C-4) 大規模改造率	学校施設の設備が時代の変化に対応しているか	82.0%	85.0%以上	小中学校のうち、改造済みの校舎面積の割合	教育総務課
(C-5) 学校における受傷率	学校の安全性が確保されているか	6.1%	4.0%未満	ISS取組みによる受傷率（全校生徒のうち、学校でのけが等で通院した割合）	教育推進課

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(C-6) 児童・生徒に 安心・安全な 給食を安定し て提供してい る割合	安心・安全な 学校給食が提 供されている か	100.0%	100.0%	(安心・安全 な給食の提供 日) ÷ (給食実 施日)	学校給食課

### 対処すべき課題と今後の対応

- 各小中学校のトイレ改修工事、空調機の設置、ICT機器など整備について計画的に整備をすすめています。学校園教育における現在の取組みについては、“そう思わない”の割合が高いのは「小学校・中学校の施設・設備が充実している」となっています。今後も引き続き、インターネット環境なども含め整備を進めていくことが必要です。
- 市立小学校セフティスクールサポート事業により、受付対応することで不審者の侵入を未然に防止するよう対策し、安全な学習環境を確保できていますが、力を入れるべき教育施策や教育事業については、“必要である”の割合が高いのは「防災・防犯教育を充実し、安心安全な学校づくりを推進する」となっています。自ら身を守る能力や態度を育成する防災・防犯教育、充実を図るとともに、児童の安全な学習環境を確保する為、今後も継続して学校への不審者侵入の未然防止が重要です。

### 今後の方向性

- ◆今後の少子化に対応し、学校施設のあり方についての調査研究
- ◆子どもたちの生活の場として、より安全で快適な学習環境の整備
- ◆学校園内外における幼児・児童・生徒の安全確保、学校園の安全管理
- ◆全中学校区の子どもたちの主体的な活動によるインターナショナルセーフスクールの取組の推進
- ◆衛生管理の徹底による安心・安全な学校給食を食育の観点を踏まえた生きた教材として提供
- ◆家庭や地域と一緒に安心・安全な学校づくりの推進

## 主な取組み

### (1) - 1 学習環境の充実

<今後の方向性>

◆今後の少子化に対応し、学校施設のあり方についての調査研究

主な取組み	内容	関係部署
①学校における教育環境などの調査研究と整備	少子化など将来を見据えた本市の今後の学校や学習内容に合わせ、小学校の小規模化への対応について、調査研究を進めるとともに、学校施設の経年による老朽化の状況を調査し、その結果により大規模改造など安全で快適な学習環境の整備を行います。 また、情報ネットワークやセキュリティ環境の充実など、学校のICT環境の充実を図ります。	教職員課 教育総務課

<今後の方向性>

◆子どもたちの生活の場として、より安全で快適な学習環境の整備

②各小中学校のトイレ、空調設備などの整備	学校は、児童・生徒の1日の多くを過ごす生活の場であることから、身体障がい者や性的マイノリティへの合理的配慮の観点から多目的トイレの整備やトイレの洋式化・乾式化による明るく使いやすいトイレの整備や、より快適な空調環境その他の環境整備を図ることにより、引き続き学習環境の改善に取り組みます。	教育総務課
----------------------	---	-------

### (1) - 2 安心・安全な学校園づくり

<今後の方向性>

◆学校園内外における幼児・児童・生徒の安全確保、学校園の安全管理

◆全中学校区の子どもたちの主体的な活動によるインターナショナルセーフスクールの取組の推進

主な取組み	内容	関係部署
①セーフスクールの推進	体および心のけがの原因となる事故、暴力などを予防することによる安全で健やかな学校づくりを児童・生徒が自ら進める活動である「インターナショナルセーフスクール(ISS)」の取組みを、学校、家庭、地域、行政の協働により全中学校区でさらに推進していきます。	教育推進課
②学校施設の点検・整備	専門の有資格者による法定点検及び法定外点検を実施し、結果を踏まえ改修・修繕などを行うことで安心・安全な学習環境の整備に取り組みます。	教育総務課

主な取組み	内容	関係部署
③各幼稚園施設の更新	「子ども・子育て支援新制度」の趣旨を踏まえ、幼保の一体化により、幼稚園と保育所の機能を兼ね備えかつ子育て支援にも力を注ぐ「幼保連携型認定こども園」を基本モデルとし整備していきます。	子ども施設課
④学校の危機管理体制の確立及び防災・防犯に関する教育の充実	東日本大震災をはじめとする災害の教訓に学び、さまざまな事態を想定した危機管理体制の確立が求められていることから、地震、洪水時などの災害及び万一の事故・事件に対応できるよう、各学校において危機管理マニュアルを作成し、実践的な訓練を実施します。 加えて、洪水浸水想定区域内に該当する場合は、避難確保計画の作成、及び洪水浸水を想定した訓練を実施します。その訓練については必要に応じて地域・家庭・行政と連携して実施するとともに、引き続き小学校区単位の地域防災訓練を計画的に実施していきます。 児童・生徒が災害などの危機事象に対応できるよう、警察など、関係機関と連携し、防災・防犯に関する教育の充実を図ります。	教育推進課
⑤管理員配置や防犯カメラ維持更新などによる安全管理の充実	市立小学校の安全環境を確保するため、全校の校門に管理員の配置を継続します。さらに、各小中学校校門などに設置した防犯カメラの更新などを行い、安全管理の充実を図ります。	教育総務課

#### <今後の方向性>

- ◆衛生管理の徹底による安心・安全な学校給食を食育の観点を踏まえた生きた教材として提供

主な取組み	内容	関係部署
⑥安心・安全な学校給食を生きた教材として安定的に提供	厚生労働省が定める「大量調理施設衛生管理マニュアル」及び文部科学省が定める「学校給食衛生管理基準」などを遵守し、衛生管理の徹底及び食中毒の発生防止に努めるとともに、学校給食法に基づき食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材としても安定的に提供していきます。また、アレルギーへの適切な対応に努めます。	学校給食課



<今後の方向性>

◆家庭や地域と一緒に安心・安全な学校づくりの推進

主な取組み	内容	関係部署
⑦地域の協力団体との連携の推進	子どもたちの安心・安全については、地元警察など関係機関と連携し、危険箇所における安全対策など、一層の安全確保に努めていきます。保護者や「子ども安全見守り隊」など学校園支援のボランティア、青色防犯パトロール、地域の関係団体などの協力を得て、登下校時などにおける児童の見守り活動を進めます。	教育総務課 教育研修センター 地域教育課

重点施策（２） 持続可能な学校園運営体制の充実と教職員の資質向上

基本方針のねらい

子ども一人ひとりの個性や能力、可能性を伸ばし育てるとともに、様々な教育課題に適切に対応できるよう、授業力や多様な教育課題への対応力など、教職員の資質と実践的指導力の向上に取り組みます。

また、教員業務の見直し、専門家や地域人材の活用など、業務の効率化を図り、教職員一人ひとりの心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備し、教職員の長時間勤務の削減及び教員が子どもとじっくり向き合える開かれた学校園づくりを整備します。

指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(D-1) 授業の内容がわかる児童・生徒の割合	授業が改善がされているか	小学校 76.1% (全国 81.2%) 中学校 75.1% (全国 76.2%)	R10 全国平均	「算数(数学)の授業の内容がわかる」児童・生徒の割合	教育推進課
(D-2) 市主催研修が充実していたと考える参加者の割合	教職員の研修体制が充実しているか	95.1%	96.0%	市主催研修において「研修は充実していたか」の質問に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた参加者の割合	教育研修センター

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(D-3) 学級運営の状況や課題を共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合	教職員が意欲を持てる学校運営がされているか	100.0%	100.0%	「前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、(学校管理職)とともに問題解決に当たることを行いましたか」の質問に年に数回程度以上行ったと答えた学校の割合	教育研修センター

### 対処すべき課題と今後の対応

- 全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査では、授業の内容がわかる児童・生徒の割合については、特に中学校において、授業改善の効果が見られました。また、教職員研修については、様々なキャリアステージに合わせた市独自の研修を実施することができ、それによって教職員の資質・指導力の向上を図ることができました。子どもを取り巻く環境の変化に適切に対応できる教職員として求められる資質を育成するため、様々なキャリアステージに応じた教職員の資質・指導力の向上の継続が重要です。
- 学校園教育における現在の取組みについては、“そう思わない”の割合が高いのは「学校園は地域に開かれ、地域ぐるみで子どもの教育が行われている」となっています。社会に開かれた学校づくりを推進していくため、学校などの情報の積極的な発信が必要です。

### 今後の方向性

- ◆教職員の資質・能力の向上に資する研修体制の充実
- ◆学校における「働き方改革」の推進と教職員の服務規律の徹底
- ◆効果的な情報発信

## 主な取組み

### (2) - 1 学校園運営体制の確立と開かれた学校園づくり

#### <今後の方向性>

#### ◆教職員の資質・能力の向上に資する研修体制の充実

主な取組み	内容	関係部署
①経験年数の少ない教職員を対象にした育成の強化	初任者の訪問指導及び研究授業、2年目以降の年次研修などを活用し、教職経験年数の少ない教職員の育成を重点的にを行います。OJTによる教職員の育成ができるよう、教育委員会と学校が連携し、組織的・継続的な体制づくりに努めます。	教育研修センター
②多様な研修への積極的な参加と全ての教職員の資質向上	松原市教育委員会や大阪府教育センターが開催する職階別研修をはじめ、授業づくり研修、生徒指導研修などのテーマ研修、人権教育研修などへの積極的な参加を促すことにより、教職員の資質向上に努めます。また、松原市人権教育研究会、松原市教育研究会などでの研修の機会を活用して、教職員の人権感覚の育成や指導力の向上を図ります。	教育研修センター

#### <今後の方向性>

#### ◆学校における「働き方改革」の推進と教職員の服務規律の徹底

主な取組み	内容	関係部署
③学校における「働き方改革」の推進	校務支援システムを活用して業務の効率化を図るとともに、学校閉庁日や校内一斉退勤日、中学校部活動の休養日を設定するなどして、長時間勤務の縮減をします。専門家やボランティアなどの外部人材を活用し、教職員の負担を軽減します。 また、教育公務員として、服務規律の徹底と個々の規範意識の高揚に努めるとともに、全教職員が意欲を持ち、風通しがよく活気に満ちた学校運営を心がけます。	教職員課

#### <今後の方向性>

#### ◆効果的な情報発信

主な取組み	内容	関係部署
④学校園だより・校園長だより・ホームページの充実など、積極的な情報発信	児童・生徒の学力向上はもとより、学校園の教育活動をより効果的にするためにも、情報発信の重要性を認識し、ホームページの充実とともに、学校園だより・校園長だよりなどにより、保護者への啓発を積極的に行います。	教育推進課 子ども施設課

## 基本方針 3 学びや育ちを支えるための地域における協働の取組みを推進します

### 重点施策（１） コミュニティ・スクールの推進及び学校園と地域の協働による家庭教育支援

#### 基本方針のねらい

「地域とともにある学校づくり」を目指し、学校、家庭、地域、行政などが一体となって、子どもや学校の抱える課題解決などに取り組む仕組みづくりに向け、様々な取組のさらなる連携を図りつつ、「学校運営協議会」による地域人材を活用した学校運営や主体的な参画による「地域学校協働活動」などの取組を推進します。

地域社会全体で家庭教育の支援に取り組むため、本市の実情に即した家庭教育の支援を学校、地域、行政が協働して行います。

#### 指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(E-1) 中学校区フェスタ参加人数	教育コミュニティの形成がされているか	0	35,000	各中学校に聞き取り	地域教育課
(E-2) 子ども 110 番の家に係る登録件数	放課後などにおける子どもの安全が確保されているか	1,701	1,800 件 (うち事業所 263 件)	各小学校に照会	地域教育課
(E-3) コミュニティ・スクールの認知度 <b>新規</b>	地域の教育力が向上がしているか	-	100.0%	市内各小中学校の学校自己診断アンケート	地域教育課

#### 対処すべき課題と今後の対応

- 新型コロナウイルス感染症防止のため、中学校区フェスタの中止や活動の縮小がありました。「地域の教育力」の現状について、“機能している”の割合が 27.5%と前回調査より 5.8 ポイント増加しており、学校に対しての協力については、「協力したいことはない」の割合が 26.9%と最も高くなっています。子どもとともに地域も成長する仕組みとしても機能することができるよう、地域の主体的な参加を促進し、組織的・継続的な活動の推進が必要です。

- 子ども 110 番の家に係る登録件数や子ども見守り隊の登録人数はおおむね維持することができています。学校の行き帰りにあぶない目にあったことがある児童・生徒の割合が3割以上となっています。今後も子どもの登下校や放課後における安全確保を図るため、学校・家庭・地域・行政が連携・協力して、子どもの見守り体制を充実させる必要があります。

### 今後の方向性

- ◆教育コミュニティの形成
- ◆放課後などにおける子どもの安全な居場所づくりと、体験・交流活動の充実
- ◆家庭・地域の教育力を活かした児童・生徒の「学び」と「育み」をサポートする取組の充実
- ◆地域の教育力の向上
- ◆家庭の教育力の向上
- ◆地域との協働による教育力のさらなる活性化

### 主な取組み

(1) - 1 地域の教育力の向上と教育コミュニティの育成

<今後の方向性>

- ◆教育コミュニティの形成

主な取組み	内容	関係部署
①いきいき事業の推進	地域教育協議会を核とした、各中学校区フェスタをはじめとする地域の教育力向上のためのさまざまな活動を支援し、教育コミュニティづくりの推進を図ります。	地域教育課

<今後の方向性>

- ◆放課後などにおける子どもの安全な居場所づくりと、体験・交流活動の充実
- ◆家庭・地域の教育力を活かした児童・生徒の「学び」と「育み」をサポートする取組の充実
- ◆地域の教育力の向上
- ◆家庭の教育力の向上

主な取組み	内容	関係部署
②地域の総合的教育力の向上	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の協議を通して学校・家庭・地域・行政の協働の取り組みをすすめ、地域の人材を有効に活用し、地域とともにある学校づくりを進めます。	地域教育課
③「子ども110番の家」運動の推進	市内全域で統一したプレートを使用し、数多く掲示することで、万一、子どもたちがトラブルに巻き込まれそうになった場合に、安心して家庭や事業所などに駆け込むことができる場所を提供し、安全を確保できるようにするとともに、犯罪の抑止効果をも期待して取り組んでいきます。	地域教育課

<今後の方向性>

◆地域との協働による教育力のさらなる活性化

主な取組み	内容	関係部署
④学校・家庭・地域・行政の連携による教育支援活動の促進	地域の教育力の向上と、地域の活性化のため、学校支援地域本部事業、おおさか元気広場、家庭教育支援事業を実施していきます。また、大阪府が開発した親学習教材を活用した学習会や親同士の交流の場の提供に努め、家庭教育支援の仕組みづくりを進めます。	地域教育課
⑤学校施設の開放	学校教育に支障のない範囲で学校施設の一部を地域住民に開放することにより、引き続き地域のコミュニティづくりを促進するとともに、児童及び生徒の健全育成を図ります。	地域教育課

## 重点施策（２） 青少年の健全育成の推進

### 基本方針のねらい

地域の様々な場で青少年が関われる活動の場を充実し、活動を通じて青少年の育成につなげます。

無職少年、ひきこもりなどの把握・相談、就学・就労支援を強化し、地域社会とつながりを持ち、学校や社会との関係が途切れないよう支援を行っていきます。

### 指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(F-1) 青少年指導員 の年間活動日 数	青少年の健全 育成が図られ ているか	のべ366日 (R4実績)	R4年度実績 以上	青少年指導員 の年間活動日 数	地域教育課
(F-2) 子ども安全見 守り隊登録人 数	放課後など における子ども の安全が確保 されているか	1,806人	1,800人	各小学校に照 会	地域教育課

### 対処すべき課題と今後の対応

●青少年育成については、新型コロナウイルス感染症防止のため、工夫して活動を進めてきました。松原市の生涯学習・文化の現状については、“そう思わない”の割合が高いのは「青少年が健全に育つための取組みが十分に行われている」となっています。青少年の健全育成を図るため、様々な状況下でも工夫して活動ができるよう、取組みを継続していくことが必要です。

### 今後の方向性

- ◆青少年指導者・団体などの育成
- ◆課題を抱えた青少年の自立支援
- ◆青少年に関する施設の利活用

## 主な取組み

### (2) - 1 地域で取り組む青少年の健全育成

<今後の方向性>

#### ◆青少年指導者・団体などの育成

主な取組み	内容	関係部署
①青少年健全育成団体の活動支援	青少年の健全育成を図っていくための各種団体活動を支援し、青少年指導員の活動を推進します。	地域教育課

<今後の方向性>

#### ◆課題を抱えた青少年の自立支援

主な取組み	内容	関係部署
②青少年対策会議の活用	青少年の健全育成並びに課題を抱えた青少年の自立支援を図るため、関係団体が情報交換を行い、それぞれの取組みに資する場として、青少年対策会議を活用します。	地域教育課

<今後の方向性>

#### ◆青少年に関する施設の利活用

主な取組み	内容	関係部署
③少年自然の家の利活用	令和4年4月1日から施設利用を休止しており、利活用について検討します。	いきがい学習課



## 基本方針 4 郷土への愛着を深めるとともに

誰もが学び続けられる機会を提供します

### 重点施策（１） 生涯学習の機会の拡充と歴史・文化の振興

#### 基本方針のねらい

あらゆる市民に生涯にわたって学びの機会を提供できるよう、多様化する学習活動を支える生涯学習関連施策の充実を図ります。

市の貴重な文化遺産を後世に残し、伝えていくために、調査・研究を進め、その保護に努めるとともに、地域社会総がかりで保全と継承に取り組んでいきます。

#### 指 標

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(G-1) 松原市生涯学習地域サポーター(“まっcom”)の登録件数	市民の生涯学習が支援されているか	126 件	170 件	年度末登録件数	いきがい学習課
(G-2) 公民館などでの講座参加者数	ニーズに合った多様な学習機会の提供がされているか	2,339 人	3,200 人	延参加者数	いきがい学習課
(G-3) 市民図書館における児童書の貸出冊数	市民図書館が子どもたちに利用されているか	13.9 冊	15.1 冊	(児童書の貸出冊数)÷(9月末時点の15歳未満人口)	いきがい学習課
(G-4) 市民図書館と連携を実施した学校園数	市民図書館と学校との連携がとれているか	小学校 13 校 中学校 1 校 幼稚園 0 園	小学校 15 校 中学校 7 校 幼稚園 3 園	市立小学校・中学校・幼稚園等の図書館資料団体貸出・図書館訪問・職場体験などの利用状況	いきがい学習課
(G-5) 指定文化財指定数(累計数)	文化財のさらなる保護・活用が進んでいるか	9 件	12 件	重要な文化財の保護・活用を図るために市が指定した文化財の件数	文化財課

指標名	指標の考え方	現状値 (R4)	目標値 (R10)	測定の方法	関係部署
(G-6) 歴史・文化関連の講座などの実施回数	歴史・文化遺産を活用し歴史的価値の発信が行えているか	13回	17回	郷土の歴史・文化に理解を促すための講座・体験・展示・公開などを文化財担当部局および社会教育系施設が実施した回数	文化財課
(G-7) 歴史・文化関連の講座などの参加者数 <b>新規</b>	郷土への愛着が育まれているか	279人	291人	文化財課および社会教育系施設が郷土の歴史・文化に理解を促すために実施した講座・体験・展示・公開などの参加者数	文化財課
(G-8) 歴史・文化関連の刊行物データの年間ダウンロード数 <b>新規</b>	郷土への愛着が育まれているか	約4,300回	6,500回	文化財関連刊行物の電子データが閲覧・ダウンロード可能なりポータル「全国遺跡報告総覧」からの年間ダウンロード数	文化財課

### 対処すべき課題と今後の対応

- 新型コロナウイルス感染症防止のため、公民館などでの講座、図書館資料の団体貸出、文化祭、歴史文化関連の講座、郷土資料館の入館者数などに影響がでましたが、さまざまな工夫をしながら事業の継続を行っています。今後も、多くの市民が学習活動を継続できるように、新型コロナウイルスの感染症防止措置を図りながら、事業の継続を行うことが必要です。
- 生涯学習・文化活動の希望については、“してみたい”の割合が高いのは「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」「パソコン・インターネットに関すること」「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」となっています。生涯学習・文化活動をより充実させていくために必要な取組みについて、「コンサートや演劇などの機会の充実」「文化・芸術を気軽に学べる教室の開催」「文化・芸術施設や設備の充実」などとなっています。学びなおしについては、「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が43.6%と最も高く、「今後

学習してみたい」の割合が19.0%となっています。多くの市民が生きがいを持って心豊かに暮らしていけるよう、市民のニーズに合った内容を行うことが必要です。

- 市にとって重要な文化財を指定し、文化財保護の普及啓発のため、市ウェブサイトにおいて「まつばら文化財デジタルアーカイブ」として二次利用可能なデータの公開を開始しました。今後も、引き続き社寺など文化財総合調査を実施し、文化財の新たな発見に努め、市民への周知と指定及び保存措置が必要です。

### 今後の方向性

- ◆生涯学習の場とニーズに合った多様な学習機会の提供
- ◆公民館や図書館事業の充実
- ◆各世代における生涯学習の充実
- ◆生涯学習に関する情報提供
- ◆図書館サービスの推進
- ◆市民が自ら学び、考え、判断し、行動するためのさまざまな資料・情報の提供
- ◆学校園・地域・市民図書館との協働による子どもの読書活動の推進
- ◆多様化する市民ニーズに対応した文化・芸術の振興の推進
- ◆市内全域の文化財調査を実施することによる新たな文化財の発見と再評価
- ◆指定文化財を後世に継承するための所有者に対する修理・管理など保存上必要な指導・助言の推進
- ◆学校教育との連携や文化財の展示公開、各種イベントなど文化財に親しむ機会の充実と文化財愛護意識の向上
- ◆市内遺跡の発掘調査の成果を活かした保存・活用の取組みの促進
- ◆収蔵・保管する出土品の貸出や展示を行うことによる身近に触れる機会の充実

## 主な取組み

### (1) - 1 生涯学習の充実と「智の拠点」づくり

<今後の方向性>

- ◆生涯学習の場とニーズに合った多様な学習機会の提供
- ◆公民館や図書館事業の充実
- ◆各世代における生涯学習の充実
- ◆生涯学習に関する情報提供
- ◆図書館サービスの推進
- ◆市民が自ら学び、考え、判断し、行動するためのさまざまな資料・情報の提供
- ◆学校園・地域・市民図書館との協働による子どもの読書活動の推進
- ◆多様化する市民ニーズに対応した文化の振興の推進

主な取組み	内容	関係部署
①松原市生涯学習地域サポーター（通称：まっcom）の活用	さまざまな知識・技術・経験を持っている人に、支援・指導者として登録していただき、学校・PTA・市民向けの講座・地域活動など市民の生涯学習を支援するため、それらの場へ派遣します。	いきがい学習課
②地域・家庭の教育力の向上	子育て中の親向けの講座や公民館を身近に感じてもらい、自主的に学び合い、自分を表現することや、地域の人とのつながりを深めるための講座を開催します。	いきがい学習課
③地域の仲間づくり	公民館教室を通じてさまざまな世代が集い、学び合うことで、世代間の交流や仲間づくりの場を提供していきます。また、シニア世代の生きがいづくりや交流の場を広げる機会を提供していきます。	いきがい学習課
④公民館グループ活動の促進	公民館を利用して社会教育活動を行っているグループの自立のために、さらなる学習を支援していきます。	いきがい学習課
⑤読書環境の充実	読書の森（松原図書館）を中核とした、市民図書館でのさらなる読書環境の充実を図り、すべての世代の市民が行きたくなる図書館を目指します。	いきがい学習課
⑥市民図書館における乳幼児向けサービスの充実	えほんのゆりかごやおはなし会など乳幼児向けサービスをボランティア団体と協力しながらさらに充実していきます。また子育て支援センターなどと連携し、子育て支援に関する情報提供ができるよう、パンフレットやイベントの案内を配布するなど工夫をしていきます。	いきがい学習課
⑦市民図書館と学校との連携の推進	学校では所蔵していない本や調べ学習用図書の団体貸出をするなど子どもの読書に関わる支援を行います。また、図書館見学や司書体験などを通じて子どもたちに図書館の利用の仕方をアドバイスしていきます。	いきがい学習課

主な取組み	内容	関係部署
⑧図書館ボランティアの養成	本の修理、目の不自由な人への録音資料の作成や子どもたちへの絵本の読み聞かせなどを実施できるボランティアを養成し、図書館事業の充実を市民と協働で行い、参加するボランティア自らの生きがい発見に寄与します。	いきがい学習課
⑨市民図書館におけるレファレンスサービスの広報	松原市の所蔵資料だけでなく、大阪府立図書館や国立国会図書館、その他全国の図書館との連携により市民の希望する資料を提供するなど、利用者の拡大に努めていきます。	いきがい学習課

## (1) - 2 文化財の保存と活用

### <今後の方向性>

#### ◆市内全域の文化財調査を実施することによる新たな文化財の発見と再評価

主な取組み	内容	関係部署
① 地域文化財の保存	市内に所在する社寺などで守り継がれてきた地域の文化財について、現状を把握し基礎的なデータを整備するため社寺などの総合調査を行います。調査により歴史的・学術的価値が明らかになった文化財のうち特に重要なものについては、条例による指定を行い保存措置を講じます。	文化財課

### <今後の方向性>

#### ◆指定文化財を後世に継承するための所有者に対する修理・管理など保存上必要な指導・助言の推進

主な取組み	内容	関係部署
② 埋蔵文化財の保存	開発により現状のまま保存できない埋蔵文化財（遺跡）の発掘調査を実施し、調査記録と出土品の整理後に調査報告書を作成します。また、調査記録と出土品は国民共有の財産として広く公開できるよう適正な収蔵と保管に努めます。	文化財課

<今後の方向性>

- ◆学校教育との連携や文化財の展示公開、各種イベントなど文化財に親しむ機会の充実と文化財愛護意識の向上

主な取組み	内容	関係部署
③ 歴史・文化への理解促進	郷土の歴史・文化への理解を促すため、文化財の展示や講座などを行います。また、インターネットを活用し日本遺産「竹内街道」や指定登録文化財を主体とした文化財の情報発信にも取り組みます。さらには、幅広い層への周知を目的に文化財を学校教育および社会教育に活用し、郷土資料館など文化施設と連携するよう努めます。	文化財課

<今後の方向性>

- ◆市内遺跡の発掘調査の成果を活かした保存・活用の取組みの促進
- ◆収蔵・保管する出土品の貸出や展示を行うことによる身近に触れる機会の充実

主な取組み	内容	関係部署
④文化財を活用した取組みの支援	文化財を活用した取組みは、参加者だけでなく主催者にも地域の歴史・文化への理解と愛着を深める効果があるため、ボランティアガイドをはじめ市民や各種団体による文化財を活用した取組みを支援します。また、支援の一環として文化財の画像データなどを二次利用可能なライセンスを付与しインターネット上で提供します。	文化財課

### 3 第2期松原市教育振興基本計画の総括

---

## 1 進捗状況の点検・評価と計画の周知

本計画を効果的かつ着実に進行するためには、計画の定期的な点検と評価を基にした改善が不可欠です。そのために、前計画より引き続き、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のマネジメントサイクルを踏まえ、本計画に位置付けた各種施策の成果や課題について、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、主な事業の実施状況を点検・評価し、公表するとともに、その結果を施策の展開に反映させながら、効率的かつ効果的に推進します。

また、計画の着実な推進を図るため、計画に掲げた基本理念や基本方針などが教育関係者や保護者をはじめ市民に幅広く理解されるよう、内容の周知に努めます。

## 2 庁内及び関係機関などとの協働による計画の推進

本計画に掲げられた施策を総合的に推進していくため、今後も関係部局との連携・協力を密にし、効果的な施策を展開するとともに、家庭・地域・学校などはもとより、ボランティア、NPO、大学や企業など多様な主体との協働により、教育のさらなる充実を目指します。

## 3 新たな検討が必要となる課題への対応

計画期間内においては、社会全体や教育を取り巻く状況の急速な変化に対応していくため、新たに検討や対策が必要となる場合が想定されます。また、本市の教育に影響を与える国や府などの動向についても注視していく必要があります。

これらを踏まえた上で、適時、計画内容の見直しや新たな対策の検討などを行い、必要な施策を展開していきます。



